

静岡県立美術館年報

平成17年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF
ART
2005

静岡県立美術館年報
平成17年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2005

目次

平成17年度主要記事	4	展覧会出品目録	
展覧会活動 展覧会一覧	6	物語のある絵画	78
観覧者数一覧	7	文人の夢・田能村竹田の世界	80
(企画展)		誘惑の光景	83
物語のある絵画	8	花鳥風月	88
文人の夢・田能村竹田の世界	10	静岡ゆかりの画家たち	89
誘惑の光景	12	美術の20世紀展	91
花鳥風月	13	アルタイの至宝展	94
静岡ゆかりの画家たち	14	静岡ニューアート展	99
(特別展)		収蔵品展	101
美術の20世紀	15	我が愛しのコレクション	107
アルタイの至宝展	16	移動美術館	111
静岡ニューアート展	18	管理運営	
収蔵品展	21	関係法規	112
我が愛しのコレクション	23	組織・名簿	119
移動美術展	24	歳入・歳出決算	120
教育普及活動		建築・設備概要	121
(一般向け) 講演会	26	利用案内	127
美術講座	27		
技法セミナー	29		
ギャラリートーク	30		
実技講座	33		
自由工房	34		
(子ども向け) 自由工房	35		
ワークショップ	36		
学校向け	37		
博物館実習	41		
対外活動(講座など)	43		
主要刊行物	45		
美術館ニュース「アマリリス」	46		
施設利用状況	47		
広報活動(含むHP)	49		
調査研究活動			
紀要の発行	50		
研究活動	51		
研究会	52		
各種資料整理	55		
収集活動と保存管理			
平成17年度新収蔵品	57		
収集点数一覧	61		
図書資料の収集整理(映像資料の収集)	62		
館蔵品の貸し出し	63		
美術作品の補修	67		
保存活動	68		
美術館ボランティア・広報サポーター	70		
友の会活動	72		
評価活動	76		

平成17年度主要記事

- | | | | |
|------|--|-------|--|
| 4月2日 | フロアレクチャー「美術でつづる10の物語」展 飯田真、山下善也（当館主任学芸員）、堀切正人、村上敬（当館学芸員）（～3日） | 7月9日 | 物語のある絵画展特別講演会「松岡映丘について」木村重圭（甲南女子大学教授） |
| 9日 | 版画入門 銅版画 | 10日 | ロダン館デッサン会スペシャル |
| 19日 | 企画展「美術の20世紀」展開幕（～5月29日） | 16日 | 学芸員が語るこの1点「松岡映丘《今昔ものがたり 伊勢図》森充代（当館学芸員） |
| 24日 | フロアレクチャー「美術の20世紀」展 川谷承子、村上敬（当館学芸員）（4月24日、5月22日） | 17日 | 観賞講座「物語のある絵画」森充代（当館学芸員） |
| 26日 | 収蔵品展「新収蔵品展」（～5月29日） | 20日 | 収蔵品展「風－絵の中からそよ吹く」（～9月4日） |
| 29日 | 観賞講座「美術の20世紀－豊かなる表現」泰井良（当館学芸員） | 25日 | 平成17年度博物館実習（～30日） |
| 5月3日 | 絵画ワークショップ（～4日） | 26日 | 企画展「アルタイの至宝」展開幕（～9月4日） |
| 4日 | 美術の20世紀展特別講演会「20世紀美術の流れ－具象と抽象のせめぎあい」本江邦夫（多摩美術大学美術学部教授、府中市美術館館長） | 8月2日 | 夏休み子供ワークショップ「巨大モビールに挑戦」（～7日） |
| 8日 | ミュージアムコンサート「20世紀の音楽～バイオリンで奏でるファンタジー～」能登谷安紀子（バイオリン）、齋藤香織（ピアノ） | 7日 | アルタイの至宝展講演会「アルタイ古墳の発掘」西谷正（九州大学名誉教授、伊都国歴史博物館館長） |
| 14日 | 版画入門 シルクスクリーン 第1回美術館評価委員会（5月14日、16日） | 9日 | 夏季自由工房イベント 絵の具開放日「大地に描こう・大空に描こう」（～14日） |
| 15日 | 美術の20世紀展美術講演会「滋賀県立近代美術館と小倉遊亀」高梨純次（滋賀県立近代美術館学芸課長） | 21日 | 自由工房イベント「モノプリントを作ろう！」 |
| 6月5日 | 収蔵品展「西洋の風景画－物語から風景へ」（～7月18日） | 28日 | アルタイの至宝展講演会「ユカギル・マンモスって知ってる？」濱田隆士（東京大学名誉教授、日本科学協会理事） |
| 10日 | 企画展「物語のある絵画」展開幕（～7月18日） | 9月3日 | 学芸員が語るこの1点「オーギュスト・ロダン《地獄の門》南美幸（当館主任学芸員） |
| 12日 | フロアレクチャー「物語のある絵画」展 森充代（当館学芸員）（6月12日、18日） | 6日 | 収蔵品展「目で愉しむ－仕組まれたもの」（～10月10日） |
| 26日 | ミュージアムコンサート「吉澤実 音楽と絵画と文学と…」吉澤実（リコーダー&ふえ）、永田平八（リュート）、神戸愉樹美（ピオラ・ダ・ガンバ） | 10日 | 第45回静岡県芸術祭開幕（～25日） 絵画ワークショップ（～11日） |
| 28日 | 第2回美術館評価委員会（6月28日、7月13日） | 17日 | 版画入門 銅版画 |
| 7月2日 | 物語のある絵画展特別講演会「王朝文学への招待」沢田正子（静岡英和学院大学教授） | 18日 | 収蔵品展「おしゃべり隊が行く」（9月18日、25日、10月2日、3月4日） |
| | | 28日 | 静岡NewArt「あなたの居場所」展開幕（～10月10日） |
| | | 30日 | 企画展「文人の夢・田能村竹田の世界」展開幕（～11月6日） |
| | | 10月8日 | 田能村竹田の世界展特別講演会「文人竹田」宗像健一（大分市美術館学芸顧問） |

10月9日	田能村竹田の世界展実技講座「墨と和紙で絵画」浅見貴子（日本画家）		ズムへの歩み、そして20世紀へー」（2月12日）
12日	収蔵品展「版画と写真 複製芸術の可能性」（～11月13日）	12月23日	企画展「花鳥風月ー屏風絵の世界」展開幕（～2月12日）
15日	フロアレクチャー「田能村竹田の世界」展 飯田真、山下善也（当館主任学芸員）（10月15日、23日）	1月10日	中学生文化芸術鑑賞推進事業（～27日）
20日	第3回美術館評価委員会（10月20日、24日）	14日	フロアレクチャー「花鳥風月」展 飯田真、山下善也（当館主任学芸員）、森充代（当館学芸員）（1月14日、22日、2月11日）
21日	掛川市大須賀移動美術展「20世紀の美術と静岡ゆかりの作家たち」（～30日）		版画入門 木版画（～15日）
29日	田能村竹田の世界展特別講演会「竹田絵画の魅力」黒田泰三（出光美術館学芸課長）	29日	特別企画「日本画をじかに見る」
11月3日	技法セミナー「墨色にふれる～墨と和紙の出会いから」小松謙一（日本画家、多摩美術大学講師）	2月4日	鑑賞講座「西洋美術への招待展 伝説の画家サルバトール・ローザをめぐる」小針由紀隆（当館学芸課長）
12日	企画展「誘惑の光景」展開幕（～12月18日） 収蔵品展「日本画の世界ー谷文晁のほかー」（～12月18日）	5日	講演会シリーズ「“風景を考える”1 建築の遺伝子ー將軍から天皇への風景」鈴木博之（東京大学教授）
13日	観賞講座「誘惑の光景」展 展覧会親子探検ツアー 南美幸（当館主任学芸員）	12日	講演会シリーズ「“風景を考える”2 名所観の形成と展開」長谷川成一（弘前大学教授）
15日	収蔵品展「絵肌（マチエール）の魅力ー鳥海青児、青木達弥、須田国太郎などー」（～12月18日）	13日	展示室整備などのため休館（～3月2日）
18日	伊東市移動美術展「20世紀の美術と静岡ゆかりの作家たち」（～27日）	3月3日	企画展「静岡ゆかりの画家たち」展開幕（～4月4日） 収蔵品展「我が愛しのコレクション～静岡県美所蔵の現代作品にプライベートコレクションを交えて」（～4月4日）
19日	版画入門 リトグラフ（～20日）	12日	鑑賞講座「徳川慶喜の油彩画」 泰井良（当館学芸員）
27日	ミュージアムコンサート「魔の旋律ーゲーテの『ファウスト』を歌う」佐藤典子（メゾ・ソプラノ）、中川真理子（ピアノ）、小林旬（朗読・司会）	19日	鑑賞講座「幕臣の画家たち」 村上敬（当館学芸員）
12月3日	フロアレクチャープラス「誘惑の光景」展 南美幸（当館主任学芸員）、新田建史（当館学芸員）、福元清志（当館副主任）（12月3日、4日、17日、18日） 第4回美術館評価委員会	25日	鑑賞講座「秋野不矩について」 森充代（当館学芸員）
10日	絵画ワークショップ（～11日）	通月	自由工房（今年度開室日数125日） 粘土開放日（原則毎月第4日曜日開催：通算12回） ロダン館デッサン会（毎月第4金・土曜日開催：通算24回） ギャラリートーク（今年度企画展175回、収蔵品展40回）
11日	誘惑の光景展特別講演会「版画の扉を開いて」山本容子（版画家）		
21日	収蔵品展「西洋美術への招待ーリアリ		

本館

	1	2	3	4	5	6	7	県民ギャラリー	
4 APRIL	3/19 (土)~4/12 (火) 静岡県立美術館コレクション展 美術でつづる10の物語						~4/24 (日) 日本洋画の 精髓		
	4/19(水)~5/29(日) 美術の20世紀－豊かなる表現－ (36日間) 多様な表現を生んだ20世紀美術への誘い 速水御舟、川村清雄、ロイ・リキテンシュタインなど						4/26(水)~5/29(日) 新 収蔵品展		
5 MAY	5/30 (月)~6/4 (土) プンガノン燻蒸等のため休館								
6 JUNE	6/10 (金)~7/18 (月・祝) 物語のある絵画 (34日間) －日本画と古典文学の出会い－ 和歌・古典物語・謡曲など、物語のある絵画、近世から近代まで。 重なり合うイメージ絵と文学が出会う幸福な姿。				6/5 (日) ~7/18 (月・祝) 西洋の風景画 －物語から風景へ－				
7 JULY	7/26 (水) ~9/4 (日) アルタイの至宝展 (36日間) 「文身のミイラ」国外初出品！ ロシア科学アカデミー所蔵の一級資料により、 シベリア古代文明の謎に迫る。						7/20 (水)~9/4 (日) 風－絵の中から そよ吹く		
8 AUGUST	9/10 (土)~9/25 (日) 静岡県芸術祭 (14日間)						9/10(土)~10/10(月・祝) 9/6(水)~10/10(月・祝) 目で愉しむ －仕組みられたもの		R展2 8/20(水)~9/4(日) (30日間) ヨーロッパで 活躍した日本の 画家たち
9 SEPTEMBER	9/30 (金)~11/6 (日) 文人の夢・田能村竹田の世界 (33日間) －繊細透明な書画の魅力・重要文化財26件公開 大分市美術館所蔵の近世絵画約90点により、文人画家が 学び・創り・伝えた抒情あふれる絵画世界を紹介。						10/12 (水)~11/13 (日) 版画と写真 複製芸術の可能性		R展2 9/6(水) ~10/10(日) 19世紀フラン スの旅 I
10 OCTOBER	11/12 (土) ~12/18 (日) 2室壁建 誘惑の光景 －19世紀のロマン主義版画ドラクロワ、 ジョン・マーティンなど－ (32日間)						11/12(土)~12/18(日) 日本画の 世界 －谷晃ほか－		R展2 10/12(水) ~ 11/13(日) 19世紀フラン スの旅 II
11 NOVEMBER	12/20 (火) は、展示替のため臨時休館								
12 DECEMBER	12/23 (金・祝) ~2/12 (日) 花鳥風月－屏風絵の世界 (40日間)				12/21 (水)~2/12 (日) 「西洋美術への招待」－ リアリズムへの歩み。 そして20世紀へ。				R展2 11/15(水) ~ 12/18(日) パリの微笑－ ド・ミエの 風刺版画
1 JANUARY	2/13 (月)~3/12 (木) 工事休館 2/28 (火) ~3/2 (木) 搬入・展示作業								
2 FEBRUARY	3/3 (金)~4月上旬 静岡ゆかりの画家たち				3/3 (金)~4月上旬 我が愛しのコレクション ～静岡県美収蔵品にプライベートコレクションを交えて 草間彌生、李禹煥、宮島達男など				
3 MARCH									

■観覧者数一覧

展 覧 会 名	会 期		観 覧 者 数				
	期 間	日 数	一般・大学	小・中・高	招 待	合 計	1日平均
美術の20世紀	4/19 - 5/29	36	4,207	719	3,172	8,098	225
物語のある絵画	6/10 - 7/18	34	3,822	323	3,292	7,437	219
アルタイの至宝展	7/26 - 9/4	36	29,488	6,262	12,526	48,276	1,341
田能村竹田の世界	9/30 - 11/6	33	3,404	272	3,497	7,173	217
誘惑の光景	11/12 - 12/18	32	2,955	367	2,138	5,460	171
花鳥風月	12/23 - 2/12	40	5,340	5,430	3,171	13,941	349
静岡ゆかりの画家たち	3/3 - 4/4	29	5,473	727	4,081	10,281	355
小 計		240	54,689	14,100	31,877	100,666	419
収蔵品展	4/1 - 3/31	287	7,796	5,146	3,922	16,864	59
静岡県芸術祭	9/10 - 9/25	14			10,597	10,597	757
静岡ニューアート展 2005	9/28 - 10/10	13			1,641	1,641	126
合 計		287	62,485	19,246	48,037	129,768	452
移動美術展 (掛川市)	10/21 - 10/30	10	—	—	2,532	2,532	253
〃 (伊東市)	11/18 - 11/27	10	—	—	1,958	1,958	196

注)1 夜間開館の観覧者数947人 (5月～9月の毎週土曜日、21日間*)

※6月4日は休館日のため除く

注)2 県民の日にかかる無料開放は収蔵品展のみ (8月20日、21日の2日間)

■年度別観覧者数

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746 人	平成5年度	218,921 人	平成12年度	146,833 人
昭和62年度	174,031	平成6年度	410,182	平成13年度	207,340
昭和63年度	214,156	平成7年度	245,028	平成14年度	170,390
平成元年度	229,258	平成8年度	178,701	平成15年度	184,095
平成2年度	233,904	平成9年度	127,299	平成16年度	146,706
平成3年度	190,361	平成10年度	153,099	平成17年度	129,768
平成4年度	173,665	平成11年度	107,977	累 計	3,987,460

物語のある絵画

—日本画と古典文学の出会い

主催：静岡県立美術館
 会期：平成17年6月10日(金)～7月18日(月・祝)
 休館日：毎週月曜日（7月18日は除く）
 会場：第1～5展示室

洋の東西を問わず、絵画と文学は古くから深い関わりを持ち、影響し合いながら展開してきた。日本においても、万葉の昔から詠み継がれ、各時代を通じて流行してきた和歌の伝統や、王朝文化を伝え日本の文化の原点として大切にされてきた古典物語などは、多くの絵画を生み出す源となり、両者は密接な関連の中で享受されてきた。加えて、絵画と文学との細やかで豊かな関連は、鑑賞者がそれを主体的に読み込んでいくことに支えられており、この点で、屏風や掛軸、卷子といった多様な画面形式と鑑賞方法とは、重要な役割を果たしていたといえる。

本展では、〈絵画〉と〈文学〉との豊饒で幸福な、また複雑な関係を、和歌、謡曲、古典物語などの文学主題を取り上げた絵画作品によって紹介した。

全体を5つの章に分けて構成し、近世から近代にいたるまでの作品を取り上げたが、特に鏑木清方と松岡映丘の2人については各一章をたてて紹介した。明治以降になると、それまでゆるやかにくられ享受されてきた日本の文化的所産はジャンルごとに分類され、それぞれに独立させられていくことになるが、〈絵画〉もジャンルとしての自立性・完結性が志向され、〈文学〉と分離されていく。その中で、〈絵画〉と〈文学〉との豊かな関連を受け継ぎ、表現しようとした画家として、清方と映丘のあり方はとりわけ注目されるためである。

展示作品には、当該場面の原典の内容を簡略に記したキャプションを付け、絵画と文学との関連付けを促す補助とした。また、王朝文学に関する講演会を開催し、文学に関心の高い人々への期待に応えるとともに新規来館を促すきっかけとした。

構成

- 第1章 語りの絵画、詠いの絵画（1室）
- 第2章 隠れたイメージ（2室）
- 第3章 文学の宿る風景（2～3室）
- 第4章 鏑木清方の挑戦（4室）
- 第5章 松岡映丘—王朝の雅への憧れ（5室）

チラシ写真

■カタログ

28.5×22.5cm（A4変形） 100頁

- ・エッセイ
 「〈絵画〉と〈文学〉が会うために—松岡映丘と鏑木清方」森充代
 「絵画と和歌の幸せなセッション」山下善也
 「文学の中の風景・絵画の中の風景」飯田真
- ・コラム
 「宇津の山と『伊勢物語』」森充代
 「《草枕絵巻》について」森充代
- ・作品図版
- ・資料
 作品・作家解説、原典解説、作品リスト

■関連記事

- ・毎日新聞（静岡県版）平成17年6月8日
 「文学に描かれた絵 物語のある絵画」
- ・静岡新聞 平成17年7月4日
 「響き合う絵画と文学」（森充代 当館学芸員）



▲ カタログ表紙

■関連事業

□特別講演会

- ・「王朝文学への招待」

講師：沢田正子氏（静岡英和学院大学教授）

7月2日（土） 14時～ 講堂

- ・「松岡映丘について」

講師：木村重圭氏（甲南女子大学教授）

7月9日（土） 14時～ 講堂

□学芸員が語るこの一点

「松岡映丘《今昔ものがたり 伊勢図》」

講師：森充代（当館学芸員）

7月16日（土） 14時～ 講座室・展示室

□学芸員によるフロア・レクチャー

6月12日（日）、18日（土） いずれも14時～

□ロダン館ミュージアム・コンサート

「吉澤実 音楽と絵画と文学と…」

吉澤実（リコーダー&ふえ）、永田平八（リュート）、

神戸愉樹美（ヴィオラ・ダ・ガンバ）

6月26日（日） 14時～ ロダン館

■出品目録

P.78～P.79ページ参照



▲ チラシ表紙

「文人の夢・田能村竹田の世界」

主 催：静岡県立美術館・大分市美術館
 協 賛：JR東海
 助 成：財団法人 地域創造
 会 期：平成17年9月30日(金)～11月6日(日)

<33日間>

休 館 日：毎週月曜日（ただし10/10月曜祝日は開館、10/11火曜休館）

会 場：第1～第5展示室

江戸時代、中国・明清の文化を学んだ文人たちは、師や友との交流、旅の実践をとおして、胸中にわきあがる理想の自然を、詩や書画に表現しようとした。屈指の文人として名高い田能村竹田（1777～1835）も、故郷の九州・豊後竹田（大分）から京都への旅を重ね、頼山陽や浦上玉堂らと交遊、旅や交友から心の眼を得て、繊細透明な書画の数々を生み出し、弟子たちを育んだ。

その竹田の弟子である帆足杏雨の家（富春館・大分市）に伝わった作品群は、まさにタイムカプセルで、伝来の確かな作品群として、研究者間ではよく知られている。竹田の代表作（重要文化財26件）や、杏雨・草坪・直入など弟子たちの優品、彼らが学んだ中国絵画、狩野派・大和絵などの日本絵画から構成され、大分市美術館に所蔵されている。

この富春館伝来品を、初めて東日本で公開すべく企画・実施した展覧会である。展示構成は、1. 竹田絵画の輝き 2. 弟子たち・周辺への波及 3. 伝来の中国絵画 4. 伝来の狩野派・大和絵。珠玉の重要文化財26作品をふくむ全64作品により、竹田をめぐる絵画世界を総合的に紹介した。竹田の清らかな書画、美しい理想郷（ユートピア）イメージによって、観覧者の方々から、疲れた心が癒え、安らぎを感じることができた、という感想が多く寄せられた。

なお本展は、静岡・大分両館の所蔵品交換展の試みであり、このあと当館コレクションによる「近世絵画の水脈―狩野派から若冲、大雅へ」展（11/18～12/25）が大分市美術館で開催され、当館所蔵の日本画44作品を出品（具体的な出品作については、後出の「収集活動と保存管理」―「館蔵品の貸出」を参照されたい）、4701人の観覧者を集めた。静岡・大分という離れた地域の人々が、遠地の美術館の所蔵品にふれる場を提供し、近くの館ではなかなか見る機会のない分野の作品をまとめて見る機会を作り出した点で、まさに文化的

インパクトのある事業だったといえるだろう。当館にとって、所蔵品の完全交換展は初の試みであった。

■カタログ

27.5×21.0cm 167p.

エッセイ・総論

宗像健一「文人・田能村竹田」

図版と解説

第1章 竹田絵画の輝き

第2章 弟子たち・周辺への波及

第3章 富春館伝来の中国絵画

第4章 富春館伝来の狩野派・大和絵など

エッセイ・各論

野田菜生子「天保三年の夏 曲溪複嶺図制作の背景」

飯田 真「竹田の真景図 旅人と友―「自娛」の風景」

山下善也「竹田らが目にしていた狩野派作品―永養・常信・永伯―」

作家解説

知っておきたい「日本の文人画」のキーワード 山下善也編

田能村竹田関連略年譜 野田菜生子編

田能村竹田・旅と交流の軌跡 野田菜生子編

田能村竹田と帆足杏雨 ふるさとアルバム

大分市美術館

■関連記事

新美術新聞 10月1日号／「文人の夢・田能村竹田の世界 安らぎの理想郷」

静岡新聞 10月22日朝刊／文化欄「田能村竹田の世界展 身近な自然に理想郷」

朝日新聞 10月28日夕刊／全国版文化芸能欄「一展逸点／曲溪複嶺図及題詩 田能村竹田」出品作の紹介記事

『趣味の水墨画』2005年10月号「文人の夢・田能村竹田の世界」

日本経済新聞 11月14日朝刊／「文化往来 地方美術館、所蔵品融通し展覧会を充実」

美術倶楽部『平成18年 美術家名鑑 2006年版』「2005

美術界の動向」全国の美術館等で開催された代表的な美術展のひとつとして記録された

■関連事業

10/8土/14:00-15:30

特別講演会「文人竹田」

講師：宗像健一氏（大分市美術館学芸顧問）

80名聴講講堂

10/9日・10月祝、15土・16日/各日10:30~16:00

講師：実技講座「墨と和紙で絵画」

浅見貴子氏（日本画家）実技室

15名参加 各自が体験

10/15土/14:00-15:30 午後2時～

学芸員による作品解説

講師：山下善也（静岡県立美術館主任学芸員）展示室

10/23日/14:00-15:30

学芸員による作品解説

講師：飯田真（静岡県立美術館主任学芸員）展示室

10/29土/14:00-15:30

特別講演会「竹田絵画の魅力」

講師：黒田泰三氏（出光美術館学芸課長）

60名聴講講堂

11/3木祝/14:00-15:30

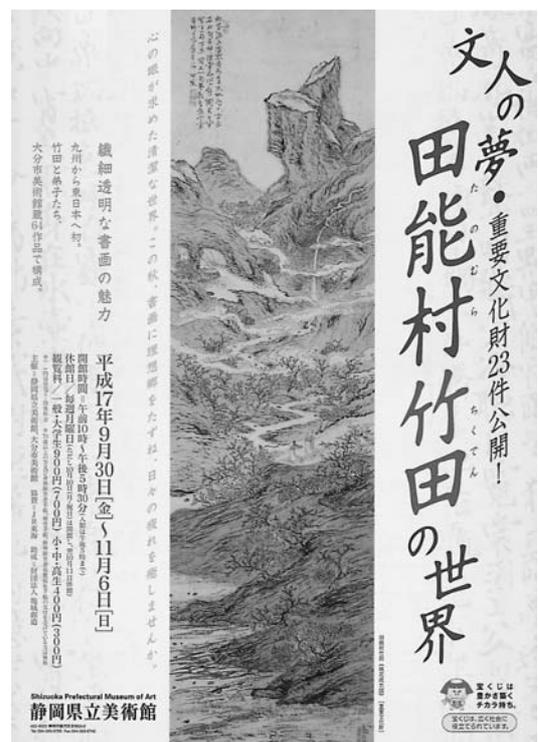
技法セミナー「墨色にふれる～墨と和紙の出会いから」

講師：小松謙一氏（日本画家・多摩美術大学講師）

実演と話 実技室 40名聴講

■出品目録

P.80参照



▲ チラシ表紙

誘惑の光景

—19世紀のロマン主義版画・ドラクロワ、ジョン・マーティンなど—

主催：静岡県立美術館

会期：平成17年11月12日(土)～12月18日(日)

休館日：毎週月曜日

展覧会タイトルの「誘惑の光景」とは、人間に尽きることなく生まれる欲望と、その欲望に誘惑される姿をさしている。こうした人間の姿は、たとえば西洋では原罪を描いた『聖書』に始まり、『失樂園』などさまざまな古典文学や物語の格好の題材となってきたが、また同時に時代を超えて訴える力を持つテーマでもある。

本展では、人間の「欲望への誘惑」をキーワードに、18世紀後半から19世紀半ば頃にかけてのロマン主義の作家たちによる、文学と芸術とが一体となった版画作品（書物の挿絵含）を展示した。展示のテーマは次の4つ、1.『失樂園』 2.『聖書』 3.『ファウスト』 4. シェイクスピアから成り、出品作家はイギリスとフランスの作家たちに焦点を当てて構成した。

なおこの展覧会には、収蔵品を中心にした企画展というもう一つの側面がある。20年の歳月をかけて収集してきた当館の収蔵作品は2,300点以上にのぼるが、その中で西洋の版画作品は500余点を数えるまでになった。副題のドラクロワ、ジョン・マーティンによる出品作品は、いずれも当館のコレクションであることから、展覧会カタログは収蔵品図録として刊行された。

■カタログ

P.45ページの主要刊行物参照

■紹介記事

『芸術新潮』2005年12月号

『一枚の繪』2005年12月号

『エクラタン』13号

■関連事業

「親子探検ツアー」（小学生とご両親対象）

11月13日（日）14：00～（1時間程度）

実技室・展示室

「学芸員のフロア・レクチャー・プラス」

12月3日（土）、4（日）、17（土）、18（日）

14：00～（90分程度）

実技室・展示室

*技法講座のおまけつき

「版画入門・リトグラフ」

11月19日（土）・20（日）10：15～16：15

*詳細は、P.34ページ参照

ミュージアム・コンサート

「魔の旋律—ゲーテの『ファウスト』を歌う」

佐藤典子氏（メゾ・ソプラノ）、中川眞理子氏（ピアノ）、小林旬氏（朗読・司会）

11月27日（日）14：00～15：30 ロダン館

特別講演会「版画の扉を開いて」

山本容子氏（版画家）

12月11日（日）14：00～15：30 講堂

■出品目録

P.83ページ参照



▲ チラシ

「花鳥風月一屏風絵の世界」

主催：静岡県立美術館
 会期：平成17年12月23日(金・祝日)～
 平成18年2月12日(日)<40日間>
 休館日：12/26(月)～1/1(日)、1/10(火)、
 1/16・23・30と2/6の各月曜日
 会場：第1～第5展示室

当館収蔵の館藏品・寄託品のなかから、とくに「花鳥風月」をテーマにした「屏風」を特集してご覧いただいた。

「花鳥風月」とは、「自然の美しい風景」あるいは「自然を相手に詩・絵画などをつくる風雅な遊び。風流」(大辞林)のこと。「屏風」は、座敷を間仕切りしたり、風をさえぎったりするために用いられる調度品である。何枚かのパネルを蝶番でつないで折りたためるようにした屏風の形式は、飛鳥時代に中国から伝わったものだが、もとはパネルごとに絵が描かれていた。それを全体として絵がつながるようにしたのは室町時代の日本の工夫である。以降、江戸時代から近代まで、屏風によって大画面の魅力を楽しめるようになった。

展示構成は、つぎのとおりで、「和」にこだわり、セクションやコーナーではなく、「間」という表記を用いた。

1. 吉祥の間、2. 富士の間、3. 花鳥の間、
4. 物語風景の間

当館に収蔵の多い富士山の絵の数々も展示に含めた。国指定の重要文化財として雲谷等顔筆《春夏山水図

屏風》(個人蔵)と狩野元信筆《富士参詣曼荼羅図》(富士山本宮浅間大社蔵)の2作品は特別公開。その他、狩野山雪《四季花鳥図屏風》、伊藤若冲《花鳥蔬菜図押絵貼屏風》、長沢蘆雪《赤壁図屏風》など、42点を展観。大画面に繰り広げられる花鳥風月の世界、富士山の絵など、新春をことほぐタイムリーな企画として受けとめられ、「和」の魅力を心ゆくまで楽しんでいただいで好評を博した。

■カタログ

出品作のほとんどが、収蔵品図録『狩野派の世界』(1999年)、『富士山の絵画』(2004年)、『若冲と京の画家たち』(2005年)に収録されているため、この展覧会のためのカタログは作成しなかった、これら収蔵品図録をミュージアムショップで販売し、展示会場に見本を置いた。

■関連事業

- 1/14土、1/22日、2/11土
 学芸員による作品解説 いずれも13時～ 展示室にて
- 1/29日
 特別企画「日本画をじかに見る」13:30～ 講座室
 20名参加

■出品目録

p.88参照



▲ チラシ表紙

「静岡ゆかりの画家たち」展

—最後の将軍から文化勲章受章者まで—

主催：静岡県立美術館

会期：平成18年3月3日(金)～4月4日(火)

休館日：毎週月曜日(4月3日(月)は開館)

観覧料：一般・大学生 500円(400円)

小・中・高生 200円(100円)

70歳以上無料

※()内は20名以上の団体料金及び前売料金

昭和61年の開館以来、当館では「静岡の美術シリーズ」として県内ゆかりの作家を検証・回顧する展覧会を企画してきた。そして、それらを総括するかたちで、平成14年(2002)には、「静岡ゆかりの画家たち展～幕府御用絵師から文化勲章受章まで」を開催した。本展は、その企画に続く第二弾で、この年に寄贈された徳川慶喜の油彩画を中心として「徳川慶喜と幕臣の画家たち～川村清雄、石川欽一郎、小林清親～」というテーマを加え、和田英作や曾宮一念など静岡に長らく居住して豊かな風景を描いた画家、また秋野不矩、伊藤勉黄といった全国で活躍した画家たちの作品を展示した。

■展示構成

第1章 徳川慶喜と幕臣の画家たち～川村清雄、石川欽一郎、小林清親

第2章 静岡を愛した画家たち～和田英作、曾宮一念

第3章 静岡が生んだ画家たち～秋野不矩、伊藤勉黄、中村岳陵、北川民次

■関連記事

静岡新聞 2月25日(土)

「慶喜が描いた理想の風景 企画展で公開」

中日新聞 3月4日(土)

「県ゆかりの画家一堂に 徳川慶喜の油絵初公開」

静岡新聞 3月4日(土)

「静岡ゆかりの画家たち展 開幕 慶喜公の油彩など70点」

■関連事業

- ・美術講座 3月12日(日) 午後2時～ 講座室
「徳川慶喜の油彩画について」 泰井良(当館学芸員)
- ・美術講座 3月19日(日) 午後2時～ 講座室
「幕臣の画家たちについて」 村上敬(当館学芸員)
- ・美術講座 3月25日(土) 午後2時～ 講座室・展示室
「秋野不矩について」 森充代(当館学芸員)



▲ チラシ表紙

「美術の20世紀—豊かなる表現の時代」展

主催：静岡県立美術館、滋賀県立近代美術館、
「美術の20世紀展」実行委員会
助成：財団法人 地域創造
協賛：J R東海
会期：平成17年4月19日(火)～5月29日(日)
休館日：毎週月曜日
観覧料：一般・大学生 800円(600円)
小・中・高生 400円(300円)
70歳以上無料
※()内は20名以上の団体料金及び前売料金

本展は、当館と滋賀県立近代美術館が所蔵する作品によって、20世紀美術の魅力を再発見していただこうと企画したものである。すでに、両館は、平成12年(2000)に「日本画の情景—富士山・琵琶湖から—」と題して、室町時代から今日に至る風景表現を中心とした共同企画展を開催した。

今回は、20世紀という激動の時代の美術を様々な視点から探ろうとするもので、日本画や近代日本洋画を中心としながら、近年、注目されてきている彫刻と工芸、また同時代の西洋絵画からアメリカを舞台とする戦後美術に至るまで、幅広いジャンルの作品を紹介した。

また、本展は、時代順や作品の制作年順によって構成するのではなく、20世紀美術を特徴づける「8つのテーマ」を設けて、そこから作家の感性や表現にふれてもらうことを目指した。

■展示構成

- 第1章 日本における近代絵画の成立
- 第2章 画家の求めた風景
- 第3章 大正の細密描写—岸田劉生、速水御舟など—
- 第4章 ファシズムと戦争、人間性の希求
- 第5章 色の可能性、形の力
- 第6章 女性の時代・それぞれのアジア
- 第7章 触覚性の開拓
- 第8章 越境する美術

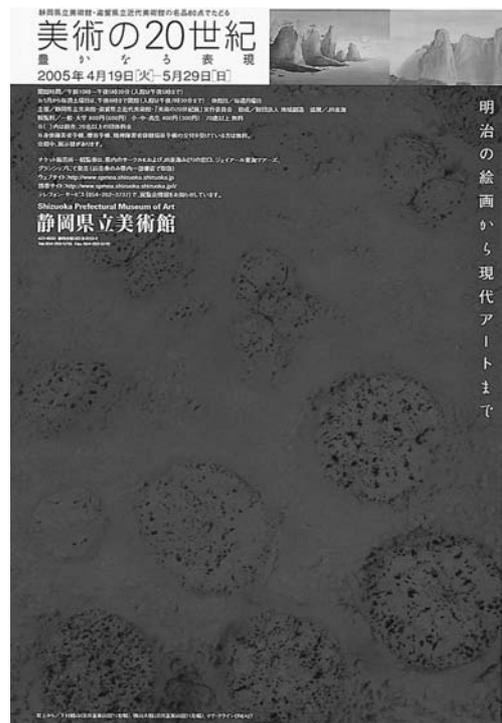
■カタログ

29.0×23.0cm
エッセイ
泰井良「美術の20世紀—豊かなる表現」
高梨純次「仏画らしくない幾つかの仏画—小倉遊亀の【信心】—」

占部敏子「バルラッハ随想」
川谷承子「絵画の触覚性」
村上敬「感性の古層を尋ねる旅—「越境する美術」への解題」

■関連事業

- ・特別講演会 5月4日(水・祝) 午後2時～
当館講堂
「20世紀美術の流れ—具象と抽象のせめぎあい」
本江邦夫氏 (多摩美術大学美術学部教授・府中市美術館館長)
- ・美術講演会 5月15日(日) 午後2時～
当館講座室
「滋賀県立近代美術館と小倉遊亀」
高梨純次氏 (滋賀県立近代美術館学芸課長)
- ・美術講座 4月29日(金・祝) 午後2時～
当館講座室 「美術の20世紀—豊かなる表現」
泰井良 (当館学芸員)
- ・学芸員によるフロアレクチャー
4月24日(日)・5月22日(日) 午後2時～ 展示室
- ・ミュージアム・コンサート
5月8日(日) 午後2時～ ロダン館 「20世紀の音楽—ヴァイオリンで奏でるファンタジー—」
演奏者：能登谷安紀子氏 (ヴァイオリン)、齋藤香織氏 (ピアノ)



▲ チラシ表紙

アルタイの至宝展

主 催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送、
アルタイの至宝展組織委員会
後 援：外務省、文化庁、ロシア連邦大使館
協 賛：JR東海
協 力：日本通運
会 期：平成17年7月26日（火）～9月4日（日）
〈36日間〉

休 館 日：毎週月曜日

アルタイは中央アジアにひろがる一地域で、美しく豊かな自然環境から「アジアの真珠」と呼ばれている。また、東西両文明をつなぐ「草原の道」の要衝として、数々の民族が往来し、独特の文化が形成されてきた地域でもある。本展は、わが国ではほとんど紹介されたことのなかったこのアルタイの魅力を紹介するもので、全国4会場を巡回する特別展である。展示は、アルタイの文明を「歴史」「自然」の二つの側面から紹介するものであり、ノボシビルスクのロシア科学アカデミーから貴重な資料を借用して構成された（詳細な展示構成はつぎのとおり）。

[1] アルタイの歴史

（旧石器時代、新石器・青銅器時代、初期鉄器時代、バジリク文化の墓、諸民族の時代）、[2] アルタイの自然と生活

（生活、シャーマンの世界）

出品資料は地域の特性を反映したもので、金銀細工などの金工品や装飾品、武器、衣類などが多く出品された。さらに、重要な文化的事例としてシャーマン（霊能者）の祭祀用具などが紹介された。また、貴重な考古資料として、旧石器時代のマンモスの骨格、入れ墨の残る男性ミイラなどの出土品はとくに好評を博した。

なお、上述のマンモス骨格は、無料エリアであるエントランスに展示された。この試みは好評で、マンモスの前で記念写真を撮る家族連れの様子が多くみられた。また、2度開催された講演会は、普段当館には縁の薄い歴史ファンの方々を中心にいずれも100人前後の聴衆を集めた。これらの試みにより、一般の美術ファン以外の客層にも喜んでいただくことができたと考えられる。

■カタログ

- ・29.8×22.6cm 192ページ
- ・エッセイ
「アルタイ至宝展に寄せて」 西谷正（九州大学名誉教授）
- 「アルタイの旧石器文化と日本列島」 小畑弘己（熊本大学文学部助教授）
- ・作品図版、年表、出品目録、遺跡分布図

■ラジオ・テレビ放送

（ラジオ）

- ・FM-Hi情報番組「レスト・ラ・トゥール」内にて担当者電話出演（7月26日13:20から約10分間）
- ・SBSラジオ「こんにちはは県庁です」担当者電話出演（7月27日9:10から約5分間）
- ・FMしみずマリナル情報番組内にて担当者電話出演（7月28日13:00から約5分間）
- ・SBSラジオ「山田辰美の土曜はごきげん」内「日産ラジオナビ」コーナー現地中継放送担当者出演（8月20日8:20から約10分間）
- ・FM-Hi情報番組「レスト・ラ・トゥール」スタジオ生放送担当者出演（8月23日13:20から約10分間）

■新聞・雑誌報道（広告除く）

（新聞）

- ・毎日新聞朝刊静岡版（7月13日）
「文身ミイラ展示 「アルタイの至宝展」26日から静岡県立美術館」（吉崎孝一記者）
- ・静岡新聞夕刊（7月19日～23日、5回連載）
「アルタイの至宝展」（九州大学名誉教授 西谷正氏）
- ・静岡新聞朝刊（7月26日）
「迫力のマンモス骨格 アルタイ至宝展きょうから公開」（無署名）

（雑誌）

- ・「ぴあ」中部版（7月28日号）
「ART」欄：「文身ミイラやマンモス骨格を並べアルタイ文明の魅力を紹介！」

■関連事業

- ・講演会「アルタイ古墳の発掘」
8月7日（日）14:00-15:30
講師：西谷正氏（九州大学名誉教授、伊都国歴史博物館館長）
入場者91名

- ・講演会「ユカギル・マンモスって知ってる？」
8月28日（日）14:00-15:30
講師：濱田隆士氏（東京大学名誉教授、日本科学協
会理事長）
入場者132名

■出品目録 P.94～98ページ参照



▲ チラシ表紙

静岡New Art「あなたの居場所」展

主催：静岡県立美術館
協力：榛原町立細江小学校、裾野市立東中学校、SUAC(静岡文化芸術大学)学生・浜松市民参画プロジェクトチーム

参加作家

居城純子 高橋唐子 柳原詮子 山極満博
米原昌郎

場所・会期

第1会場 静岡県立美術館 県民ギャラリー

入場無料

2005(平成17)年9月28日(水)～10月10日(月・祝)

10:00～17:30

*10月3日(月)は休館。

*最終日の10月10日は、16:00で閉場。

出展作家全員の作品を展覧。また各種イベント開催。

第2会場 旧浜松銀行協会 入場無料

2005(平成17)年10月1日(土)～10月10日(月・祝)

平日13:00～17:00 土日祝日10:00～17:00

主催：SUAC学生・浜松市民参画プロジェクトチーム

共催：静岡県立美術館 浜松市教育委員会

後援：浜松市

米原昌郎の彫刻作品の展示と、各種イベントの開催。

第3会場 裾野市立東中学校内・東雲ギャラリー

2005(平成17)年9月15日(木)～22日(木)

居城純子によるワークショップ開催(9/15)と展示

生徒、教師、地域住民のみの公開。一般公開せず。

第4会場 榛原町立細江小学校・本館2階廊下

2005(平成17)年9月28日(水)～10月30日(日)

柳原詮子によるワークショップ開催(6/21)と展示

生徒、教師、地域住民のみの公開。一般公開せず。

概要

- ①静岡ゆかりの若手作家に活躍の機会を与え、広く紹介する。
- ②アウトリーチ、ワークショップを積極的に展開する。特に学生、NPO、ボランティアなど、外部者の共同参画、共同企画をはかり、市民参画を推進する。
- ③美術館の県民ギャラリーを本拠とし、美術館以外の場所に展示スペースを展開し、サテライトとする。
- ④本展は、作家、美術館、住民の三者によるコラボレーション・プロジェクトである。

主旨

- ・2005年度の全体テーマとして「あなたの居場所」を設定する。
- ・2003年度に「わたしの居場所」をテーマに、美術館内での現代美術の居場所を探った。
今回は、それを美術館外に展開するものである。美術館を取り巻く様々な人々である「あなた」に、社会の中における美術の居場所、関係を考えてもらう契機とする。「あなた」の主体的な取り組みによって、美術は社会のなかに居場所を確保する。
- ・「あなた」の内実は、様々である。美術に無関心な人々から、企画立案に積極的に参画しようとする市民まで、多様なレベルの「あなた」に訴えかけるプロジェクトを目指す。
- ・「わたしの居場所」と同様、居場所探しは、展示スペース、予算など、さまざまなレベルで設定、問題化される。その試行錯誤を「あなた」とともに行うことにより、「あなた」の主体性を問い、醸成する。そのためには、意欲のある高レベルの「あなた」との共同作業が、本展の中核的な事業となる。
- ・アートに関わる仕事をしたいと望む人々に、その経験を積む機会を与える。アートマネジメントに対するニーズの高まりに、美術館として応えることは、美術館の社会的な責務でもある。
- ・美術館と「あなた」との共同作業に緊張感をもたらし、文化活動としてより高度な水準に引き上げるために、作家の参加は不可欠である。そのために、本展は、単なるアウトリーチやワークショップの体裁をとらずに、作家の作品発表の形式を取る。また、作家の選定に当たっては、このような社会と美術との連携に理解を持ち、それを自己の制作活動と連携させることのできる柔軟性と行動力のある者を選ぶ(このことは、作家にとっても社会との関係を問う

トレーニングになるであろう)。

- ・作家、美術館、「あなた」の三者によるコラボレーション・プロジェクトが、本展である。

関連イベント一覧

細江小学校ワークショップ

日時：6月21日（火）

講師：柳原詮子 榛原町立細江小学校にて

参加人数：36名（4年2組）

夏休み子どもワークショップ

風に吹かれて 巨大モビルに挑戦

日時：8月2日（火）～7日（日）

講師：高橋唐子 美術館実技室ほかにて

参加人数：50名

裾野東中学校ワークショップ

日時：9月15日（木）

講師：居城純子 裾野市立東中学校校庭および東雲ギャラリーにて

参加人数：18名（美術選択クラス）

草薙のんびりツアー

旧東海道を歩き、やぶきた原樹を観て、美術館でロダン体操

日時：10月1日（土） 13:30～14:30

主催：草薙のんびりツアーの会

協力：静岡県立美術館 静岡県立美術館ボランティア有志 NPO法人つなぐ

参加人数：206名

帰ってきたロダン体操

日時：10月1日（土） 13:30～14:30

講師：高橋唐子 静岡県立美術館ロダン館にて

参加人数：150名

美術講演会

日時：10月2日（日） 11:00～12:00

講師：堀切正人 旧浜松銀行協会講堂にて

演題：「静岡NewArt展について」

参加人数：20名

ロダン体操がやってくる！

日時：10月2日（日） 14:00～15:30

講師：高橋唐子 旧浜松銀行協会にて

参加人数：20名

あなたとここでみるツアー

企画協力：静岡アートギャラリー

第1回目

視覚障害者と静岡県立美術館ボランティア（ギャラリーートーク）との美術鑑賞ツアー

日時：10月6日（木） 13:30～16:30

講師：久保田道子 静岡県立美術館県民ギャラリー

ほかにて

参加人数：23名

第2回目

視覚障害者と静岡文化芸術大学生&市民との美術鑑賞ツアー

日時：10月8日（土） 13:30～16:30

講師：ホシノマサハル氏 旧浜松銀行協会にて

協力：白鳥建二氏、寺田未緒氏、太田紗世氏

参加人数：32名

SUAC学生によるワークショップ

プニプニゴムを使って、試して実験！ かたどりタイ!!

日時：10月9日（日） 10:30～16:30

場所：鴨江別館201号室および旧浜松銀行協会

参加人数：24名

ボランティアによるお茶とおしゃべりの時間

浜松のいまとむかしを語りましょう

日時：10月10日（月・祝）

第1回目 11:00～12:00

第2回目 14:00～15:00

場所：旧浜松銀行協会・談話室

参加人数：30名

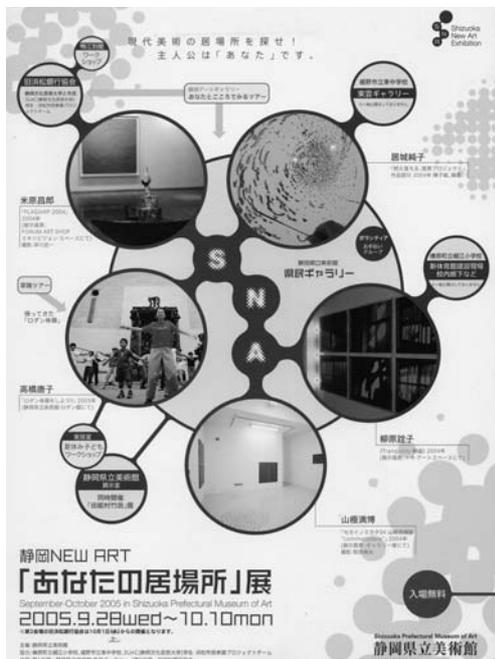
■作品リスト

P. 99～P. 100参照

■記録集（A4版 32p）

内容

- ・ごあいさつ 謝辞 事業一覧
図版（展示、ワークショップなどの記録写真）
- ・エッセイ：堀切正人（当館主任学芸員）
静岡New Art「あなたの居場所」展について



▲チラシ



▲記録集

【ロダン館 第2展示室】

8月2日（火）～9月4日（日）

ヨーロッパで活躍した日本の画家たち

9月6日（火）～10月10日（月・祝）

19世紀フランスの旅 I

10月12日（水）～11月13日（日）

19世紀フランスの旅 II

11月15日（火）～12月18日（日）

パリの哄笑—ドーミエの風刺版画

【名品コーナー】

下記の期間で展示替え。各3点を展示。

4月26日（火）～5月29日（日）

6月5日（日）～7月3日（日）

7月5日（火）～7月31日（日）

8月2日（火）～9月4日（日）

9月6日（火）～10月10日（月・祝）

10月12日（水）～11月13日（日）

11月15日（火）～12月18日（日）

12月21日（水）～1月15日（日）

1月17日（火）～2月12日（日）

3月3日（金）～4月4日（火）

収蔵 MUSEUM COLLECTION 品展

Shizuoka Prefectural Museum of Art
静岡県立美術館

11.12.10 - 12.18.10 (第6-7期展示)

文雅の心—谷文晁など

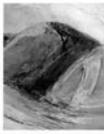
2005 土山を極く名手、文人画家・谷文晁の《富士山図屏風》は、文晁の代表作であるだけでなく、江戸時代に描かれた水墨画による富士山の最高傑作といえるでしょう。画家の心に刻まれた富士が、墨による大胆な筆さばりで描かれています。本展では、この名品を支える他の作品、その門人たちの作品—江戸時代後期に活躍した関東文人画とも展示します。文晁から連なる系譜には福留平香、平井兼盛など数々の名手が残っています。この機会に伝統的な日本絵画の世界—文人の清雅な心を堪能してください。




絵肌(マティエール)の 魅力

11.15.10 - 12.18.10 (第7期展示)

2005 ティエールとは、絵肌のことです。絵の表面をよく見ていただくと、何となく「ざらざらしている」とか「なめらかだ」とか「滑らかだ」とか、作品によって、様々な表情をしています。調子は、どのみち考えて、マティエールを作るのでしょうか。西洋では、漆喰層の厚さや、マティエールについて歴史を重ねてきました。しかし、日本では、漆喰層がたがたれたもの、硝子になってきたものなど、その技術は、調子の味、また未知なものでした。調子は建築家・画家の個性は、その「ナット」にたがたれた西洋の調子と自分の作品を比べて、自分のマティエールが調子のことを知り、それを克服するための、独特の点検技術を見出した。また、金田平三は、日本の洋画家がマティエールに対して「無関心であること」を痛感し、『百年も経たぬ調子の日本人の手で作る』と公言した。今回の展示では、特に作品の持つマティエール（絵肌）に注目してご覧いただきたいと思います。



収蔵 MUSEUM COLLECTION 品展

Shizuoka Prefectural Museum of Art
静岡県立美術館

西洋美術
への招待

12.21.10 - 2.12.11 (第7期展示)

2006 数々のコレクションを充実させるには、気の遠くなるような歳月が必要になる、とよく言われます。静岡県立美術館が美術品を収集し始めたのは1960年頃ですが、コレクション量はまだ30年に満たないことにあります。しかし、収集の歴史は心に向き、そのコレクションには西洋美術の秀作がいっぱい含まれています。それらの秀作は、従来の大衆美術に展示されて、まったく見られないものはあります。今回の「西洋美術への招待」は、当館で所蔵する西洋絵画のコレクションを中心とした展示です。ヨーロッパの絵画は、歴史や物語の主題を扱う世界から、現実を精細に描き出すリアリズムの登場へと変化しています。17世紀のクロード・ロランやイスダールから、チャーチンクス・アダムを経て、印象派のモネやドガへ。そして、20世紀には今も絶えず、その先へと続きます。西洋絵画のステップを公開することを目指し、「ここからでは」の秀作の数々を公開したいと思います。



2006 収蔵品展「ヨーロッパ」の展示期間が12月10日(日)から12月18日(日)までです。展示期間中に展示替えを行います。展示替えの必要はありません。

2006 収蔵品展「ヨーロッパ」の展示期間が12月10日(日)から12月18日(日)までです。展示期間中に展示替えを行います。展示替えの必要はありません。

2006 収蔵品展「ヨーロッパ」の展示期間が12月10日(日)から12月18日(日)までです。展示期間中に展示替えを行います。展示替えの必要はありません。

我が愛しのコレクション

会 期：平成18年3月3日（金）～4月4日（火）

休 館 日：毎週月曜日

（ただし4月3日（月）は臨時開館）

平成18年度最後の収藏品展となる本展では、通常の収藏品展の枠を拡大し、当館の館藏品9点に加え、二人の個人所蔵家から借用した107点の現代美術作品を組み合わせた展示を行った。展覧会を開催するにあたり、所蔵家宅で、複数回作品の調査を重ねた上で、作品を収集した三者の個性がそれぞれ出るように作品を選定し、会場構成を決定した。

会場構成は以下のとおりである。

Part.1 静岡県美コレクション

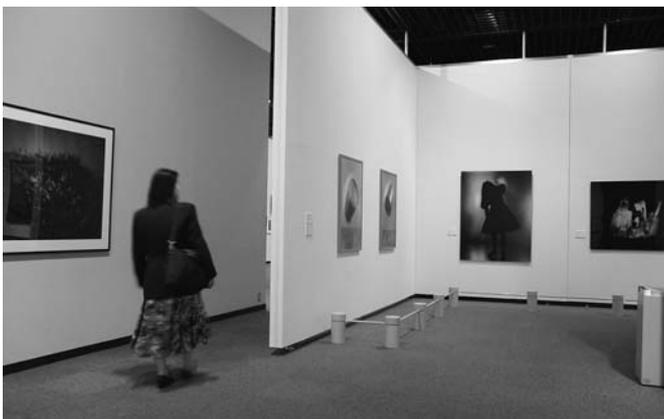
Part.2 A氏コレクション

Part.3 B氏コレクション

Part.1では、草間彌生《無題》、ドナルド・ジャッド《無題》、アンゼラム・キーファー《極光》など、開館以来、美術の現況をしめすコレクションの形成に努めてきた当館の現代コレクションを代表する作品の紹介を行った。Part.2では所蔵家A氏のコレクションの中から宮島達男、イ・ブル、小谷元彦など近年活躍が目覚しい作家で、当館で作品を収蔵していない作家を中心に構成した。なお、河原温の絵画については、所蔵家から借用した2点に加えて、当館が収蔵する3点を組み合わせて展示した。Part.3では、所蔵家B氏のコレクションの三本柱となる、(1) 李禹煥、山口長男の油彩画、(2) 現代の焼き物、(3) 写真コレクションの中から、収集家の個性が現れる作品を選定した。特に李禹煥の絵画については、B氏のコレクションの中でもとりわけ充実を誇る、1980年代後半の《風と共に》から《照応》シリーズへの移行期の作品を中心に選定し、以前より、同所蔵家から寄託を受けている《風と共に》3点を併せて展示した。



▲ Part.1 展示風景



▲ Part.2、Part.3 展示風景



▲ チラシ

移動美術展「20世紀の美術と静岡ゆかりの作家たち」

掛川市大須賀移動美術展

主催：静岡県立美術館、掛川市教育委員会
会期：10月21日(金)～10月30日(日)
会場：大須賀中央公民館

伊東市移動美術展

主催：静岡県立美術館、伊東市教育委員会
会期：11月18日(金)～11月27日(日)
会場：伊東市生涯学習センター中央会館

当館は静岡県の中部に位置することから、県内の遠方にお住まいの方々にも館蔵品に親しんでいただくために、昭和63年度から毎年移動美術展を開催してきた。当館と市町村とが共催で行うこの移動美術展は、地域の展示施設に当館の収蔵品を展示し、身近な環境で多くの方々にご覧いただくことによって、地域文化の向上と、美術や美術館への関心と理解を深めていただくことを目的としている。

今年度は、西部地区は掛川市大須賀、東部地区は伊東市で開催された。石川欽一郎や曾宮一念をはじめとするお馴染みの静岡ゆかりの作家や、ヘンリー・ムアの《横たわる人体》、ハイム・スーチン《カーニユ風景》ら20世紀を代表する作家の作品が出品された。加えて、移動展に出品される機会が少ない吉原治良、金沢健一などの現代作品のほか、前年度に新たに収蔵品に加わったロダンの《考える人》の小型像が展示された。

普及活動としては、例年、移動美術展にあわせて開催地域の学校を会場に移動粘土ワークショップを行ってきた。今年度は、会場を展覧会場と同じ建物に設けた事により、ワークショップの参加者を作品鑑賞へと自然に導くことが可能になった。その他、展覧会場でのギャラリートークや、開催地域の小中高校での出展作品を中心にした美術講座が実施された。

■出品目録



掛川市大須賀移動展展示風景



伊東市移動展展示風景



伊東市移動粘土ワークショップの様相

世紀の美術と静岡ゆかりの作家たち



静岡県立美術館 入場無料

2005年 10月21日(土)～10月30日(日) 会期中無休
午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

会場 大須賀中央公民館
〒411-0001 静岡県静岡市東区大須賀 電話054-242-1112

お問い合わせ：静岡県教育委員会 文化課 電話 054-242-1112
企画協力：(公)静岡県立美術館、(財)静岡県立美術館教育委員会

会期中、県立美術館学習室による
ギョウワーカータ(作品解説)を行います
10月22日(土)・10月29日(土)
午後2時～3時を予定

静岡県立美術館

創立24周年を記念する静岡県立美術館は、開館以来、日本や西洋の風土人情の魅力を中心に2100点以上の作品を収蔵している。その機会を捉えては、クワンソウのなかから、パブロ・ピカソや藤田鳴鶴をはじめとする20世紀の美術と、静岡ゆかりの作家たちの作品を

チラシ表

講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会等を開催した。また“風景を考える”講演会シリーズ(2回)などの連続講演会も開催し、好評を得た。

■特別講演会

講演会名	日時	会場	講師	参加者
「美術の20世紀」展関連 20世紀美術の流れー具象と抽象 のせめぎあいー	5月4日(水・祝) 14:00-15:45	講堂	本江邦夫氏 (多摩美術大学美術学部教授・ 府中市美術館館長)	76人
「美術の20世紀」展関連 滋賀県立近代美術館と小倉遊亀	5月15日(日) 14:00-15:45	講堂	高梨純次氏 (滋賀県立近代美術館学芸課長)	38人
「物語のある絵画」展関連 王朝文学への招待	7月2日(土) 14:00-15:35	講堂	沢田正子氏 (静岡英和学院大学教授)	126人
「物語のある絵画」展関連 松岡映丘について	7月9日(土) 14:00-15:30	講堂	木村重圭氏 (甲南女子大学教授)	42人
「アルタイの至宝」展関連 アルタイ古墳の発掘	8月7日(日) 14:00-15:30	講堂	西谷正氏 (九州大学名誉教授、 伊都国歴史博物館館長)	91人
「アルタイの至宝」展関連 ユカギル・マンモスって知って る?	8月28日(水・祝) 14:00-15:30	講堂	濱田隆士氏 (東京大学名誉教授、 日本科学協会理事長)	132人
「田能村竹田」展関連 文人・田能村竹田	10月8日(土) 14:00-16:00	講堂	宗像健一氏 (大分市美術館学芸顧問)	83人
「田能村竹田」展関連 竹田絵画の魅力	10月29日(土) 14:00-15:40	講堂	黒田泰三氏 (出光美術館学芸課長)	72人
「誘惑の光景」展関連 版画の扉を開いて	12月11日(日) 14:00-15:30	講堂	山本容子氏 (銅版画家)	252人
講演会シリーズ“風景を考える”1 建築の遺伝子ー将軍から天皇への 風景	2月5日(日) 14:00-15:30	講堂	鈴木博之氏 (東京大学教授、建築史)	102人
講演会シリーズ“風景を考える”2 名所観の形成と展開	2月12日(日) 14:00-15:30	講堂	長谷川成一氏 (弘前大学教授、日本近世史)	83人

美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館学芸員による講座を開催した。日ごろから研究に取り組んでいる学芸員の講座として好評を得ている。展示室前で作品を前にした解説や、日本画作品をケースに入れられない状態でじかにご覧いただく試み、また「フロアレクチャープラス」と題して、講座による鑑賞と簡単な工作とを連動させたものなど、ヴァリエーションの拡大に努めた。

■鑑賞講座 講座室 14:00-

講座室で、スライドなどを交えながらレクチャーを行うもの。申込不要。

講座名	開催日	講師	参加者
美術の20世紀展「美術の20世紀-豊かなる表現」	4月29日(金・祝)	泰井 良 (当館学芸員)	40人
物語のある絵画展 子ども鑑賞講座	7月17日(日)	森 充代 (当館学芸員)	7人
誘惑の光景展 展覧会親子探検ツアー	11月13日(日)	南 美幸 (当館主任学芸員)	11人
西洋美術への招待展 伝説の画家サルヴァトル・ローザをめぐって	2月 4日(土)	小針由紀隆 (当館学芸課長)	30人
静岡ゆかりの画家たち展 「徳川慶喜の油彩画」	3月12日(日)	泰井 良 (当館学芸員)	60人
静岡ゆかりの画家たち展 「幕臣の画家たち」	3月19日(日)	村上 敬 (当館学芸員)	32人
静岡ゆかりの画家たち展 「秋野不矩について」	3月25日(土)	森 充代 (当館学芸員)	30人

■学芸員が語るこの1点 講座室 14:00-

収蔵品を1点選び、当館学芸員が講座室で解説を行い、展示室で作品を鑑賞するもの。申込不要。

講座名	開催日	講師	参加者
松岡映丘《今昔ものがたり 伊勢図》	7月16日(土)	森 充代 (当館学芸員)	48人
オーギュスト・ロダン《地獄の門》	9月 3日(土)	南 美幸 (当館主任学芸員)	39人

■フロア・レクチャー 展示室

展示室で展覧会の見どころや代表作品について解説するもの。申し込み不要。

講座名	開催日	講師	参加者
「美術でつづる10の物語」展	4月 2日(土)、3日(日)	飯田 真 (当館主任学芸員) 山下善也 (当館主任学芸員) 堀切正人 (当館学芸員) 村上 敬 (当館学芸員)	49人
「美術の20世紀」展	4月24日(日)、5月22日(日)	川谷承子 (当館学芸員) 村上 敬 (当館学芸員)	42人
「物語のある絵画」展	6月12日(日)、18日(土)	森 充代 (当館学芸員)	67人
「田能村竹田」展	10月15日(土)、23日(日)	飯田 真 (当館主任学芸員) 山下善也 (当館主任学芸員)	65人
「誘惑の光景」展 フロアレクチャープラス	12月 3日(土)、4日(日)、17日(土)、 18日(日)	南 美幸 (当館主任学芸員) 新田建史 (当館学芸員) 福元清志 (当館副主任)	91人
「花鳥風月」展	1月14日(土)、22日(日)、 2月11日(土・祝)	飯田 真 (当館主任学芸員) 山下善也 (当館主任学芸員) 森 充代 (当館学芸員)	135人

■ 日本画をじかに見る

当館所蔵の日本画作品を、ケースに入れず、直接鑑賞していただくもの。要申込。

開催日	講 師	参加者
1月29日（日）	飯田 真（当館主任学芸員） 山下善也（当館主任学芸員） 森 充代（当館学芸員）	48人

■ 移動美術展の出張講座、フロアレクチャー

移動美術展開催地の小中学校で美術講座を開催。また移動美術展会場にて作品を解説。

内 容	開 催 日	講 師	参 加 者
美術講座（掛川市、伊東市）	10月、11月	川谷承子（当館学芸員）	1,047人
フロアレクチャー	10月、11月	川谷承子（当館学芸員）	245人

■ 出張美術講座

中学生文化芸術鑑賞推進事業（静岡県主催）の事前学習のため、学芸員が各中学校（計15校）に赴き、美術講座を実施。

内 容	開 催 日	講 師	参 加 者
美術講座	12月、1月	学芸員全員（10名）	2,312人

■ 静岡NewArt「あなたの居場所」展関連普及事業（講座系）

講 座 名	開 催 日	講 師	参加者
草薙のんびりツアーでの作品解説	10月1日（土）	堀切正人（当館学芸員） 森 充代（当館学芸員）	206人
美術講演会「静岡NewArt展」について	10月2日（日） （旧浜松銀行協会にて開催）	堀切正人（当館学芸員）	20人
あなたとここで見るツアー	10月6日（木）（当館にて開催） 10月8日（土） （旧浜松銀行協会にて開催）	久保田道子氏、ホシノマサハル氏、 白鳥建二氏	55人

技法セミナー

■ 墨色にふれる～墨と和紙の出会いから

「文人の夢 田能村竹田」展関連企画

日 時＝平成17年11月3日(木・祝) 14:00－15:30

講 師＝小松謙一氏（日本画家）

場 所＝当館実技室

参加者数＝43名

「文人の夢・田能村竹田の世界」展開催にあわせ、伝統的な水墨画の世界を技法面から解き明かす講座を開催した。

水墨画というとひと筆で一気に描くものと思われがちだが、実は何層にも墨の色を重ねて描かれている場合が多くみられる。薄い墨を重ねて色を作りだしたり、墨と紙と水のまさにコラボレーションによって水墨の色や空間を作りだしている例が少なくない。田能村竹田も例外ではない。

そこで、今回の技法セミナーでは、紙の上で墨がにじんていく様子や、墨や紙の種類によってにじみ方、色の広がり方が違うことを、講師が実際の筆と墨を使って実演した。参加者は、墨、紙、筆の違いによって生じる水墨の奥深い世界を実見することにより、田能村竹田の作品鑑賞をより深める機会とした。

ギャラリートーク

ギャラリートークは、有志のボランティアによる展示作品の解説活動である。本年は21名が登録し、活動した。収蔵品展については、原則、毎月第2、第4土曜日に一日2回開催したほか、作品解説型ではなく対話形式のトークを試みる「おしゃべり隊が行く」を実施した。また7つの企画展についても随時、開催した。さらに、1月、静岡県主催「中学生文化芸術鑑賞推進事業」により来館した中学生の団体への解説も行った。

参加してくれた来場者数は、その日の天候やイベントの有無などによって多寡があったが、参加者には、おおむね好評をいただいた。

ギャラリートークのための研修は、以下のように行われる。

- ・自己研修：ボランティア各自による自己学習。またテーマ、分野が同じメンバーによる勉強会。
- ・月例研修会：毎月第1木曜日PMに全員が集まり、各月のギャラリートークや勉強会の報告、意見交換、連絡などを行う。また次回のリハーサルを展示会場内で行う。

以上二つの研修では、必要に応じて展示の担当学芸員と打ち合わせを行った。また学芸員を講師にした風景画についての購読会や、現代美術についての勉強会も随時、開催した。さらに「静岡NewArt わたしの居場所」展関連イベント「あなたとこころでみるツアー」においては、視覚障害者とともに絵画を鑑賞するプログラムを行った。

■収蔵品展

・収蔵品展ギャラリートーク

のべ40回開催 のべ参加者数531人。

原則として、毎月第2、第4土曜日。第1回目 14：00－14：20、第2回目 15：00－15：20

開催日	テーマ	参加者数	
4月 9日	日本洋画の精髓／同左	12	12
4月23日	日本洋画の精髓／同左	6	8
5月14日	新収蔵品展／同左	2	2
5月28日	ロダン／同左	19	12
6月11日	西洋の風景画／ロダン	7	5
6月25日	西洋の風景画／同左	28	18
7月 9日	ロダンの彫刻／同左	15	16
7月23日	風－絵の中からそよ吹く／同左	10	10
8月13日	ロダン／風	40	25
8月27日	ロダン／同左	25	18

9月10日	ロダン／同左	20	15
9月24日	19世紀フランスの旅／同左	16	11
11月26日	日本画の世界／同左	10	7
12月10日	日本画の世界／同左	8	0
12月24日	西洋美術への招待／同左	15	12
1月14日	西洋美術への招待／同左	20	20
1月28日	西洋美術への招待／同左	15	14
2月11日	ロダン／同左	10	8
3月11日	我が愛しのコレクション／同左	10	10
3月25日	我が愛しのコレクション／同左	15	5

・「おしゃべり隊が行く」

のべ4回開催 のべ参加者数60人

開催日	参加者数
9月18日、25日、10月2日、3月4日	60

■企画展

展覧会会期中に随時開催。のべ175回開催。総参加者数2686人

開催時間は、AM：1回目11：00－11：20、2回目12：00－12：20。

PM：1回目14：00－14：20、2回目15：00－15：20。

ただし「静岡ゆかりの画家」展は、PM1：1回目12：00－12：20、2回目13：00－13：20、

PM2：1回目14：00－14：20、2回目15：00－15：20。

・「美術でつづる10の物語」展 のべ10回開催(平成17年度分) のべ参加者数94人(平成17年度分)

4月 2日 (土) AM	20	5	4月10日 (日) AM	6	8
4月 3日 (日) AM	10	7	4月10日 (日) PM	15	8
4月 9日 (土) PM	10	5			

・「美術の20世紀」展 のべ32回開催 のべ参加者数439人

4月30日 (土) PM	20	20	5月 7日 (土) PM	15	8	5月21日 (土) PM	12	12
5月 1日 (日) AM	20	18	5月 8日 (日) AM	15	6	5月22日 (日) AM	16	10
5月 3日 (火) PM	20	15	5月14日 (土) AM	13	20	5月27日 (金) PM	5	10
5月 4日 (水) AM	10	15	5月15日 (土) AM	12	10	5月28日 (土) AM	5	5
5月 5日 (木) AM	12	15	5月20日 (金) AM	10	10	5月29日 (日) PM	30	10
5月 5日 (木) PM	30	10						

・「物語のある絵画」展 のべ40回開催 のべ参加者数773人

6月17日 (金) AM	40	10	7月 3日 (日) AM	23	13	7月15日 (金) PM	18	10
6月18日 (土) AM	25	15	7月 3日 (日) PM	25	25	7月16日 (土) PM	15	20
6月19日 (日) AM	16	15	7月 8日 (金) AM	11	9	7月17日 (日) AM	35	25
6月24日 (金) PM	5	10	7月 8日 (金) PM	22	15	7月17日 (日) PM	15	25
6月26日 (日) AM	25	25	7月10日 (木) AM	10	10	7月18日 (月) AM	25	25
7月 1日 (木) PM	10	5	7月10日 (日) PM	30	15	7月18日 (月) PM	30	35
7月 2日 (金) AM	35	5	7月15日 (金) AM	26	20			

・「文人の夢 田能村竹田」展 のべ26回開催 のべ参加者数359人

10月 9日 (日) AM	15	20	10月23日 (日) AM	20	20	11月 4日 (金) PM	10	10
10月14日 (金) AM	10	6	10月28日 (金) AM	10	5	11月 5日 (土) AM	12	16
10月16日 (日) AM	20	10	10月28日 (金) PM	15	10	11月 5日 (土) PM	20	
10月21日 (金) AM	6	2	10月30日 (日) AM	30		11月 6日 (日) AM	10	
10月21日 (日) PM	10	16	11月 4日 (金) AM		6	11月 6日 (日) PM	30	20

・「誘惑の光景」展 のべ18回開催 のべ参加者数248人

11月12日 (土) AM	10	10	11月26日 (土) PM	20		12月10日 (日) PM	7	
11月12日 (土) PM	24	16	11月27日 (日) AM	10		12月17日 (土) AM	10	
11月19日 (日) AM	35		12月 3日 (土) PM	8		12月17日 (土) PM	10	
11月19日 (土) PM	20		12月 4日 (日) AM	20		12月18日 (日) AM	8	
11月20日 (日) AM	18		12月10日 (日) AM	15		12月18日 (日) PM		2
11月26日 (土) AM	5							

・「花鳥風月一屏風絵の世界」展 のべ31回開催 のべ参加者数498人

1月14日 (土) AM	15		1月22日 (日) AM	18	23	2月 4日 (土) AM	30	16
1月14日 (土) PM	15		1月27日 (金) PM	10	10	2月 5日 (日) AM	30	20
1月15日 (日) AM	8	15	1月28日 (土) AM	13	5	2月10日 (金) AM	20	20
1月15日 (日) PM	19	19	1月29日 (日) AM	20	15	2月11日 (土) AM	30	15
1月20日 (金) PM	18	5	2月 3日 (金) AM	12	9	2月12日 (日) AM	20	
1月21日 (土) AM	10	13	2月 3日 (金) PM	5	20			

・「静岡ゆかりの画家」展 のべ18回開催 のべ参加者数275人

3月11日（金）PM1	13	11
3月18日（土）PM1	3	5
3月18日（土）PM2	11	15
3月19日（日）PM1	18	15

3月24日（金）PM1		8
3月24日（金）PM2	20	16
3月26日（日）PM1		30

3月26日（日）PM2	30	10
3月31日（金）PM1	10	15
3月31日（金）PM2	25	20

■中学生文化芸術鑑賞推進事業への対応

月日	ギャラリートーカー数	来館中学生数
1月10日（火）	5	885
1月11日（水）	4	457
1月16日（月）	3	353
1月17日（火）	3	366
1月18日（木）	4	345
1月19日（金）	4	355
1月20日（金）	6	344
1月23日（月）	5	354
1月24日（火）	6	360
1月25日（水）	4	351
1月26日（木）	3	379
1月27日（金）	4	347

実技講座

- ①鑑賞することで表現が豊かになり、制作することで観る目が養われる。
- ②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深める。
この2点をテーマに掲げ、今年度も実技講座が開催された。

■<文人の夢・田能村竹田の世界>展普及事業

実技講座「墨と和紙で絵画」

日 時＝平成17年10月9日・10日・15日・16日
10：15～16：15

講 師＝浅見貴子（画家）

場 所＝当館実技室・展示室

参加者数＝16名

今年の実技講座は「文人の夢・田能村竹田の世界」展の開催に合わせて計画された。まずは、この講座のタイトルが<水墨画>ではないことに注目したい。そこには、先入観なしで墨と和紙が持つ魅力と豊かな表現の可能性を感じてもらいたいという、講師の画家、浅見貴子さんと美術館スタッフの願いがこめられている。

初日、参加者は浅見さんの作品を見ながら制作についての話を聞き、イメージを高めた。その後、展示室で田能村竹田の作品をじっくり鑑賞した参加者は、文人画の最高傑作を前にして強い刺激を受けた様子であった。午後からは堰を切ったように作業が始まる。紙に墨が染み込み、滲む様子を確かめながら素材との対話を楽しむ参加者達。今回用意した和紙は、作品用の越前雲肌麻紙と鳥の子紙の他、奉書紙、書道用半紙などで、それぞれが違った性格を持っている。また、水の使い方によっても墨の表情は千変万化し、簡単に思い通りの表現が得られない。それでも教わるのを待つことなく、次々と挑戦を続ける参加者の様子には驚かされた。和紙・墨・水を互いに響き合わせ、様々な表現を紡いでいくことは、それだけ魅力的な体験だったのではないだろうか。

2日目に作品制作に取り掛かってから週を跨ぎ、3日目、4日目と参加者の熱意は最後まで衰えることがなかった。完成した作品をパネル張りし、実技室で展示、鑑賞することで講座を締めくくったが、どの作品にも描くことの喜びが生き生きと表現されていたように思う。そして、再び竹田の作品を鑑賞した参加者は写真を見るだけでは伝わらないデリケートな部分にも視点を置いて、表現された世界の息吹を感じることが

できたはずである。確かな手応えの感じられる実技講座であった。



実技講座<墨と和紙で絵画>制作する参加者



アドバイスをする講師の浅見貴子氏（左端）

自由工房

社会教育施設における生涯学習への取り組みの必要性の増大に応じて、自主制作の場として実技室を開放する「自由工房」を、週末の金曜から日曜日に通年開室し、広く県民に創作活動の場を提供した。祝日を加え週3日から4日の開室であった。

■自由工房（通年開室）

参加者の自主制作を基本とするため中学生以上の個人を対象とし、インストラクター来室日には実技上の相談や助言を行った。参加者の活動内容は、実技室が持つ大型の版画プレス機を使った各種の版画、デッサン、水彩画、油彩画、館所蔵の美術ビデオの鑑賞など。期間は、他の講座で実技室を使用する日を除く毎週末の金、土、日曜日と祝日を基本とする。

開室日数=125日

10:15～16:15

講師=内山久子（美術家）

利用者数=1,118名

■ロダン館デッサン会

ロダン彫刻の素描を通してより鑑賞を深めると同時に、新たな創作の場となることを期して「ロダン館デッサン会」を実施した。ロダン彫刻を素描する機会の提供に主眼を置き、参加者同士で行う感想会を、毎回終了時に設けた。技術的指導はなし。

期 間=毎月第4金・土曜日（本年度計24回実施）

参加者数=564名

■ロダン館デッサン会スペシャル

「ロダン館デッサン会」の特別版として講座形式のイベントを実施した。参加者は、画用紙に鉛筆でロダンの彫刻をクロッキーし、その上からアクリル絵の具1色で鉛筆の線が消えない程度に画面全体を塗りつぶして乾燥させた。その後、アクリル絵の具の色より明るいところは白い鉛筆で、暗いところはカーボンペンシルで描写すると、画面にロダン彫刻の形が浮き上がって見えてくるという、グリザイユの技法を応用した描き方を体験してもらったのだが、白い紙に描いている時は、とかくブロンズの反射光に惑わされていた参加者が、よりロダン作品の量感を捉えて表現できたと思われる。中には、後日のデッサン会で何回か続けて同じ描き方を試す方もおり、ロダン作品をより深く観察する良いきっかけとなった。

期 日=平成17年7月10日

講 師=当館普及スタッフ

参加者数=19名

■版画入門

実技室で行われている自由工房の中に、版画入門の日を設けた。基本的な技法、材料の扱い方をインストラクターがわかりやすく説明しながら実演した。本年は、展覧会の会場で作品を見ながら、表現の説明をするなど、鑑賞を重視した内容も積極的に盛り込むと共に、初めて木版画の入門講座も実施した。これにより、凹・凸・孔・平の基本4版種をすべて紹介できたことになる。後日、自由工房で講座の続きや新作の制作に取り組む方も増えており、着実に広がりを見せている企画である。

リトグラフ=11月19日・20日

シルクスクリーン=5月14日

銅 版 画=4月9日、9月17日

木 版 画=1月14日・15日

10:15～16:15

講 師=内山久子（美術家）、当館スタッフ

参加者数(通算)=90名



<シルクスクリーン入門>展示室での作品鑑賞の様子

自由工房

■子どもたちの粘土開放日

今年度も、友の会より寄贈された土練機と1tを超える量の水粘土を使用し、少量での物作りとは違った感覚で粘土遊びを体験する会を実施した。親子での参加を基本とし、午前と午後の2つの時間帯を設けた。技術的指導はなし。年々、参加者が増加しており、何度も参加してくれる親子がいる一方で、毎回、新規の利用者も半数以上を占めることから、この事業が地域に根を下ろし、広がりを見せていることが感じられる。継続することで人々の意識に浸透し、良い結果を上げている例と言えよう。

この粘土開放日をはじめ、実技講座、粘土ワークショップで実技室ボランティアさんにお手伝いいただく場面が今年度も多数あった。平成12年度から呼びかけに応じていただいております、なくてはならない存在である。期間＝毎月第4日曜日を基本とし本年度は計12回実施した。

講師＝石上和弘（彫刻家）

助手＝持塚三樹、富山竜一

場所＝当館実技室

参加者数＝2,767名

■夏季自由工房イベント

絵の具開放日「大地に描こう・大空に描こう」

日時＝平成17年8月9日・10日・11日・12日・

13日・14日

10:30～12:15

講師＝奥中章人・三浦香織・志村てるみ

場所＝当館実技室・屋外展示テラス

参加者数＝575名

自分の体よりはるかに大きなスペースに、のびのびと絵を描く喜びを感じてほしい。今年、初めて開催した「絵の具開放日」には、暑い時期であるにも関わらず、6日間で550人を超える参加者があった。「大地に描こう」は屋外展示テラスの縦横15mを越える石畳に、直接絵の具で大きな絵を描くプログラム。子どもだけでなく、親も一緒に自由な絵の具遊びの時間を楽しんだ。界面活性剤入りの絵の具を使用したため、終了後は水を撒くと簡単にきれいにすることができる。一方の「大空に描こう」は透明なビニールに絵を描き、実技室外の中庭に凧のように吊るして、下から見上げて鑑賞する。青空に、直接描いたような不思議な気分になるプログラムであった。天気にも恵まれたため実施できなかった雨天企画「見えない絵を探そう。」も含めて、今後、様々な形で展開したいと考えている。



絵の具開放日「大地に描こう」

■自由工房イベント「モノプリントを作ろう！」

開催日＝8月21日

10:15～12:15

13:30～15:30

講師＝常葉学園大学学生4名

場所＝当館実技室

参加者数＝24名

夏休み中の親子向け自由工房イベントとして、専門実習中の常葉学園大学の学生によるイベント「モノプリントを作ろう！」が実施された。版画の原点ともいえる、スタンプすることの面白さを存分に楽しめる企画内容で、参加した子どもたちも大変満足そうな様子であった。それと同時に、指導した学生にとっても、またとない実習となったのではないだろうか。

ワークショップ

■夏休み子どもワークショップ

「巨大モビールに挑戦」

日 時＝平成17年8月2日～8月7日

講 師＝高橋唐子氏

場 所＝当館実技室・展示室

参加者数＝55名

美術館で行うワークショップは、美術館という場であるからこそできる内容でありたいと考えている。そこで当館では、創作だけでなく、展覧会や作品の鑑賞とからめたワークショップが、いろいろと試みられている。

今年の夏休み子どもワークショップは、美術家の高橋唐子さんを講師に迎え、静岡New Art「あなたの居場所」展への展開を視野に入れて開催された。参加者は最初に収藏品展「風－絵の中からそよ吹く」をじっくり鑑賞して、作品の中に、描かれていない何かを感じ取れることを理解してから制作開始。風で動く彫刻＜モビール＞の制作を体験した。後半はそれぞれが持ち寄った「不要なもの」を集めて全員で巨大モビールにも挑戦。このワークショップで制作された色とりどりの作品を、高橋さんが1つにまとめて、9月28日から10月10日まで当館県民ギャラリーを中心に行われた、静岡New Art「あなたの居場所」展の中で、ご自身の作品として展示された。

■絵画ワークショップ

日 時＝平成17年5月3日・4日

9月10日・11日

12月10日、11日

10：15～16：15

講 師＝持塚三樹

場 所＝当館実技室・エントランスホール

参加者数＝68名

昨年度から始まった絵画ワークショップは、絵画の描き方や技法を学ぶことよりも、柔軟な発想による制作体験を通じて、描くことの喜びを発見することに重点を置いている。2年目の今年は3回のワークショップを実施したが、それぞれのテーマと内容を簡単に紹介したい。

●〔ドット若冲〕

5月3、4日に開催された「ドット若冲」では、伊藤若冲《樹下鳥獸図屏風》の一部分を5m×10mに拡大し、共同制作で再現することに挑戦した。初日に展示室で本物を鑑賞した参加者は、この作品独特の「梔目描き」をアレンジした方法で制作していく。10cm

平方の厚紙1つに描かれているのは、それだけ見ても何だか分からない絵の具のしみだが、それが5千枚集まると、見事に若冲が描いた動物たちが浮かび上がってきた。手間のかかる作業であったが、その面白さや驚きは、参加者は勿論、見学していく人にも十分伝わったはずである。



絵画ワークショップ「ドット若冲」

●〔飛び出せ 私のカタチ〕

参加者は収藏品展「眼で楽しむ一仕組まれたもの」の出品作品を鑑賞して、平面なのに目の錯覚で、奥行き感が感じられる面白さを体験した後、実技室で制作を始める。スチレンボードに参加者のシルエットが写し取られ、それを切り抜くと自分と同じ大きさの人型キャンパスの出来上がり。それに自由な彩色を施して、もう一人の私が完成した。最後に作品を持って、美術館の内外、様々なところに出向き、自分も一緒にポーズをとって写真撮影を行ったが、参加者の発想がどんどん柔軟になっていくのが実感できるワークショップであった。

●〔ホワイト・マティエール〕

収藏品展「絵肌（マティエール）の魅力」の開催に合わせて実施したプログラムである。参加者は、渡された型紙の形にダンボールなどを切り取り、それを支持体に、白1色で雪の結晶を描くよう求められる。ジェッソやモデリングペーストを盛り上げて絵肌だけで形を表現することに最初は戸惑う方もいたが、徐々にその面白さが伝わったようで、砂や木の葉なども貼り付けながらどんどん制作が進んだ。最後にエントランスホールで、全員の作品を組み合わせると大きなクリスマスツリーが出現。「マティエールだけで絵を描くなんて考えもしなかった…」という参加者の言葉が印象的であった。

学校向け

本年度から学校連携普及事業のプログラムを1つにまとめ、「美術館教室」の名称で広報した。実技だけでなく、鑑賞、体験実習などのプログラムについても新たに開発し、児童生徒の幅広い学習活動をサポートできる、バランスの取れた体制を目指している。

■「粘土ワークショップ

ー学校のためのプログラムー」

講師＝石上和弘（彫刻家）・持塚三樹・奥中章人
場所＝当館実技室

約1トンの水粘土を使用。体感的なプログラムを通して、粘土との触れ合いや彫刻制作のプロセスを知る手がかりをつかむことを目的としている。

開催日	利 用 校	利用者数
5/24	静岡市立東源台小学校3年	31名
5/25	静岡市立東源台小学校3年	32名
5/26	静岡市立東源台小学校3年	32名
6/9	静岡市立中藁科小学校3年	16名
7/6	静岡市立井宮小学校2年	98名
7/12	静岡市立東豊田小学校2年	121名
7/20	静岡市立清水袖師小学校2年	106名
7/21	静岡市立清水小学校2年	53名
7/21	NPO法人ハルモニア	30名
7/27	千代田東児童クラブ1～3年	45名
7/27	長田児童クラブ1～4年	23名
7/27	井宮児童クラブ1～4年	36名
7/28	浜田児童クラブ1～3年	32名
8/16	羽鳥児童クラブ1～5年	22名
8/16	東源台児童クラブ1～3年	24名
8/17	清水袖師児童クラブ1～3年	33名
8/17	西奈児童クラブ1～3年	45名
8/17	清水有度第一児童クラブ1、2年	39名
8/17	飯田児童クラブ1～3年	37名
8/18	庵原児童クラブ1～3年	40名
8/18	西奈南児童クラブ1～3年	41名
8/18	富士見児童クラブ1～3年	38名
8/18	長田南児童クラブ1～5年	60名
8/23	飯田東児童クラブ1～4年	35名
8/23	新川児童クラブ1～3年	34名
8/24	中田児童クラブ1～3年	49名
8/24	三保第二児童クラブ1～3年	26名
8/24	清水岡児童クラブ1～4年	41名

開催日	利 用 校	利用者数
8/24	清水辻児童クラブ1～4年	36名
8/25	清水入江児童クラブ1～3年	48名
8/25	有度第二児童クラブ1～3年	48名
9/29	静岡北養護学校中等部1、2年	22名
10/4	静岡市立清水浜田小学校3年	51名
10/5	静岡市立蒲原東小学校3年	53名
10/18	静岡市立東源台小学校2年	30名
10/19	静岡市立東源台小学校2年	29名
10/20	静岡市立東源台小学校2年	32名
10/26	静岡市立東豊田小学校1年	113名
10/27	静岡市立清水和田島小学校1～5年	35名
11/4	静岡県立中央養護学校高等部	18名
11/4	吉田町立自彊小学校1年	64名
11/9	静岡市立清水岡小学校2年	40名
11/9	静岡市立青葉小学校3年	18名
11/15	静岡市立清水岡小学校2年	43名
11/16	静岡市立清水岡小学校2年	42名
11/22	静岡県立中央養護学校高等部	18名
11/24	静岡市立清水飯田東小学校5年	83名
11/29	静岡市立森下小学校2年	55名
12/1	静岡市立森下小学校2年	30名
	計	2127名

■粘土遊び

講師＝奥中章人・三浦香織・志村てるみ
場所＝当館実技室

本年度から美術館の予算で運営されることとなり、昨年度と同じスタッフが担当した。そのため、プログラムの内容や子どもたちとの接し方などについても経験が生かされ、充実した活動が展開できた。

開催日	利 用 園	利用者数
5/11	清水十七夜山保育園 年中、年長児	70名
5/12	田町幼稚園 年中児	91名
5/12	静岡ふたば幼稚園 年中、年長児	40名
5/17	日吉町保育園 年中、年長児	44名
5/18	蒲原梅花幼稚園 全園児	18名
5/18	リリー幼稚園 年中、年長児	57名
5/19	賤機保育園 全園児	59名
5/24	曙幼稚園 年中、年長児	41名
5/25	清水庵原保育園 年長児	29名
5/26	中原幼稚園 年長児	37名

開催日	利 用 園	利用者数
6/7	バプテスト幼稚園 全園児	42名
6/8	中原幼稚園 年中児	40名
6/14	あゆみ第二保育園 年長児	43名
6/15	丸子幼稚園 年中、年長児	55名
6/16	隣人会保育園 年中、年長児	73名
6/16	藤枝保育園 年長児	26名
6/21	日本平幼稚園 年長児	100名
6/22	北安東保育園 年中、年長児	43名
6/23	矢部保育園 年長児	34名
6/28	矢部保育園 年中児	24名
6/29	蒲原学園幼稚園 全園児	57名
6/30	日本平幼稚園 年中児	100名
7/5	サレジオ幼稚園 年長児	61名
7/7	賤機幼稚園 全園児	66名
7/13	竜南保育園 年長児	35名
7/13	ゆりかご保育園 年長児	13名
7/14	若竹幼稚園 年長児	41名
7/14	ゆりかご保育園 年中児	13名
9/27	若竹幼稚園 年少児	36名
9/28	東豊田保育園 年中、年長児	86名
9/28	リリー幼稚園 年中児	32名
10/5	リリー幼稚園 年長児	25名
10/6	丸子幼稚園 年少児	26名
10/12	中田保育園 年長児	46名
10/13	田町幼稚園 年長児	96名
10/13	清水有度西保育園 年長児	19名
10/18	足久保保育園 年長児	23名
10/19	蒲原聖母幼稚園 年中、年長児	43名
10/20	たちばな保育園 全園児	84名
10/25	静岡あけぼの保育園 年長児	57名
11/1	東豊田幼稚園 年長児	39名
11/2	麻機幼稚園 年長児	71名
11/8	ふたば保育園 年長児	41名
11/10	若竹幼稚園 年長児	42名
11/17	こまどり幼稚園 年中児	44名
11/30	中原幼稚園 年少児	34名
12/1	清水風の子保育園 年長児	26名
計		2222名

■絵の具ワークショップ

講師＝奥中章人・三浦香織・志村てるみ

場所＝当館屋外展示テラス

粘土ワークショップに続く実技プログラムとして開発した絵の具ワークショップを、試験的に実施した。次年度から、内容を検討しつつ展開していく予定である。

開催日	利 用 校	利用者数
8/16	瀬名児童クラブ1～6年	20名
8/16	三保第一児童クラブ1～4年	13名
8/16	麻機児童クラブ1～3年	25名
8/16	清水江尻児童クラブ1～4年	21名
8/23	宮竹児童クラブ1～3年	46名
8/23	清水児童クラブ1～5年	28名
8/23	新富町児童クラブ1～3年	46名
8/23	城北児童クラブ1～3年	42名
1/19	静岡聾学校小学部	10名
計		251名

■ロダン館鑑賞、ロダン館ななふしぎ

講師＝増田洋子・福元清志（当館普及スタッフ）

場所＝当館ロダン館

クイズに答えながらロダン作品の理解を深める鑑賞プログラム。粘土ワークショップやブロンズ鑄造ビデオ鑑賞など、他のプログラムと併せて実施することも多かった。

開催日	利 用 校	利用者数
5/6	静岡市立清水和田島小学校 1～6年	42名
5/12	掛川市立掛川西中学校1～3年	8名
7/6	静岡市立井宮小学校2年	98名
7/12	静岡市立東豊田小学校2年	121名
7/20	静岡市立清水袖師小学校2年	106名
7/28	伝馬町児童クラブ1～6年	39名
10/20	静岡市立清水興津小学校2年	121名
11/10	有度第一児童クラブ1、2年	39名
11/24	静岡市立清水飯田東小学校5年	83名
計		657名

■移動子どもワークショップ

講師＝石上和弘（彫刻家）

助手＝丸山研二郎・八木育恵・富山竜一

移動美術展にあわせ、掛川市大須賀と、伊東市の小学生を対象とした粘土ワークショップを現地で開催した。粘土に親しむ従来の目的とは別に、なかなか県立美術館まで来ることが出来ない遠隔地の子ども達に美術館を紹介し、移動展の作品鑑賞も併せて楽しんでもらうことを目的とした。そのため、移動展が開催されている建物で場所を確保し、実施したのが昨年までの大きな違いである。期間中の10日間で、計19回のワークショップを実施することができた。この内の4回は一般の親子向けに粘土開放日を実施し、好評を得ている。

開催日	開催校	利用者数
10/24	掛川市立大淵小学校1、2年	53名
10/24	掛川市立大淵小学校3、4年	71名
10/25	掛川市立大淵小学校5、6年	68名
10/26	掛川市立横須賀小学校3年1組	38名
10/26	掛川市立横須賀小学校3年2組	38名
10/27	掛川市立横須賀小学校4年1、2組	55名
10/27	掛川市立横須賀小学校4年3組	26名
10/30	粘土開放日 in 大須賀2回	124名
11/18	伊東市立西小学校3年1組	36名
11/18	伊東市立西小学校4年2組	37名
11/21	伊東市立西小学校3年2組	36名
11/21	伊東市立西小学校4年1組	37名
11/20	粘土開放日 in 伊東2回	212名
11/24	伊東市立東小学校2年	48名
11/24	伊東市立東小学校3年	37名
11/25	伊東市立八幡野小学校3年1組	32名
11/25	伊東市立八幡野小学校3年2組	31名
計		979名

■移動美術講座

講師＝川谷承子（当館学芸員）

移動美術展の関連普及事業として、移動美術講座の開催を募ったところ、3校から開催の希望をいただいた。各学校に学芸員が出張して、移動展の見所や作品解説、展覧会鑑賞時のマナーなどについての話を中心とした美術講座を開催することが出来た。

講座の後、多くの生徒やその保護者が展示会場を訪れ、本物の作品に触れる機会につながった。また、静岡県立美術館の存在を広く知らしめることが出来たと考えている。

開催日	開催校	参加者数
10/27	静岡県立横須賀高等学校全学年	553名
10/28	掛川市立大須賀中学校全学年	386名
11/18	伊東市立東小学校5、6年	108名
計		1047名

■鑑賞授業

- ・当館収蔵作品の金澤健一作《音のかけら》を用いたワークショップ 6校
- ・「ブロンズ彫刻の作り方」ビデオとロダン館の鑑賞を組み合わせた授業 4校
- ・盲学校の「彫刻をさわって鑑賞するプログラム」の利用 2校
- ・57校が展覧会の鑑賞に来館した。内訳は小学校28校、中学校17校、高等学校12校となっている。そのうち15校に展覧会のオリエンテーションを行った。

■施設見学

- ・普段は入れない美術館の裏側に案内し、知られざる美術館の姿を紹介する「裏方ツアー」の利用 16校
- ・学芸員の仕事を体験する「職場体験」の利用 7校
- ・総合学習の利用 9校

■ロダン館スケッチ・デッサン

- ・中学校の美術部、専門コースのある高校が実施した。 5校

開催日	利用校	利用者数
5/11	藤枝市立瀬戸谷中学校1年	29名
6/28	常葉学園菊川中・高等学校高校2年	36名
8/9	焼津市立豊田中学校美術部	32名
2/9	静岡市立蒲原西小学校6年	62名
3/9	静岡県立浜松江之島高等学校2年	31名
計		190名

■貸し出し

- ・展覧会の事前学習などに利用していただくための、スライド、ビデオ、図録などをセットにした「鑑賞キット」の貸し出し 3校
- ・粘土ワークショップを自校で開催するための粘土、土練機などの貸し出し。粘土ワークショップの教員研修で指導のポイントと粘土や道具の扱いを覚えた上で、借りていく熱心な先生が多かった。 12校

■先生が利用するプログラム

- ・粘土ワークショップを自身で指導されたい先生の為の「教員研修」の利用 14校
- ・展覧会の内容を授業などに活用したいと考えている先生のための「ティーチャーズレクチャー」の利用 12校
- ・美術館利用の方法について説明する「学校ガイダンス」を開催 4校
- ・美術館での教員研修会の利用 11校
- ・学校と美術館の連携について意見交換をする研修会への出席 3件

■大学生の利用

- ・インターンシップ実習（美術館での活動体験） 3校
- ・粘土ワークショップ研修 1校

■中学生文化芸術鑑賞推進事業

美術館が所蔵する絵画・彫刻の鑑賞や本格的な劇場での舞台芸術の鑑賞を提供することにより、県内の中学生の豊かな心を育むとともに、文化芸術の素晴らしさを知ってもらうことを目的として行われた。美術館では来館前の事前学習として、希望する15校に学芸員が出張して美術講座を行った。(★印の中学校)

月日	学 校 名
1/11	三島市立中郷中学校
	磐田市立福田中学校 ★
	静岡大成中学校 ★
1/16	富士宮市立上野中学校
	磐田市立福田中学校 ★
1/17	駿東郡清水町立南中学校 ★
	小山町立小山中学校 ★
1/18	富士市立岩松中学校
1/19	磐田市立豊岡中学校
1/20	浜松市立北星中学校
	南伊豆町立南伊豆中学校
1/23	浜松市立南部中学校 ★
	日大三島中学校
	下田市立稲生沢中学校
1/24	富士市立大淵中学校 ★
	県立清水南高等学校中等部 ★
1/25	浜松市立入野中学校
	伊東市立対馬中学校 ★
1/26	浜松市立引佐南部中学校 ★
	浜松市立都田中学校 ★
	常葉学園菊川中学校 ★
	興誠中学校
1/27	富士市立田子浦中学校 ★

期 間＝平成18年1月10日～1月27日までの間で12日間

来館数＝16市町村から31校

延べ5039名（引率者を含む）

月日	学 校 名
1/10	藤枝市立藤枝中学校
	藤枝順心中学校
	沼津市立金岡中学校
	富士宮市立西富士中学校
	富士宮市立富士根北中学校
	磐田東中学校 ★
	清水国際中学校
1/11	焼津市立東益津中学校
	城南静岡中学校
	静岡市立井川中学校 ★
	静岡大成中学校 ★
	熱海市立初島中学校 ★
	沼津市立長井崎中学校

博物館実習

当館は、静岡県内で唯一の県立の博物館施設であることから、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。毎年多くの希望者があるが、受入には

1：県内出身者または県内の大学に通学していること
2：美学美術史学、美術教育または美術制作専攻であること

3：大学の推薦を受けた者であること

を条件としている。本年は11大学から22人の学生を実習生として受け入れた。

当館の博物館実習は、単に資格取得を目指す学生のために、実習の機会を提供する、というだけではない。むしろ、社会の中での美術館機能を把握し、社会の一員として将来の美術館を担う人間の育成に資することを目指している。

カリキュラムは、見学・講義・実習からなり、それぞれを当館の総務課職員・学芸員が担当する。

本年は「美術館の現在を知る」というテーマを設定した。

美術館活動の基盤となる美術作品の管理、保全に関する講義と実習に加え、今ある施設をどのようにして活用し人が集う場に仕立てていくかといった美術館の運営に対する意識や、展覧会や作品を来館者に理解してもらうために行う普及活動に対する意識を高める演習を組み入れた点が特徴である。

【講義】

- ① 静岡県立美術館の活動について（川谷：学芸員）
博物館実習のオリエンテーションと当館活動の概要について
- ② 美術館の変遷と役割（小針：学芸課長）
日本の美術館の歴史と現状について
- ③ 当館コレクションの形成と収蔵品を生かした展覧会づくりの取り組み（飯田：主任学芸員）
当館コレクションの成り立ちと若冲展など昨今の展覧会例を交えて
- ④ 展覧会ができるまで（森：学芸員）
「物語のある絵画」展の立上げから終了まで展覧会づくりにまつわる活動のドキュメント
- ⑤ 美術館の教育普及活動の現在と課題（福元：教育普及担当）
現在行っている普及活動（粘土、絵画WS、自由工房）について
- ⑥ 作品の保全について（新田：学芸員）
当館の作品保全の取り組みについて一虫害、地震対策など

⑦ これからの美術館経営について1（鷲山：総務課長）

未来の美術館に向けた現在の取り組みについて—ミューアムナビ、アクションプラン作成

⑧ これからの美術館経営について2（泰井：学芸員）
未来の美術館に向けた現在の取り組みについて—美術館評価活動

【実習】

美術品の作品取り扱い実習

実際に作品を手にとり、美術館での作品の取り扱いを実習する。

日本画の取り扱い（飯田、山下：主任学芸員）

油彩画の取り扱い（南：主任学芸員、村上：学芸員）

ワークショップ体験（福元：教育普及担当）

粘土ワークショップに参加し、体験する。

収蔵庫内見学、実習（山下：主任学芸員、新田、川谷：学芸員）

収蔵庫内を見学し、作品の収蔵環境保全についての実務を行う。

【演習】

ギャラリートーク演習（学芸員：堀切）

対象者別の理想的なギャラリートークとは？ディスカッションと実演体験

展覧会企画演習（学芸員：川谷）

館内の特定の場所を想定した展覧会企画プラン作成、プレゼンテーション

【実習期間、カリキュラム】

第1日目 7月25日（月）

10：00～11：00 講義① 静岡県立美術館の活動について（川谷）（60分）

11：10～12：00 講義② 美術館の変遷と役割（小針）（50分）

昼食

13：00～14：20 見学 施設見学（伊藤）（80分）

14：30～16：00 演習① ギャラリートーク演習（堀切）（90分）

16：00～17：00 実習ノート整理、課題制作

第2日目 7月26日(火)

- 10:00~10:50 講義③ 当館コレクションの形成と収蔵品を生かした展覧会づくりの取り組み (飯田) (50分)
11:00~12:00 講義④ 展覧会ができるまで (森) (60分)

昼食

- 13:00~14:30 実習① 資料整理 (山下) (90分)
14:40~16:10 演習② 展覧会企画演習 (川谷) (90分)
16:10~17:00 実習ノート整理、課題制作

第3日目 7月27日(水)

- 10:00~10:50 講義⑤ 美術館の教育普及活動 (福元) (60分)
11:00~11:40 講義⑥ 作品の保全について (新田) (40分)
11:40~12:10 作品保全の取り組みを収蔵庫にて見学 (新田、飯田、川谷) (30分)

昼食

2グループに分かれて活動
Aグループ

- 13:00~14:10 実習② 作品取り扱い実習1 (日本画—飯田、山下) (70分)
14:20~15:30 実習③ 作品取り扱い実習2 (油彩画、版画—南、村上) (70分)
15:30~17:00 実習ノート整理、課題制作

Bグループ

- 13:00~16:30 実習④ ワークショップ体験実習 (福元) (150分)
16:30~17:00 実習ノート整理、課題制作

第4日目 7月28日(木)

- 10:00~10:50 講義⑦ これからの美術館経営について1 (鷺山) (50分)
11:00~12:00 講義⑧ これからの美術館経営について2 (泰井) (60分)

昼食

2グループに分かれて活動

Aグループ

- 13:00~16:30 実習④ ワークショップ体験実習 (福元) (150分)
16:30~17:00 実習ノート整理、課題制作

Bグループ

- 13:00~14:10 実習② 作品取り扱い実習1 (日本画—飯田、山下) (70分)
14:20~15:30 実習③ 作品取り扱い実習2 (油彩画、版画—南、村上) (70分)
15:30~17:00 実習ノート整理、課題制作

第5日目 7月29日(金)

- 10:00~12:00 演習③ ギャラリートーク演習 (堀切) (120分)

昼食

- 13:00~14:30 演習④ ギャラリートーク演習 (堀切) (90分)
14:30~16:30 実習⑤ 収蔵庫内清掃 (新田、山下、川谷) (120分)
16:30~17:00 実習ノート整理、課題制作

第6日目 7月30日(土)

- 10:00~12:00 演習⑤ 展覧会企画演習 (川谷) (120分)

昼食

- 13:00~14:00 まとめ
14:00~14:20 実習ノート整理

対外活動

館職員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

<講演会>

飯田 真：「富士山の美術」【ふじさんネットワーク・富士山勉強会／沼津市立図書館】1月28日

山下善也：講演「富士山の絵画の歴史—桃山時代までを中心に」【富士市立博物館】4月17日

「高田敬輔と小泉斐」展記念座談会パネラー【滋賀県立近代美術館】5月8日

講演「富士山と美術」【NPO法人富士山を世界遺産にする国民会議シンポジウム／東京・明治記念館】7月8日

講演「絵画の旅—狩野派発、若冲行」

【大分市美術館】12月3日

堀切正人：「ロダン彫刻の見方」【静岡県保育所連合会・保育所長研修会／静岡県総合社会福祉会館】4月26日

「美術館へのいざない」【しずおか子ども美術の会夏季実技研修会／島田学園付属幼稚園】7月30日

講演「静岡NewArt展について」【旧浜松銀行協会】10月2日

講演「ロダン彫刻の見方、楽しみ方」【聖隷クリストファー大学】2月18日

福元清志：常葉学園夏季教職員研修会講演【常葉学園大学】8月1日

志太美術教育連盟学習会講演【静岡県立美術館】11月23日

川谷承子：静岡教課研図画工作美術科教育研究部夏季研修会【静岡市教課研】8月10日

泰井 良：講演「二代五姓田芳柳と《新潟信濃川図》」【新潟市郷土歴史博物館】11月12日

講演「山下充の芸術について」【フェルケール博物館】10月29日

森 充代：講演「近藤浩一路 水墨の魅力」【近藤浩一路記念南部町立美術館】11月23日

<講座等>

小針由紀隆：「西洋美術史B」【常葉学園大学集中講義】11月26日、12月3日

「静岡県立美術館の今」【東海短期大学「総合人間講座」講義】10月21日

中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業【静岡県立清水南高校中等部】1月18日

飯田 真：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業【常葉学園菊川中学校】12月6日

山下善也：「江戸時代の富士山図—画題の変奏—」【土曜講座／東京・太田記念美術館】7月9日

中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業【富士市立田子浦中学校】1月17日

【富士市立大淵中学校】1月19日

南 美幸：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業【磐田市立福田中学校】1月10日

堀切正人：裾野東中学校ワークショップ 9月15日

SUAC学生によるワークショップ 10月9日

「現代美術講座」【出張講義／常葉学園大学】7月1日・8日

ロダン体操【細江小学校】10月19日

彫刻学習指導【沼津市立静浦中学校】

11月9日

中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業【清水町立南中学校】12月20日

【伊東市立対島中学校】1月12日

【浜松市立都田中学校】1月12日

「静岡NewArt展—学校・市民連携による共同企画展」【静岡県博物館協会研修会／三島市民生涯学習センター】1月25日

新田建史：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業【磐田東中学校】12月15日

【小山町立小山中学校】1月12日

福元清志：「高等学校教職1年経験者研修」【県教育委員会】8月23日・24日

川谷承子：移動美術展・出張美術講座

【静岡県立横須賀高等学校】10月27日

【掛川市立大須賀中学校】10月28日

【伊東市立東小学校】11月18日

中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業【熱海市立初島中学校】12月16日

村上 敬：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業【静岡市立井川中学校】12月13日

【静岡大成中学校】12月14日

泰井 良：「美術の20世紀—豊かな表現」【美術の20世紀展美術講座／滋賀県立近代美術館】6月26日

移動美術展ギャラリートーク

【伊東市公民館】11月27日

中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業【浜松市立引佐南部中学校】1月20日

森 充代：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業【浜松市立南部中学校】1月16日

<美術館友の会事業への協力>

(講座講師)

山下善也ほか：「新収蔵品展フロアレクチャー」4月26日

飯田真・山下善也・森充代：

「講座：日本画をじかに見る」1月29日 午前

<静岡県博物館協会>

当館は同協会の事務局として、協会加盟館園の協力のもとに以下の事業を行った。

(1)役員会・総会の開催 5月31日(県立美術館)

役員会の開催 2月28日(県立美術館)

(2)博物館園の災害時における対策研究

・検討会(事業運営グループ)

6月29日、9月30日、1月25日、3月10日

・講演会・シンポジウムの共催

9月30日 静岡県地震防災センター

「災害から人と文化財を守る」矢田俊文氏(新潟大学人文学部教授)パネラー：天野一氏ほか

主催：(財)伊豆屋伝八文化振興財団

・災害対策講習会の開催

12月3日「興津・由比 文化財ウォーク」

清見寺ほか

3月10日「揺れ動く文化財～震災による文化財の被災を実見する～」 静岡県立美術館

(3)地域セミナー

・バンドウイルカ飼育75周年記念講演会「鯨類の飼育と調査・研究～その歴史と現状～」 11月12日 沼津市立図書館 講師：大隈清治(日本鯨類研究所顧問)・加藤秀弘(水産総合研究センター遠洋水産研究所)

主催：伊豆三津シーパラダイス・静岡県博物館協会

・掛川市合併記念講演会 吉岡彌生を語る 12月10日 掛川市文化会館シオーネ 大ホール

上映会「時代の先駆け 吉岡彌生伝」

基調講演「教育者、人間、吉岡彌生先生と」酒井シズ(順天堂大学客員教授)

吉岡彌生を語る 吉岡博光、鷺山さちえ、松本洋一郎

主催：吉岡彌生記念館・静岡県博物館協会

(4)研修会の開催

1月25日「博物館教育とは」三島市民生涯学習センター 報告：堀切正人・北垣俊明・内田昌宏

(5)会報の発行

「静岡の博物館 No.55」 9月30日

「静岡の博物館 No.56」 3月31日

(6)研究紀要第29号の発行 3月31日

(B5版、コート紙、含単色図版、700部)

(7)静岡県博物館協会ホームページの保守・運営

(8)東海地区博物館連絡協議会

(日本博物館協会東海支部)理事会・総会

7月15日 横浜情報文化センターにて開催された。

(9)随時各館園の資料及び情報の交換を行ない、連絡、調整をはかった。

<その他>

(委員等)

小針由紀隆：静岡アートギャラリー企画協力委員

第43回静岡県芸術祭審査委員長代理

飯田 真：豊橋市美術博物館資料収集委員

山下善也：NPO法人富士山を世界遺産にする国民会議・富士山文化遺産登録調査委員会委員(美術担当)

韮山町・江川文庫調査(文化庁・静岡県教委主催)調査委員(書画担当)

静岡市文化財保護審議委員

『美術史』査読委員

福元清志：「しずおか子ども美術の会」作品審査、講評-静岡市民ギャラリー(1/11)

泰井 良：財団法人地域創造

公立美術館等活性化事業企画検討委員会委員
財団法人日本博物館協会

博物館経営・運勢の指標(ベンチマーク)委員会委員

常務委員会委員

美術史学会 美術館・博物館委員会委員

主要刊行物

平成17年度に当館より刊行された主要刊行物は、以下のとおりである。これに関連する展覧会については、展覧会活動の頁を参照されたい。

版型

27.5×21×1.2cm 174頁

内容・構成

■あいさつ

■凡例

■「誘惑の光景」の扉を開ける前に

■出品作家紹介

■図版

□セクション1 失樂園

- ・失樂園 : ストーリーと登場人物
- ・ジョン・マーティン
- ・ギュスターヴ・ドレ

□セクション2 聖書

- ・聖書 : ストーリーと登場人物
- ・ジョン・マーティン
- ・ジョン・マーティン、リチャード・ウェストール
- ・ギュスターヴ・ドレ

■エッセイ

- ・南美幸「見る物語／イメージの共有」
- ・新田建史「誘惑者の翼について」

■図版

□セクション3 ファウスト

- ・ファウスト : ストーリーと登場人物
- ・ウジェーヌ・ドワクロワ
- ・トニー・ジョアノ

□セクション4 シェイクスピア

- ・『リア王』ジェイムズ・バリー
- ・『マクベス』ウィリアム・ブレイク
- ・『マクベス』ウジェーヌ・ドワクロワ
- ・『ハムレット』ウジェーヌ・ドワクロワ
- ・『オセロー』テオドール・シャセリオー

■巻末資料（欧文データ）

■文献表

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4版8ページ、オールカラー

■第77(春)号 2005年4月1日発行

- ・表紙 エルンスト・バルラッハ《読書する僧たちⅢ》
／村上 敬 ……………p. 1
- ・吉岡健二郎館長の逝去を悼む／小針由紀隆 ……………p. 2
- ・静岡県立美術館・滋賀県立近代美術館の名品80点でたどる
美術の20世紀—豊かなる表現—／泰井 良 ……………p. 3
- ・平成16年度新収蔵品のご紹介／泰井良、山下善也、
南美幸 ……………p. 4, 5
- ・研究ノート ジョアン・ミッチェルの《湖》の色彩、
構図のモダニズム的特質／川谷承子 ……………p. 6, 7
- ・本の窓 『宮芳平自伝—森鷗外に愛された画学生M君
の生涯—』／堀切正人 ……………p. 7
- ・自由工房「版画入門」／福元清志 ……………p. 8

■第78(夏)号 2005年7月1日発行

- ・表紙 松岡映丘《今昔ものがたり 伊勢図》/
森 充代 ……………p. 1
- ・物語のある絵画—日本画と古典文学の出会い/
森 充代 ……………p. 2
- ・アルタイの至宝展／村上 敬 ……………p. 3
- ・新任館長よりごあいさつ／下山 肇 ……………p. 4
- ・普及事業報告 絵画ワークショップ「ドット若沖」/
福元清志 ……………p. 4
- ・収蔵品展のご紹介／堀切正人 ……………p. 5
- ・ただいま準備中! 静岡New Art 「あなたの居場所」
展／堀切正人 ……………p. 5
- ・研究ノート 狩野探幽と鳥の写生—新収蔵《白鷺図》
から—／山下善也 ……………p. 6, 7
- ・本の窓 『デュシャンは語る』／新田建史 ……………p. 7
- ・美術館問はず語り 「美術品調査のいろいろ」/
飯田 真 ……………p. 8

■第79(秋)号 2005年10月1日発行

- ・表紙 田中 孝《Breeze - 2》／村上 敬 ……………p. 1
- ・収蔵品展のご紹介 「版画と写真—複製芸術の可能性」
／村上 敬 ……………p. 2
- ・ただいま準備中! 我が愛しのコレクション/
川谷承子 ……………p. 2
- ・夏休み期間中の普及活動報告／福元清志/
……………p. 3
- ・文人の夢 田能村竹田の世界／山下善也 ……………p. 4
- ・「誘惑の光景—19世紀のロマン主義版画・ドラクロワ、
ジョン・マーティンなど—」／南美幸 ……………p. 5
- ・研究ノート 田中孝《On The Table》《Breeze-2》に
ついて／村上 敬 ……………p. 6, 7
- ・本の窓 『イタリア、旅する心』／新田建史 ……………p. 7
- ・美術館問はず語り 「空港と美術館の相関関係」/
鷺山伊佐夫 ……………p. 8

■第80(冬)号 2006年1月2日発行

- ・表紙 狩野永良《西王母・東方朔図屏風》/
山下善也 ……………p. 1
- ・西洋美術への招待／小針由紀隆 ……………p. 2
- ・実技講座〈墨と和紙で絵画〉／福元清志 ……………p. 3
- ・花鳥風月—屏風絵の世界／山下善也 ……………p. 4
- ・「静岡ゆかりの画家たち」展／泰井 良 ……………p. 5
- ・研究ノート 松岡映丘筆《宇治の宮の姫君たち》
—左隻主題の検討—／森 充代 ……………p. 6, 7
- ・本の窓 『グループ『幻触』の記録』/
堀切正人 ……………p. 7
- ・美術館問はず語り 「草薙のんびりツアー」/
堀切正人 ……………p. 8



第77(春)号



第78(夏)号



第79(秋)号



第80(冬)号

施設利用状況(年度別)

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数	
61	93,918	8,005	10,000			
62	95,635	9,911	10,000			
63	112,528	10,346	14,714			
元	98,806	12,474	11,937			
2	101,477	11,432	8,274			
3	91,342	13,755	8,545			
4	109,287	14,442	9,499			
5	95,903	10,927	9,308			
6	108,004	12,060	9,159			
7	73,254	10,717	7,015			
8	109,076	9,487	8,621			
9	87,436	10,615	6,486	4,257		
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132	
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154	
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235	
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361	
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306	
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345	
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299	
17	69,357	11,762	4,626	4,904	289	
17 年度 月別 内 訳	4	3,962	1,140	272	301	5
	5	5,879	899	320	490	25
	6	2,009	700	290	183	15
	7	3,239	2,356	510	508	50
	8	10,730	729	872	1,399	54
	9	8,408	789	484	392	39
	10	13,343	1,607	423	329	22
	11	5,564	456	299	206	24
	12	4,132	1,371	281	152	11
	1	1,539	198	313	315	14
	2	2,436	575	215	150	5
	3	8,116	942	347	479	25
	計	1,748,398	233,986	155,252	98,560	2,121

県民ギャラリー利用状況

No	公開開始	公開終了	日数	会場	入場料	展覧会名	主催者名	入場者数(人)
1	4/1 (金)	4/3 (日)	3	AB	無	静岡県写真協会写真展	静岡県写真協会	529
2	4/12 (火)	4/17 (日)	6	AB	無	鎌倉彫一翠会展	一翠会	1,271
3	4/19 (火)	5/1 (日)	12	AB	無	第32回二科会静岡県支部美術展	二科会静岡支部	2,390
4	5/3 (火)	5/8 (日)	6	A	無	私のアフガン写真展	菅沼隆二	1,669
5	5/3 (火)	5/8 (日)	6	B	無	現代拓技画展	清美会	1,113
6	5/10 (火)	5/22 (日)	12	AB	無	第42回静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	1,919
7	5/24 (火)	5/29 (日)	6	AB	無	第24回一基書展	一基会	950
8	6/7 (火)	6/19 (日)	12	AB	無	第70回静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,354
9	6/21 (火)	6/26 (日)	6	A	無	形象派美術協会展	形象派美術協会	417
10	6/28 (火)	7/3 (日)	6	AB	無	第15回静岡県女流美術協会展	静岡県女流美術協会	821
11	7/12 (火)	7/18 (月)	7	AB	無	第17回静岡独立美術展	静岡独立美術協会	818
12	7/20 (火)	7/24 (日)	5	AB	無	千世の会書展	千世の会	568
13	7/26 (火)	7/31 (日)	6	AB	無	静岡自由美術展	静岡自由美術	1,270
14	8/2 (火)	8/7 (日)	6	AB	無	森正一米寿展	鈴木 英利	1,617
15	8/9 (火)	8/14 (日)	6	AB	無	第14回静岡県写真愛好者秀作展	静岡県写真愛好者秀作展実行委員会	1,884
16	8/16 (火)	8/21 (日)	6	A	無	第4回墨絵展	佐野美術館友の会	1,999
17	8/16 (火)	8/21 (日)	6	B	無	富士山写真展	富士山を愛し撮る会	2,680
18	8/23 (火)	8/28 (日)	6	A	無	静岡能面研究会工芸展	静岡能面研究会	1,356
19	8/30 (火)	9/4 (日)	6	A	無	静岡和紙ちぎり絵研究会展	静岡和紙ちぎり絵研究会	2,650
20	8/30 (火)	9/4 (日)	6	B	無	庫流きものギャラリー	三輪 民庫	1,587
21	9/10 (土)	9/25 (日)	15	AB	無	第45回静岡県芸術祭美術展	県教育委員会・県立美術館	5,135
22	9/28 (水)	10/10 (月)	13	AB	無	静岡New Art「あなたの居場所」展	県立美術館	1,276
23	10/12 (水)	10/16 (日)	5	AB	無	第23回静岡県なつやすみ読書感想画コンクール	静岡新聞社・静岡放送	2,481
24	10/18 (火)	10/30 (日)	12	AB	無	ねむの木学園ナイーブアート展	ねむの木学園	9,816
25	11/1 (火)	11/6 (日)	6	A	無	陶による源氏物語の世界展	舞土工房	1,020
26	11/1 (火)	11/6 (日)	6	B	無	プリザーブドフラワーアレンジメント作品展	APA静岡プリザーブドフラスクール	1,118
27	11/8 (火)	11/13 (日)	6	AB	無	第53回静岡県高等学校美術・工芸展 中部支部展	静岡県教育委員会	1,086
28	11/15 (火)	11/20 (日)	6	AB	無	第53回静岡県高等学校美術・工芸展 県展	静岡県教育委員会	1,130
29	11/22 (火)	11/27 (日)	6	AB	無	第6回全国阿波藍染織作家協会作品展	全国阿波藍染織作家協会	935
30	11/29 (火)	12/4 (日)	6	AB	無	第31回静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	1,367
31	12/6 (火)	12/18 (日)	12	AB	無	第33回静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	1,697
32	12/21 (水)	12/25 (日)	5	A	無	新槐樹社静岡県支部展	新槐樹社静岡県支部	675
33	12/21 (水)	12/25 (日)	5	B	無	花のようなケーキ・シュガーケーキ展	小林 恵理子	668
34	1/17 (火)	1/22 (日)	6	AB	無	第26回オリジナルクラフト展	NPO法人静岡県クラフト協会	836
35	1/24 (火)	1/29 (日)	6	AB	無	第18回静岡県盲・聾・養護学校高等部合同作品展	静岡県教育委員会	703
36	1/31 (火)	2/12 (日)	12	AB	無	第9回静岡県すこやか長寿祭美術展	(財)しずおか健康長寿財団	2,436
37	3/3 (金)	3/5 (日)	3	AB	無	TWO DAYS & FOUR PRODUCTS	(株)共栄	489
38	3/7 (火)	3/12 (日)	6	AB	無	第27回 ジュニア県展	静岡新聞社・静岡放送	3,647
39	3/14 (火)	3/26 (日)	12	AB	無	第26回山岳写真の会「白い峰」写真展	山岳写真の会「白い峰」静岡支部	3,213
40	3/28 (火)	4/2 (日)	6	AB	無	第25回一基書展	一基会	767
計							40件	69,357

広報活動(ホームページ)

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、マスコミなどを通じ、広く館活動の広報を行っているが、近年では類似施設の増加、広報手段の多様化に伴い、入館者増加のために新たな広報展開が必要になってきている。

ここでは、紙媒体を中心にした広報活動とともに、新たな広報メディアとして注目されるホームページの運営について記載する。

<広報活動>

- ・ 展覧会等のイベント情報のマスコミへの資料提供
- ・ ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ・ 学校に対する学校関係イベント情報の提供
- ・ 県広報課との連携(県民だより、県政番組など)
- ・ ラジオ番組出演での広報活動(FM-Hi、FMしみず)
- ・ 広報サポーターへの情報提供
(展覧会ごとに、ポスター・チラシを送付、口コミでの広報を依頼)
- ・ 展覧会ごとの共催社(新聞社・テレビ局)、協賛社(JR東海)との連携
- ・ 広告掲載・テレビスポット放映、特集紙面、番組への協力など

<ホームページ>

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

静岡県立美術館ホームページは、平成8年度末に開設され、今年度で9年目を迎えた。年度別のアクセス概数は以下のとおりである。

平成8年度末～9年度(1997)

6000

平成10年度(1998)	12000	累計	18000
平成11年度(1999)	21000	累計	39000
平成12年度(2000)	40000	累計	79000
平成13年度(2001)	70200	累計	149200
平成14年度(2002)	87300	累計	236500
平成15年度(2003)	85000	累計	321500
平成16年度(2004)	98000	累計	419500
平成17年度(2005)	103500	累計	523100

アクセス数はインターネットの普及に伴い年々増加してきたが、本年度は103500(一日平均283)アクセスと前年より5500増え、過去最高を記録した。

コンテンツの充実を図ることにより、魅力あるホームページを提供するよう運営に努めており、平成14年度よりさまざまなコンテンツを新たに追加したが、

16年度は、5月～12月にはロダン館10周年に合わせたデザインに改良し、その後は、風景とロダンの美術館であることを示すデザインに変更した。また、メニュー画面も見やすく改善を図った。

さらに、広く利用者に情報を伝えるために、16年1月からは携帯電話からアクセスできるサイトを新設し、情報の提供を開始した。

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/i/>

また、アンケートも以下のとおり継続実施した。

- ・ ホームページアンケート

ホームページ改善の資料とするため、WEB上でのアンケートを実施、聴取内容は以下のとおりでメールで回答できる形にした。

1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか
2. 当ホームページの情報内容について
3. 当ホームページの更新頻度について
4. 当ホームページのデザインについて
5. 当ホームページの見やすさについて
6. その他、当ホームページに対するご意見、ご要望

各項目、概ね満足度は高いが、字の大きさやデザインなど改善の参考になる意見も寄せられた。なお、回答者の中からほぼ2ヶ月毎に抽選で5名の方に次回企画展の招待券をプレゼントした。

紀要の発行

当館は、美術館建設準備室時代の昭和58年に紀要第1号を刊行し、以後毎年1回のペースで刊行を続けてきた。

その目的は、美術館活動の基礎となる学芸員の調査・研究成果を広く公開し、館蔵品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。従って、研究テーマは主に館蔵品であるが、各学芸員の研究意欲に従い、広く美術および美術館をとりまく諸問題まで取り扱う。成果品は、例年のように、全国の研究機関、研究者へ配布した。

第21号

■版型 29.7×21.0cm

■内容

□口絵図版

- ・今村紫紅《宇津の山路》（全図、部分図） 当館蔵
- ・今村紫紅《鳶の細道》 横浜美術館蔵

□論文

- ・小針由紀隆「狩猟図とパレルゴンーフェデリコ・ズッカロの素描を始点にした一考察」
- ・堀切正人「黒川翠山の富士山写真－写真の虚構性をめぐって－」
- ・森充代「今村紫紅《宇津の山路》考」

□各論英文レジュメ

■発行 平成18年3月31日

研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌などへの寄稿や、図録等の作品解説などは除いている。

◆小針由紀隆

- ・「狩猟図とパレルゴン」『静岡県立美術館紀要』第21号（平成18年3月）
- ・「研究ノート 1600年か1604/5年か？ークロード・ロランの生年を考える」『アマリリス』No.81（静岡県立美術館ニュース／平成18年4月）

◆飯田 真

- ・「文学の中の風景、風景の中の文学」『物語のある絵画』展図録（静岡県立美術館／平成17年6月）
- ・「竹田の真景図 旅と友ー「自娛」の風景」『文人の夢・田能村竹田の世界』展図録（静岡県立美術館／平成17年9月）

◆山下善也

- ・「絵画と和歌の幸せなセッション」『物語のある絵画』展図録（静岡県立美術館／平成17年6月）
- ・「竹田らが目にしていた狩野派作品ー永養・常信・永伯ー」『文人の夢・田能村竹田の世界』展図録（静岡県立美術館／平成17年9月）
- ・「研究ノート 狩野探幽と鳥の写生ー新収蔵《白鷗図》からー」『アマリリス』No.78（静岡県立美術館ニュース／平成17年7月）
- ・口頭発表「富士山と美術」（富士山世界遺産シンポジウム講演 東京・明治記念館 「NPO法人富士山を世界遺産にする国民会議」シンポジウム 平成17年7月8日）

◆南 美幸

- ・「見る物語／イメージの共有」『誘惑の光景』展図録（静岡県立美術館／平成17年11月）

◆堀切正人

- ・「静岡NewArt「あなたの居場所」展について」『静岡NewArt「あなたの居場所」展 記録集』（静岡県立美術館／平成18年3月）
- ・「静岡New Art「あなたの居場所」展。浜松サテライトについて」『博学』No.4（静岡文化芸術大学／平成18年3月）
- ・「黒川翠山の富士山写真ー写真の虚構性をめぐってー」『静岡県立美術館 紀要』第21号（平成18年3月）

◆新田建史

- ・「誘惑者の翼について」『誘惑の光景』展図録（静岡県立美術館／平成17年11月）

◆川谷承子

- ・「絵画の触覚性」『美術の20世紀ー豊かなる表現』展図録（静岡県立美術館・滋賀県立近代美術館／平成17年4月）

◆村上 敬

- ・「感性の古層を尋ねる旅ー「越境する美術」への解題」『美術の20世紀ー豊かなる表現』展図録（静岡県立美術館・滋賀県立近代美術館／平成17年4月）
- ・「研究ノート 田中孝《On the Table》《Breeze-2》について」『アマリリス』No.79（静岡県立美術館／平成17年10月）

◆泰井 良

- ・「美術の20世紀ー豊かなる表現」『美術の20世紀ー豊かなる表現』展図録（静岡県立美術館・滋賀県立近代美術館／平成17年4月）
- ・「山下充の芸術について」『山下充展』図録（フェルケル博物館／平成17年10月）
- ・学会発表「ミュージアムにおける評価導入と汎用的指標の策定について」（笹川科学助成研究 研究奨励会／平成18年2月）
- ・学会発表「ミュージアムにおけるミッションと戦略の策定についてー静岡県立美術館の事例をもとにー」（日本ミュージアムマネジメント学会(JMMA)研究例会／平成18年2月）

◆森 充代

- ・「〈絵画〉と〈文学〉が会うためにー松岡映丘と鏑木清方」『物語のある絵画』展図録（静岡県立美術館／平成17年6月）
- ・「研究ノート 松岡映丘筆《宇治の宮の姫君たち》ー左隻主題の検討」『アマリリス』No.80（静岡県立美術館ニュース／平成18年1月）
- ・「今村紫紅《宇津の山路》考」『静岡県立美術館 紀要』第21号（平成18年3月）

研究会

平成17年度に開催した研究会の題目と要旨は以下のとおりである。この研究会は、準備室時代から始まり、ほぼ月1回ペースで現在まで実施されている。発表者である学芸課職員は自由にテーマを選択できるが、当館における展覧会企画や館蔵品研究に関わる発表が少なくない。発表時間は約40分で、発表後は館長及び同僚たちとの質疑応答にはいる。20数年続いているこの研究会は、当館に根付いたアカデミックな伝統であり、ここから有益な示唆を得ることも多い。

5月

川村清雄作品における岩について

—《巨岩海浜図》の寓意を推察する—

発表者：堀切正人

静岡県立美術館所蔵の川村清雄《巨岩海浜図》は、描かれている巨岩や周囲の人々の主題がはっきりせず謎めいている。川村が日本近代洋画史において、寓意画を描くことのできる特異な画家であったことを考えると、この作品についても、何らかの寓意がこめられているのではないだろうか。近年、江戸東京博物館所蔵の膨大な川村家の資料が整理され、その中から《巨岩海浜図》に関連すると思われるスケッチなどが発見された。それらをもとに、川村作品における岩の描写のあとをたどり、川村が岩を吉祥と時の寓意として扱おうとしていたと推測した。川村が「君が代」の歌詞を大量に書き残していることや、《巨岩海浜図》が下田の風景であることなども勘案し、時代の流れの中で寓意表現の確立を試みた川村の労苦についても思いをはせた。

7月

田中孝《On The Table》《Breeze-2》について

発表者：村上 敬

当館では、平成2年度に、田中孝の作品《On The Table》《Breeze-2》を購入・収蔵した。1948年大津市生まれの田中は、京都市立芸術大学在学中からシルクスクリーンによるトリッキーな作品を発表、木村秀樹、安東奈々らとともに、70年代の版画ブームを支える作家の一人であった。

以上のような経歴から、田中の作品はトリックへの興味を中心に鑑賞されることが多い。しかし論者は、当館および和歌山県立近代美術館等の所蔵作の分析や文献資料の利用により、田中作品の表現の狙いは、ト

リックの冴えよりもむしろ「日常と隔絶した静謐な世界」を現出させることにあると主張した。また、その制作の実際においては、版の持つ「間接性」を有効に利用した表現と禁欲的な色彩処理が大きな役割を果たしていることも示唆した。

8月

田能村竹田「真景図」をめぐる

——旅と友～「自娛」の風景——

発表者：飯田 真

田能村竹田は、繊細な筆致により香気あふれる独自のスタイルを確立した江戸後期を代表する文人画家のひとりである。本発表では、竹田様式といわれる作画スタイルを具体的に確認すると同時に、竹田に「真景図」の作例が多いことに着目し、作例を紹介しながらその特質について考察した。旅の多かった竹田にとって、自分が体験した風景を題材にすることは自然であったが、そこには、友・理解者との語らい、酒、別離といった場面が念頭に置かれていることが多く、個人的感情と風景が結びついた表現となっている。それが「自娛」の絵画である竹田絵画の作画姿勢と大いに関係していることを指摘した。さらに、同時代の風景表現と比較した時、描かれる場所が多様になったことは軌を一にするが、その内容は文人画ならではの独特の様相をもっており、それが竹田絵画の特質となっていることにも言及した。

9月

鈴木慶則のだまし絵に見る「キッチュ」的特質

発表者：川谷承子

平成17年度に収蔵品に加わった、鈴木慶則の《非在のタブロー》シリーズ2点を含む、鈴木の一連のだまし絵を取り上げ、作風の変遷を分析すると共に、70年以降、次第に強まった「キッチュ」的性質についての考察を行った。鈴木のだまし絵は、1960年代末から1970年代初頭にかけて制作されたが、60年代に制作された作品は、グループ「幻触」の他の作家にも共通して見られる目騙し的な要素が強くみられるのに対し、70年以降の作品には、長い間、鈴木が深く交流を持った評論家石子順造の「キッチュ」という考えの影響が強く見られる。「民衆の生活の中で生成し、民衆の生活感覚、意識のフォルムともなった表現」としての「キッチュ」的性質に現代のリアリティを見出した石

子と、実作を通して石子の思想を表現した鈴木。発表では、《作品 - ゴッホによる》や《シーン》をはじめ70年代初頭の複数の作例をあげ石子の思想と鈴木の子の濃密な関連性を論じた。

10月

狩猟図とパレルゴン

発表者：小針由紀隆

16世紀後半から17世紀前半、フィレンツェとローマで制作された狩猟図は、王侯貴族や大市民の大掛かりな狩猟のありさまをよく伝えている。フィレンツェのメディチ家に仕えたフェデリーコ・ズッカロ、アントーニオ・テンペスタ、ジャック・カロらは、娯楽の一環としての狩猟を広大な風景の中に描き出している。

これらの作例を観察して気づくのは、美術家たちが遊興としての狩猟を表象しようとしたとき、画面の左前方によく似た狩猟者グループを組み込んでいたことである。変形されているとはいえ、一定の狩猟者グループが、どうして注目されたのだろうか？

この問題に取り組むにあたって、発表者は次の二点に留意した。第一に、狩猟者グループは狩猟本来の出来事である獲物との闘いとどのような関係にあったのか。第二に、狩猟は主題の枠組みと歴史の中で、どのような位置を与えられていたのか。拙考はいきおい、パレルゴンという美的概念と結びついていく。

11月

徳川慶喜の油彩画について

—静岡県立美術館所蔵作品に関する調査

発表者：泰井 良

静岡市清水区から徳川慶喜の油彩画が発見された。慶喜の油彩画は、これまで5点が現存確認されており、本作は、6点目にあたる新出作品である。本発表では、東京文化財研究所・山梨絵美子氏がなされた調査に基づき、作風や来歴の調査を行い、最終的に徳川慶喜作品であることを確認するに至った経緯について説明をした。精緻な筆法、おそらく実景ではなく何か模本を基に制作したと思われる画面構成など先行研究による慶喜の作風が、本作にも対応できる。本作は、江戸と明治をつなぐ黎明期の油彩画として、貴重な作品である。

12月

「見る物語」のための創意

—《ファウスト》から《ハムレット》へ

発表者：南 美幸

今年度の自主企画展「誘惑の光景—19世紀のロマン主義版画・ドラクロワ、ジョン・マーティンなど—」のカタログに掲載したエッセイのうち、ドラクロワに焦点を当てた発表。文学書の挿絵を描くという試みは、ドラクロワの生涯の中で複数回行われた。中でも、《ファウスト》と《ハムレット》の両連作を比較した場合、前者では背景を忠実に描きこんでいるが、後者では細部描写の省略化と登場人物のポーズなどによって、各場面を現代劇の一場面のような構成に仕立てている。こうした作風の変化は、作品の売れ行きや公衆の趣味に配慮した結果であることが推測されるが、同時代のボードレールなどに「文学的」と評されたにもかかわらず、作者の意図を一般大衆が理解することはなかった。

1月

「ジョン・マーティン作

『失樂園』に見られるドームについて」

発表者：新田建史

当館には19世紀イギリスの画家・版画家ジョン・マーティン（1789～1854年）のヒット作『失樂園』（1825～1827年刊行）が所蔵されている（P-128-940(1～24)）。本作品には、サタンによってアダムとイヴが誘惑されていく姿が描かれており、広大な風景表現を背景にしたその描写には、サタンが建設した万魔殿や、天国の宮殿などの建築物が含まれている。それらのうち第4図《万魔殿の出現》、第22図《天国—祝福の河》にはドーム状のモチーフが描かれており、類似するモチーフが第5図《地獄の会議を統括するサタン》にも見られる。本発表では、同じくマーティンの《想像し難い程の栄光に輝く都市の図》（1824年頃）をそれらの着想源として指摘した。この作品はEdwin ATHERSTONEの小説 *A Midsummer Day's Dream* の挿絵として描かれたもので、『失樂園』刊行直前の作品であり、これまで第7図《神の宮殿》、第22図《天国—祝福の河》とのみ関連付けて語られてきたものである。本発表ではさらに『失樂園』に見られる天国と地獄、天使とサタンらを対比的に描写する傾向の中で、上記のドームというモチーフも捉え得るものであり、この対比的な描写という手法が恐らくは同時代人にとっては把握し難いものであった可能性を指摘した。

2月

教育普及プログラムの開発と試行の結果から

—平成17年度に実施した普及事業の事例報告—

発表者：福元清志

平成17年度に開発した教育普及プログラムについて、その成果と今後の問題点について考察した研究発表。当館の普及事業の現状を確認した上で、「子ども鑑賞講座」、「ギャラリートーク・プラス」、「絵の具開放日」など、新たに加わったプログラムの目的や位置づけを説明し、試行した際の様子や参加者の反応を紹介した。これらの事業は、親子と一緒に楽しめる企画として、将来的に大きく発展する可能性を秘めている。また、ギャラリートーク・プラスは銅版画などの作品解説に制作実演をプラスしたものであるが、作品の魅力を理解するのに大変役立ったと、幅広い年齢層から好評であった。展示室での鑑賞と実技室での体験を融合させた取り組みとして、今後、様々な応用が考えられる。最後に、当館の教育普及活動にポツカリ開いた穴として、思春期から20歳代の若者に向けた企画の欠如を指摘し、調査研究を進める必要があることを確認して発表を締めくくった。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行なわれており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル（アイウエオ順）
- (2) 館藏品資料（館藏品番号順）
- (3) 出品作品資料（各企画展ごと）
- (4) 館藏品収集に関わる資料（ジャンル別）

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館藏品などのフィルム・デジタル画像作成整理

- (1) 館藏品のフィルム

新収藏品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による大型カメラでの写真撮影をおこなっている。4×5インチまたはブローニー版のカラーポジを写真原板として受入番号順にホルダーに入れ、キャビネットに整理収納している。

なお、これまでの原板には撮影後10年が経過し、色の劣化が見られるものもあるので、予算の範囲で劣化の激しいもの、使用頻度の高いものについては、再撮影を実施し新しい原板を作成した。

- (2) 館藏品のデジタル画像

コンピュータで利用できるように、平成7年度から館藏品を撮影した4×5インチまたはブローニー版フィルムのフォトCD化を順次進めてきた。

平成16年度から、新収藏品およびフィルムが劣化した作品の再撮影の機会に、美術品写真の専門家に委託し、デジタル一眼レフカメラでの直接撮影を合わせて行なっている。

作成または撮影されたデジタル画像は、CDおよびDVDに保存され、インターネットのホーム・ページや研究会などで活用されている。デジタル画像が作成されていない館藏品もまだあり、それらの遡及撮影が懸案となっている。

- (3) その他

館藏品のほか寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、さまざまな形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料の整理には、ボランティアによる資料整理グループ「グループD」があたっており、整理が進んでいる。

■展覧会資料の整理

企画展などの文書および資料については、各展覧会ごとに整理が行なわれ、キャビネットに収納されている。

■コンピュータによる各種データ管理

館藏品データや図書データなどのコンピュータ化は市販のデータ・ベースソフト「桐」を使用し、以前より進められてきた。入力作業には、ボランティア有志によるコンピュータ入力チーム（「パソコン隊」）の支援をいただいている。新たに発生するデータについては、日常業務の延長上にデータが整っていく方向に道筋を作っている。

（１）館藏品

館藏品の基本データと履歴データが入力されている。デジタル画像は、フォトCD化したものを中心に蓄積されており、主な作品については揃っている。未作成の作品について順次整備を進める必要がある。

履歴データは、5種（伝来・修復歴・展覧会出品歴・収藏品展展示歴・文献掲載歴）のデータファイルで構成され、館藏品受入番号をキーに基本データのファイルとリンク、さらに画像ファイルとリンクしている。新たに発生する履歴データについては、研究・修復・貸出・特別観覧等、諸業務と連動させ、それらの業務で作成されていくデジタルデータを移植している。

これらのデータの見直し作業や表記の統一などを随時実施、公開用フォーマットの検討を行った。データ公開へのコンテンツはほぼ整った。インターネット上での公開には検索エンジン搭載や著作権問題といった検討課題も多いが、館内で公開できる段階には達しており、次年度以降の具体的な実施方法について検討している。

（２）図書

図書は基本的な手作業によって収集・受入・整理作業が行なわれているが、データはデジタル化されている。

新規受入については、図書担当職員によるデジタル入力での受入作業を行ない、図書カードや図書原簿なども連動しプリントアウトしている。

平成17年度には、平成16年度にそろった図書データの見直しを行ない、次年度より、カード検索からパソコン検索への移行する見通しがあった。



平成17年度新収蔵品

平成17年度には、別表のとおり、新たに14件が収蔵品として加わった。これらは、当館の収集方針のうち、「17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画」「ロダンを中心とした内外の近代彫刻」「20世紀以降

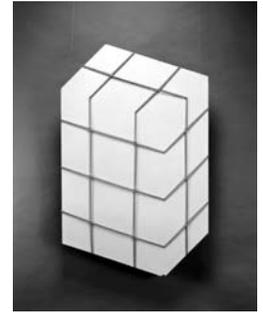
の美術の動向を示す作品」「静岡県ゆかりの作家、作品」という柱に合致する作品群である。ジャンル別の内訳は、日本画2件、日本洋画3件、版画2件、戦後美術7件であった。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質/品質・形状	寸法(cm)	取得方法
1	日本画	浦上玉堂	抱琴訪隠図	江戸後期	紙本墨画、掛幅装	112.0×62.8	購入
							玉堂画の特徴をよく示した山水画の優品。自由奔放な筆遣いが冴える。
							
2	日本画	小林清親	川中島合戦図屏風 風 (裏：龍虎墨竹図)	1910 (明治43)	表：絹本金地着色、裏：紙本墨画淡彩	各166.0×358.8	購入
							晩年に描いた肉筆画の大作。類例が見出されていない貴重な作例。表に着色で「川中島合戦」の様子、裏に水墨で「龍虎墨竹」を描く。
							
3	日本洋画	徳川慶喜	風景	明治初期	紙、油彩	31.0×45.0	寄贈
							作者特有のねばり気のある色彩表現が見られ、水面の表現にかなり気を配っている様子が窺われる。
							

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質/品質・形状	寸法 (cm)	取得方法	
4	日本洋画	川村清雄	水辺	1899 (明治32) 頃	板、油彩	24.9×55.3	寄贈	<p>東洋風の画題を扱い、小品ながら川村の独自の境地をよく示す作品である。</p> 
5	日本洋画	小栗哲郎	裏のみかん山	1968 (昭和43) 頃	キャンヴァス、 油彩	45.6×53.2	寄贈	<p>静岡の風景をモチーフにした作品の一例。市内にあるアトリエ近くの山を淡々と描いた佳品。</p> 
6	版画	ジョヴァンニ・ パッティスタ・ ピラネージ	納骨堂	1742-1749 頃	エッチング、 紙	40.2×27.8	購入	<p>ピラネージ最初期の綺想画。後年の圧倒的な迫力には欠けるものの、確かな描写力と若々しく新鮮なタッチを味わうことができる。</p> 
7	版画	オーギュスト・ ロダン	ミルボー作『拷問の庭』	1902刊行	リトグラフ、 ベラム紙	33.0×26.0 ×2.7 (書籍判型)	購入	<p>モデルの動きを即興的に把握した、ロダン晩年の技法的特徴を物語る素描である。</p> 

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質/品質・形状	寸法 (cm)	取得方法	
8	戦後美術	飯田昭二 (グループ幻触)	Half and Half	1968	鳥籠、靴、鏡	48.4×50.0 ×50.0	購入	鏡によるトリックを巧みに生かした作品。実像と虚像を前に、「見る」という行為を意識させられる作品である。 
9	戦後美術	小池一誠 (グループ幻触)	No.1 石	1969	石	約130.0×約 110.0×約40.0 (展示した状態)	購入	石を切ることを通じて自然と関わりあった行為の痕跡ともいえる作品。 
10	戦後美術	鈴木慶則 (グループ幻触)	非在のタブロー (マグリットによる)	1967	キャンヴァス、 油彩	122.0×96.5 ×4.6	購入	制度としての「美術」に疑いの目を向け、絵画の成り立ちをテーマにしたシリーズのひとつ。 
11	戦後美術	鈴木慶則 (グループ幻触)	非在のタブロー (キリコによる)	1967	キャンヴァス、 油彩、木	101.8×82.0 ×8.0 イーゼル 251.2×85.4	購入	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質/品質・形状	寸法 (cm)	取得方法
							人間の眼の錯覚を利用して、二次元のイメージを三次元の立体に見せかけた作品。
12	戦後美術	丹羽勝次 (グループ幻触)	箱シリーズ '68	1968	プリント合板、 縄	148.5×92.0 ×5.0	購入
							線遠近法を、ものさしに置き換えて、現実の空間に出現させたものである。
13	戦後美術	前田守一 (グループ幻触)	遠近のものさし (折り尺)	1967	プラスチック、 塗料	65.7×493.0 (広げた状態) ×3.8	購入
14	戦後美術	前田守一 (グループ幻触)	遠近のものさし	1967	プラスチック、 塗料	89.0×139.3 ×2.9	購入



■収集点数一覧(昭和55年度～平成17年度)

(1) 購入(平成18年3月31日現在)

(百万円単位)

年度 種類	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	合 計		
	点数																											金額	
日本画		14	9	10	3	7	4	3	5	5	2	1	3	5	8	4	3	5	5	4	1	2	3	7	3	2	118	1,644	
油彩画		14	5	6	10	10	4	6	3	2	1	8	4	3	8	8	2	4	4	3	3	1	4	2	2		117	2,816	
水彩画		4	3	2		2	1					2		2	1	1	4	1	1	2	2	1	1				30	309	
素描		7		1							3					1											12	68	
版画		58	3	60	27	5	16	85	1	3	43	268	4	68	27	152		2	52	37		9	9		60	22	1,011	355	
書	5		2																								7	80	
彫刻		3		1	2	11	2	2	7	3	5	9	12	13	1							1			1		73	2,807	
工芸		1																									1	3	
写真										33	13																46	8	
その他														3	4		4				1					7	19	116	
合計	点数	5	101	22	80	42	35	27	96	16	46	67	288	23	94	49	166	13	12	62	46	7	14	17	9	66	31	1,434	
	金額	74	287	563	483	597	669	240	242	499	392	598	675	768	557	395	397	137	146	120	88	46	39	45	52	56	41		8,206

(2) 寄贈(平成18年3月31日現在)

年度 種類	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	計
	日本画	71		2	17		4		75	4	1	1	3	2				3	3		1		2				189
油彩画		19	1	8		1	6	1	1	1	1							5		2		5		1		3	55
水彩画		1		1					1		1	1	2						4					7			18
素描		50	10	9			2			3			1				1				15						91
版画				176	1		16	1			2	3	1		1		1	4	17	1	1		6				231
書	271		62	1		6																					340
彫刻			1				1				1	2															5
工芸						2	5	1																			8
写真											10																10
その他																						38					38
計	342	70	76	212	1	13	30	78	6	5	16	9	6		1		5	12	21	3	55	5	8	8		3	985

図書資料の収集・整理

■収集

平成17年度の新たな受入れにより、累計で刊行図書33,606冊、美術雑誌18,601冊、美術館等刊行物19,716冊となり、当館蔵書は、71,923冊となった（データのデジタル化完成により冊数把握が容易かつ正確になったため、あらためてカウントし直した。平成16年度までの年報記載の冊数表記を、以降、このように改める）。

各地の美術館等との図書交換（海外を含む）により、展覧会図録の収集も着実に進んでいる。

■分類・整理

平成17年度に行った作業は、以下のとおりである。

1 図書の受入れ・カード化

収集図書を分類表にのっとり分類した後、コンピュータ入力、台帳・カード印刷、配架を行う。

2 分類表の改訂

必要に応じて分類表の部分改訂を行った。

3 誤分類の訂正

分類に誤りのあった受入れ図書に関しては、台帳・カードの記載及び配架場所を改めた。

4 定期刊行物の受入れ

美術雑誌をはじめとする定期刊行物に関して、パーソナル・コンピューターを用いて受入れを行った。

■閲覧

当館には、美術館来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、開架の約1000冊の美術図書と、美術雑誌や当館刊行物を自由に閲覧できるようになっている。また、カードによる請求で、閉架図書も閲覧できる。受付には当館ボランティアがあたっている。平成17年度の利用者は4,626人。昨年度の4,377人より、利用者249人増となった。

なお、美術情報が検索できるようインターネット端末を2台設置している。

図書データのデジタル化・データの見直しが年度末には完了できたため、いよいよ平成18年度からは、カード検索からコンピューター検索へ移行する。



館蔵品の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
1	横山大観	春園の月	茨城県天心記念五浦美術館	花めぐりー日本画にみる花ー	天心記念五浦美術館 (4/29-6/5)	4/19-6/15
2	飯田昭二	Half and Half	鎌倉画廊	幻触展	鎌倉画廊 (6/4-8/6)	5/25-8/16
3	小池一誠	No. 1 石	鎌倉画廊	幻触展	鎌倉画廊 (6/4-8/6)	5/25-8/16
4	鈴木慶則	非在のタブロー (マグリットによる)	鎌倉画廊	幻触展	鎌倉画廊 (6/4-8/6)	5/25-8/16
5	鈴木慶則	非在のタブロー (キリコによる)	鎌倉画廊	幻触展	鎌倉画廊 (6/4-8/6)	5/25-8/16
6	丹羽勝次	箱シリーズ'68	鎌倉画廊	幻触展	鎌倉画廊 (6/4-8/6)	5/25-8/16
7	前田守一	遠近のものさし	鎌倉画廊	幻触展	鎌倉画廊 (6/4-8/6)	5/25-8/16
8	前田守一	遠近のものさし	鎌倉画廊	幻触展	鎌倉画廊 (6/4-8/6)	5/25-8/16
9	狩野探幽	天橋立丹後図画冊	日本三景展実行委員会	松島・天橋立・巖島ー 日本三景展	広島県立美術館 (8/2-9/4)、 京都文化博物館 (9/13-10/16)、 東北歴史博物館 (10/25-11/27)	7/23-12/7
10	坂田一男	祭壇の男	東京国立近代美術館、 国際交流基金	アジアのキュビズム展	東京国立近代美術館、 徳寿宮美術館、 シンガポール美術館 (8/9-06/4/9)	7/26- (06/04/23)
11	入江波光	草園の朝	掛川市二の丸美術館	秋の特別展 風景を描くー 大正から昭和の日本の風景ー	掛川市二の丸美術館 (9/16-10/23)	9/6-11/3
12	福田平八郎	雪庭	掛川市二の丸美術館	秋の特別展 風景を描くー 大正から昭和の日本の風景ー	掛川市二の丸美術館 (9/16-10/23)	9/6-11/3
13	東山魁夷	秋富士	掛川市二の丸美術館	秋の特別展 風景を描くー 大正から昭和の日本の風景ー	掛川市二の丸美術館 (9/16-10/23)	9/6-11/3
14	中村岳陵	爽秋	掛川市二の丸美術館	秋の特別展 風景を描くー 大正から昭和の日本の風景ー	掛川市二の丸美術館 (9/16-10/23)	9/6-11/3
15	近藤浩一路	東山粟田口	掛川市二の丸美術館	秋の特別展 風景を描くー 大正から昭和の日本の風景ー	掛川市二の丸美術館 (9/16-10/23)	9/6-11/3
16	鶴田吾郎	余の見たる曾宮君	(財)新潟市會津八一記念 館、新潟市、新潟日報社、 BSN新潟放送	會津八一 絵画の世界ー中 岳先生と早中教育部の画家 たち	新潟市會津八一記念館 (9/30-11/6)	9/20-11/16
17	橋本閑雪	摘瓜図	(財)駿府博物館、静岡新 聞社・静岡放送	近代日本画の美～美人画の 世界～展	駿府博物館 (10/1-11/6)	9/21-11/16
18	野島青茲	宵	(財)駿府博物館、静岡新 聞社・静岡放送	近代日本画の美～美人画の 世界～展	駿府博物館 (10/1-11/6)	9/21-11/16
19	ファン・グリス	果物皿と新聞	長崎県美術館	R E A L スペイン美術の 現在	長崎県美術館 (10/1-11/13)	9/21-11/23
20	石井柏亭	ウィーン	学校法人常葉学園常葉美術 館	2005秋季特別企画 中西利 雄と日本の水彩画展	常葉美術館 (10/15-11/20)	10/5-11/30
21	坂本繁二郎	秋日和	学校法人常葉学園常葉美術 館	2005秋季特別企画 中西利 雄と日本の水彩画展	常葉美術館 (10/15-11/20)	10/5-11/30
22	三宅克己	白壁の家(ベルギー、 ブリュージュ)	学校法人常葉学園常葉美術 館	2005秋季特別企画 中西利 雄と日本の水彩画展	常葉美術館 (10/15-11/20)	10/5-11/30
23	赤城泰舒	ギターを弾く少年	学校法人常葉学園常葉美術 館	2005秋季特別企画 中西利 雄と日本の水彩画展	常葉美術館 (10/15-11/20)	10/5-11/30
24	鈴木慶則	非在のタブロー (マグリットによる)	国立国際美術館	もの派ー再考	国立国際美術館 (10/25-12/18)	10/15-12/28
25	前田守一	遠近のものさし	国立国際美術館	もの派ー再考	国立国際美術館 (10/25-12/18)	10/15-12/28
26	飯田昭二	Half and Half	国立国際美術館	もの派ー再考	国立国際美術館 (10/25-12/18)	10/15-12/28
27	丹羽勝次	箱シリーズ'68	国立国際美術館	もの派ー再考	国立国際美術館 (10/25-12/18)	10/15-12/28

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
28	小池一誠	No. 1 石	国立国際美術館	もの派—再考	国立国際美術館 (10/25-12/18)	10/15-12/28
29	高松次郎	布の弛み	国立国際美術館	もの派—再考	国立国際美術館 (10/25-12/18)	10/15-12/28
30	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	イクノグラフィア (古代カンパス・マルティ ウスプランより)	新潟県立万代島美術館	ユートピアを探しに—想像 力の彼方へ—	新潟県立万代島美術館 (10/29-12/11)	10/19-12/21
31	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	牢獄 (第2版) (全16点)	新潟県立万代島美術館	ユートピアを探しに—想像 力の彼方へ—	新潟県立万代島美術館 (10/29-12/11)	10/19-12/21
32	須田国太郎	筆石村	京都国立近代美術館、 東京国立近代美術館	須田国太郎展	京都国立近代美術館 (11/1-12/18)、10/22- 東京国立近代美術館 (1/13-3/5)	10/22- (06/5/24)
33	初期狩野派	四季花鳥図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
34	狩野宗眼重信	帝鑑図・咸陽宮図 屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
35	海北友松	禅宗祖師・散聖図	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
36	狩野派	伊豆三津長浜より 富嶽を望む図	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
37	狩野山雪	富士三保松原図屏 風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
38	狩野探幽	竹林七賢・香山九 老図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
39	狩野探幽	一ノ谷合戦・二度 之懸図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
40	狩野探幽	富士山図	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
41	狩野探幽	白かん (閑/鳥) 図	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
42	狩野尚信	西湖図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
43	狩野安信	猿曳き・酔舞図屏 風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
44	狩野永納	蘭亭曲水図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
45	狩野永納	三教図	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
46	狩野常信	波濤・花鳥図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
47	英一蝶	琴高仙人図	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
48	狩野探信守政	井手玉川・佐野渡 図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
49	狩野周信	蓮池鷺図	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
50	狩野典信 (榮川)	山水図	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
51	山本探川	宇津の山図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
52	石田幽汀	群鶴図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈—狩野派か ら若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
53	狩野永良	親子犬図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
54	狩野惟信 (養川)	富嶽十二ヶ月図巻	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
55	狩野惟信 (養川)	山水図押絵貼屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
56	狩野栄信 (伊川)	百猿図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
57	狩野栄信 (伊川)	楼閣山水図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
58	狩野永岳	富士山登龍図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
59	狩野養信 (晴川院)	竹雀図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
60	狩野芳崖	寿老人図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
61	橋本雅邦	三井寺	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
62	土佐光起	秋草鶉図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
63	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
64	原在中	富士三保松原図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
65	池大雅	龍山勝会・蘭亭曲水図<重要文化財>	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
66	池玉瀾	溪亭吟詩図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
67	谷文晁	連山春色図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
68	浦上春琴	競秀争流図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
69	中林竹洞	神洲奇観	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
70	円山応挙	木賊兔図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
71	呉春	柳陰帰漁図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
72	長沢蘆雪	牡丹孔雀図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
73	長沢蘆雪	大原女	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
74	酒井抱一	月夜楓図	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
75	伊藤若冲	樹花鳥獸図屏風	大分市美術館	近世絵画の水脈－狩野派から若冲、大雅へ	大分市美術館 (11/18-12/25)	11/8-06/1/4
76	海北友松	禪宗祖師・散聖図	江戸東京博物館、NHK、NHKプロモーション	大河ドラマ『功名が辻』特別展「山内一豊とその妻」	江戸東京博物館 (12/23-2/5)	12/13-(06/9/10)
77	奥村土牛	八瀬の牛	「大いなる遺産 美の伝統」 展実行委員会	大いなる遺産 美の伝統	東京美術倶楽部 「東美アートフォーラム」 (2/4-06/2/26)	1/25-3/8
78	栗原忠二	帆船	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの 水彩画展」	浜松市秋野不矩美術館	2/12-(06/4/10)

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
79	栗原忠二	道頓堀の夕	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
80	栗原忠二	ボートのある風景	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
81	石川欽一郎	駿河湾	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
82	石川欽一郎	台湾風景	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
83	石川欽一郎	銚子港(利根川付近)	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
84	大下藤次郎	田子の浦	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
85	五姓田芳柳 (二代)	新潟 信濃川	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
86	中川八郎	松原	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
87	吉田博	宮浦	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
88	吉田博	日光・荒沢	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
89	秋野不矩	天竜川	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
90	秋野不矩	ガンガー	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
91	秋野不矩	廻廊	浜松市秋野不矩美術館、 中日新聞東海本社	「水の恵み、風の香りの水 彩画展」	浜松市秋野不矩美術館 (2/22-3/31)	2/12- (06/4/10)
92	大久保一丘	富嶽明暁図	府中市美術館	「亜欧堂田善の時代」展	府中市美術館 (3/4-06/4/16)	2/22- (06/4/26)

美術作品の補修

平成17年度の修復作品

- ・平野五岳《菊華図》
本紙調整（折れ）、表装新調
- ・伝土佐行秀《歌仙図》
本紙調整（虫損、剥落）、表装調整
- ・阿部正福《橘に水鶏図》
本紙調整（折れ、虫損）、表装新調
- ・川辺御楯《春野狸図》
本紙調整（折れ、黴）、表装新調
- ・峻山《達磨図》
本紙調整（折れ、剥離）、表装調整
- ・内藤東圃《春月に蝙蝠図》
本紙調整（折れ、剥離）、表装新調
- ・渡辺広輝《六歌仙図》
本紙調整（折れ、虫損）、表装新調
- ・狩野宋眼重信《帝鑑図・観成宮図屏風》
尾背補強
- ・徳川慶喜《風景》
画面洗浄、額装調整
- ・ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ《納骨堂》
マット装
- ・オーギュスト・ロダン『拷問の庭』
解体・挿絵マット装、複製本
- ・フランク・ステラ『ブラックシリーズ』
マット装
- ・高松次郎《These Three Words》
画面洗浄

彫刻作品の保守点検業務

- 1 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品すべてについて、点検と洗浄を実施した。また、ロダン館およびブリッジギャラリーの彫刻作品について、乾拭きを行なった。
- 2 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品のうち、柳原義達《道標・鳩》、佐藤忠良《みどり》、船越保武《杏》の洗浄（陰イオン系洗剤使用）とワックス塗布を行なった。この作業は、現在の色調と撥水性を維持し、着色層の劣化と発錆を防止することを目的とする。なお、掛井五郎《蝶》は、作品の特性上陰イオン系洗剤による洗浄のみを実施した。
- 3 ジョージ・リッキー《四つの旋回する斜線 菱形Ⅱ》のグリスを交換した。

保存活動

美術作品を保存し、後世に伝えていくことは、美術館の持つ重要な機能の一つである。美術館は単に作品を公開するだけでなく、人類の文化遺産である文化財を、適切な形で管理していかななくてはならない。

当館ではIPM（Integrated Pest Management、総合的有害生物管理）と呼ばれる考え方に基づく環境保全の試みを、推進していく方針である。大規模な燻蒸に頼る従来の方法を改め、環境を改善することで有害生物を施設内に入れず、カビ等の発生を防ごうとするこの方法は、当館のような環境では、困難な側面を持つ。これは当館が周囲を緑に囲まれており、気候が温暖で、人間にとってのみならず、文化財害虫や菌類にとっても非常に住み心地の良い環境にあるからである。

とはいえ、人間を含む生物全般への影響を勘案すれば、薬剤の使用は少ないのが望ましい。作品への影響も、当然のことながら考えられる。

基本方針としてIPMの考え方を、欧米の美術館とは異なる温暖湿潤な環境の美術館にどのようにして導入していくのかを探っているのが、当館の現状である。

展示室等殺虫

昨年度まで当館では、作品が恒常的に設置される場所である展示室、収蔵庫をそれぞれ、殺虫・殺菌処理していた。が、今年度より、収蔵庫の臭化メチル・酸化エチレン製剤による殺虫・殺菌処理をとりやめることとした。これは先述のIPMに基づく環境保全の試みを、より推進するためである。

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤による殺虫処理は引き続き行なった。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

収蔵庫等に大規模な虫菌害が発生した場合には、臭化メチル・酸化エチレン製剤に代わる薬品を用いての大規模燻蒸も、視野に入れておく必要があるかと考えている。そのための有効な薬品の調査は、今後とも継続する予定である。

環境調査

静岡は温暖湿潤であり、その文化財は虫菌害を受けやすい。この環境の中で先述のIPMを導入するためには、環境の調査が非常に重要になると考えられる。当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者による施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。調査するのは

- ①害虫の生息状況
- ②空中の浮遊塵
- ③空中の浮遊菌
- ④付着菌

等の項目である。②③④の項目については、当館は極めて清浄な環境を維持しているが、①について注意を要するのは、数年来の調査によって明らかになっている。施設周囲に緑が多く、文化財害虫にとってもまた良好な環境になっていることによる。当館では調査結果に基づき、害虫の侵入経路と思われる箇所の遮断等を行なっているが、年によって大量に発生する虫の種類は異なり、処置の難しいことがあるのが現状である。

例えば今年度、梅雨から初夏にかけて、クロバネキノコバエが大量に発生し、館内への侵入も大量に発見された。体長数mm程度のこのような虫の侵入経路は特定が難しく、繁殖が収まるのをやり過ごす以外、駆除の方法はほとんど考えられなかった。

クロバネキノコバエは飛翔力が弱く、光に向かうため、侵入後は大部分の虫が外光の射し込む窓際に集まり、9：00～10：00頃には死滅するのが大量発生中の状況であった。死骸からのカビの発生や、死骸に引き寄せられる別種の虫の侵入、来館者に与える不快感などを避けるため、降り積もった死骸はただちに清掃された。

普及活動

大規模燻蒸によらない保存環境保全のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。当館ボランティアや、展示室で監視業務に就くミュージズスタッフへの研修は昨年度に引き続き実施されている。また博物館実習の中に「作品の保全について／IPMの試み」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部に理解を求める試みも行なわれている。

災害対策

当館は、その立地条件故に、地震への対策が不可欠である。本年度は、静岡県博物館協会の主催した災害対策講習会「揺れ動く文化財～震災による文化財の被災を実見する～」の会場として当館講座室、駐車場等を提供した。この講習会は、地震への対策事例を紹介するに加え、起震車によって作品のダミーを揺らし、どのようにして文化財が被災するのかを実際に見て、防災への意識を高めようとするものであった。

作品保全環境外部評価

当館の作品保全環境を美術館外部の有識者に評価していただき、環境保全の改善を目指す試みが行なわれた。本年度は東京文化財研究所保存科学部長石崎武志氏に依頼し、平常時の環境保全対策の状況、災害時の環境保全対策の状況について、評価をお願いした。

評価していただいた結果、当館収蔵庫の空気環境に改善すべき点が見られたため、来年度以降、改善に努める予定である。

その他

観覧者へのサービスと作品保全環境とを共に向上させるにあたり、温湿度変化をより少なくする作品の装丁も模索される必要がある。作品がいわば丈夫に装丁されていれば、観覧者の目に触れる機会を増やすことが、物理的には容易になるからである。

本年度は、紙作品をある程度の気密性を保って額装する方法を、試行的に導入した。

主な保存活動の経過

- 6月 1日（水）～ 3日（金） 本館展示室、
本館及びロダン館荷解室、県民ギャラリー殺虫処理
- 7月 5日（火） 外部業者環境調査第1回目
- 7月25日（月）～ 7月30日（土） 博物館実習
- 10月11日（火）外部業者環境調査第2回目
- 2月 1日（水）外部業者環境調査第3回目
- 3月 6日（月）外部業者環境調査第4回目
- 3月10日（金）静岡県博物館協会災害対策講習会
「揺れ動く文化財～震災による文化財の被災を実見する～」
- 3月14日（火） 作品保全環境外部評価

平成17年度美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985年から募集と研修を開始し、86年4月の開館と同時に350人の体制でその活動を始動させた。以来、日本の公立美術館としては最大規模のボランティアとして、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を続けている。

今年度は、グループ活動のみへのボランティア登録の道を開くなど、グループ活動の拡充を目指し、もってボランティア活動全体の活性化を図った。

■活動人数の推移

昭和61年度	350名
昭和62年度	307名
昭和63年度	260名
平成元年度	317名（新規参加者90名）
平成2年度	263名
平成3年度	240名
平成4年度	223名
平成5年度	347名（新規参加者140名）
平成6年度	331名
平成7年度	299名
平成8年度	282名
平成9年度	273名
平成10年度	354名（新規参加者94名）
平成11年度	316名
平成12年度	297名
平成13年度	265名
平成14年度	331名（10月より新規参加者95名）
平成15年度	328名
平成16年度	303名
平成17年度	285名

■活動内容と役割

【日常活動班】

火曜1週班から日曜4週班まで、全体を24班に分け、月1回を基本活動日としている。

内容は、来館者と直接接する「来館者対応」と、縁の下の力持ちとして来館者からは見えないところで美術館の業務を様々な面から助ける「内部の活動」の2種がある。

来館者対応：

- (1) インフォメーションカウンターでの案内
- (2) 図書閲覧室の運営・公開端末利用の受付
- (3) 来館者アンケート調査
- (4) 障害のある方への補助

- (5) 団体観覧者に対する資料配布 など

内部の活動：

- (1) 他館の展覧会ポスターの館内での掲示、管理
- (2) 新聞記事の切り抜きや整理など、美術館活動の基本資料の整備
- (3) 各種講座や研修の受講及び自己研修
- (4) 館外での当館開催展や諸活動の広報
- (5) その他、美術館の要請に応じて美術館活動を助けること

この他に、収蔵品展や企画展の鑑賞研修も大切な活動である。収蔵品展はいつでも鑑賞することができ、美術館の所蔵作品について造詣を深めることに各人が努めている。企画展についても積極的に鑑賞研修を進めるため、各企画展1回の鑑賞を認めている。各展開幕時には「ボランティア内覧会」を実施し、担当学芸員による解説と内覧が行われており、いち早く展覧会の内容把握に努め、その魅力を広く館外へ広める対外的な活動に役立っている。

また、ボランティア相互の連絡調整につとめる「班長会」を年間2回実施し、よりよい美術館ボランティアのあり方とボランティア組織の自主運営について討議した。

【グループ活動】今年度から、ボランティア各自の興味・関心に応じたグループ活動を拡充し、グループ活動のみのボランティア登録も可とした。

- (1) アートセンター
 - Aグループ 閲覧室改善と運営
 - Bグループ 新聞資料・はがき整理
- (2) ギャラリートーク

収蔵品展および企画展の作品解説
- (3) 草薙ツアー

草薙ツアーの計画・実施および彫刻プロムナード茶の世話、お茶会の企画・実施
- (4) 講演会運営

講演会事業の広報、運営補助、企画への参画
- (5) 広報支援

美術館の広報活動支援
- (6) 実技室

実技室における各種イベントの運営補助
- (7) タッチ・ツアー・ガイド

タッチツアープログラムの案内係
- (8) パソコン隊

パソコン入力による美術館のデータ整備支援
- (9) ボランティア運営

ボランティア組織の運営、ボランティア総会の企画・運営

(10) 旅行研修

自主的な研修旅行の企画、実施

■年間活動記録

- 4月 1日 285名で活動開始
- 4月19日 「美術の20世紀」展 内覧会
- 6月 9日 「物語のある絵画」展 内覧会
- 7月25日 「アルタイの至宝展」 内覧会
- 9月29日 「田能村竹田の世界」展 内覧会
- 10月 2日 第1回日常活動班長会
- 10月26日、11月3日 研修旅行
聖徳記念絵画館（明治神宮外苑）
三井記念美術館
計144名参加、随員：堀切正人、森充代
- 11月11日 「誘惑の光景」展 内覧会
- 11月26日 第2回日常活動班長会
- 11月28日 グループ代表者会
- 1月～2月 日常活動班再編成
- 3月12日 総会
 - ・平成17年度の活動報告と平成18年度の活動について
 - ・美術館からの連絡事項
 - ・各グループから活動報告
 - ・班別ミーティング

■広報サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、「美術館と展覧会の広報」の分野を担う、美術館に通って来ないボランティア活動として定着を見せており、平成17年度当初、登録人数は156名。

広報サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター・チラシおよび当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

広報サポーターは、当館ボランティア向けにおこなっている展覧会内覧会に参加できることとしている。広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくためである。また、実際の活動状況を把握するため、年に一度広報サポーターには「活動アンケート」を義務付けている。

なお、平成17年度末をもって「広報サポーター」に区切りをつけ、平成18年度から新たなサポーターへ移行させることとした。

1) 「広報サポーター」に登録すると

- ・展覧会ポスターやチラシ、イベント情報が随時送られてくる
- ・展覧会のボランティア・プレビューに参加できる
- ・広報サポーター証の発行を受ける

2) 「広報サポーター」の義務

- ・展覧会やイベントの情報を地域や職場に広める
- ・効果的なポスター掲示場所等の情報を美術館に寄せる
- ・年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する

平成17年度 友の会活動

1. 諸会議

(1) 理事会

平成17年5月7日(土)

静岡県立美術館 会議室

- ・平成16年度事業報告、決算報告
- ・平成17年度事業計画、予算案

(2) 代議員会

平成17年5月7日(土)

静岡県立美術館 講座室

- ・平成16年度事業報告、決算報告
- ・平成17年度事業計画、予算案

(3) 事業委員会

静岡県立美術館 会議室 12回開催

(4) 会報委員会

静岡県立美術館 会議室 20回開催

(5) ワーキンググループ

静岡県立美術館 会議室 2回開催

2. 実技講座

(1) 版画技法「コラグラフ」

平成17年6月4日(土)、6月5日(日)

静岡県立美術館 実技室

・講師 澤田祐一氏(東海大学付属翔洋高等学校教師)

・受講者 9名(会員8名 一般1名)

(2) ボタニカルアート

平成17年11月5日(土)、6日(日)

静岡県立美術館 実技室

・講師 永野節子氏

・受講者 21名(会員18名 一般3名)

3. 講演会等の開催

(1) 新収蔵品展 フロアレクチャー

平成17年4月26日(火)

・受講者 17名

(2) 日本画をじかに見る

平成18年1月29日(日)

静岡県立美術館 講座室

・講師 飯田真主任学芸員、山下善也主任学芸員、森充代学芸員

・受講者 20名(会員20名)

4. 親睦旅行

(1) 孤高の画家「ゴッホ展」と江戸の名園「六義園」

平成17年5月12日(木) 参加者 45名

・見学先:東京国立近代美術館、六義園

(2) 「マイ・フェア・レディ」と出光美術館

平成17年11月13日(日) 参加者 42名

・見学先:出光美術館、帝国劇場ミュージカル「マイ・フェア・レディ」

(3) 川村記念美術館と千葉市花の美術館

平成18年3月8日(水) 参加者 45名

・見学先:川村記念美術館、千葉市花の美術館

5. 美術館主催の展覧会・講座等の後援

(1) 美術館学校連携普及事業の委託

粘土ワークショップのコーディネーター1名・助手2名の雇用と給与支払事務等

(平成17年4月1日～平成18年1月31日 60回開催)

6. 情報資料の作成と提供

(1) 友の会だより「プロムナード」の発行 年3回

・第57号 平成17年7月20日 1,200部発行

アトリエ訪問 杉村 勇氏 (洋画家)

・第58号 平成17年12月15日 1,200部発行

アトリエ訪問 白井嘉尚氏 (画家)

・第59号 平成18年3月15日 1,200部発行

アトリエ訪問 澤田祐一氏 (現代版画家)

(2) 美術館ニュース「アマリリス」の配布 年4回

・No77 平成17年4月1日 発行

・No78 平成17年7月1日 発行

・No79 平成17年10月1日 発行

・No80 平成18年1月1日 発行

7. その他の事業

・館内ミュージアムショップ前掲示板

(友の会からのお知らせ)で情報掲示

・美術館友の会会員の入会勧誘

(「アルタイの至宝展」開催時入会者に図録の贈呈 10名入会)

.....

会則添付

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年5月25日

改正 平成13年6月 2日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)という。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館内に置く。

(目的)

第3条 本会は、美術を愛好する人たちの集まりであり、静岡県立美術館の活動を後援することにより、本県の芸術文化の普及及び振興を図るとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深めることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 講演会・講座・コンサート・映画会等の開催及び後援
- (2) 会報の発行
- (3) 鑑賞会及び研修旅行の開催
- (4) 出版事業
- (5) 静岡県立美術館が行う事業への協力・後援
- (6) その他必要な事業

(会員の種類及び特典)

第5条 本会の会員は、一般会員、シニア会員、特別会員及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、一般会員、シニア会員、特別会員のいずれかを選択する。
- (2) 会員資格の有効期限内における会員の種類の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第6条 会員とは本会の主旨に賛同し、所定の入会申込みの手続きを行い、会費を納めた者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年とする。ただし、会員から退会の申し出がない限り、さらに1年延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第7条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は理由の如何を問わず、返還しない。

2 見学、実習などの参加者は、別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第8条 会員は、住所、氏名、電話番号、口座番号等の届出事項に変更があった場合は、直ちに本会に報告し、変更手続きを行う。

2 前項の報告がないために生じた会員の不利益又は損害については、本会は一切の責任を負わない。

(会員証)

第9条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

- 2 会員証には、クレジット機能はない。
- 3 会員証を譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第10条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、直ちに本会に届け出る。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第11条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項により退会する場合は、会員有効期限の2か月前までに、本会に申し出を行う。

(組織)

第12条 本会に代議員会と理事会を置く。

(役員)

第13条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長
- (2) 副会長 若干名
- (3) 代議員 30名以内
- (4) 理 事 15名以内
- (5) 監 事 2名

2 代議員及び理事は、会員の中から代議員会において選任する。

3 監事は、代議員会で選任する。

4 会長は、代議員の互選とし、副会長及び事務局長は代議員の同意を得て、会長が任命する。

(役員職務)

第14条 役員職務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、会長があらかじめ指定した副会長が、その職務を代理する。
- (3) 代議員は、付議された事項の審議、決定を行う。
- (4) 理事は、会の運営を行う。

- (5) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。
- (顧問)
- 第15条 本会に顧問を置く。
- 2 顧問は、静岡県立美術館長をもって充てる。
- (役員任期)
- 第16条 役員任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。
- (会議)
- 第17条 本会の会議は、代議員会と理事会とし、会長、副会長及び理事並びに代議員の出席により開催する。ただし、特別の事情がある場合には、代理者が出席することができる。
- 2 代議員会は、すべての役員で構成され、毎年1回会長が召集し、次の事項を審議、決定する。
- (1) 予算及び決算
- (2) 事業計画及び事業報告
- (3) 役員を選出
- (4) 会則の改正
- 3 理事会は、会長、副会長及び理事で構成され、次の事項を審議する。
- (1) 代議員会に付議する事項
- (2) その他会長が必要と認める事項
- (議決)
- 第18条 代議員会の議事は、出席した役員(代理者も含む)の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長が決する。

- (専決処分)
- 第19条 会長は、会議を召集することが困難と認めるときは、第17条第2項及び第3項に掲げる事項について、これを専決処分することができる。
- 2 前項の規定により専決処分したときは、会長はこれを次の会議において報告しなければならない。
- (専門委員会)
- 第20条 本会に事業計画の策定や具体的な企画等の検討を目的とした事業委員会と会報委員会を置く。
- (事務局)
- 第21条 本会の事務を処理するために、事務局を置く。
- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 会長は、代議員の同意を得て、事務局長を理事とすることができる。
- 4 事務局に事務職員を置く。
- (財務)
- 第22条 本会の経費は、会費その他の収入をもって充てる。
- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。
- (補則)
- 第23条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関し必要な事項は、会長が定める。
- 附 則
- この会則は、平成14年4月1日から施行する。

別表1 (第5条第2項関係)会員の特典

特典の種類	会員の種類		
	一般会員	シニア会員	特別会員
①県立美術館主催の企画展招待券5枚	○		○
②会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○		○ (同伴4名まで)
③会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○		○ (同伴4名まで)
④友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリス」(年4回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○
⑤研修旅行(美術館めぐり)、各種講座等友の会主催の事業に参加可能	○	○	○ (同伴1名まで)
⑥会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」の飲食料金が会員本人のみ1割引	○	○	○
⑦会員証提示により、県立美術館内のブックショップの利用補助	○	○	○
⑧県立美術館主催の企画展オープニングセレモニー御招待			○ (同伴1名まで)

(注)○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第7条関係)年会費

会員区分	年会費	備考
一般会員	(1名) 5,000円	
シニア会員	(1名) 2,000円	70歳以上で、選択した人
特別会員	(1口) 10,000円	
賛助会員	申し出のあった額	

平成17年度 美術館の評価活動

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、北海道大学文学部助教授・佐々木亨氏の助言のもと、ベンチマークス（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査等を行った。平成14年度には、ベンチマークスの改訂作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取り組みを行った。

それらの成果をふまえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を通じて、平成17年3月に「提言:評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。この提言を受けて、平成16年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。今後、その分析・結果をもとに第三者評価委員会を開催する予定である。

(1) ミュージアム・ナビによる自己点検・評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し、自己点検を行うことで、業務の改善に取り組む。それによって、Plan（計画）、Do（実行）、Check（監視）、Action（改善）のサイクルを確立する。

静岡県立美術館の使命

静岡県立美術館は、創造的で多様性に富んだ社会を実現していくために存在します。

そのために、コレクションを基盤として、人々が美術と出会い新たな価値を見出す体験の場をより多く提供するとともに、地域をパートナーと考える経営を行い、日本の新しい公立美術館となります。

(2) 研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会および学芸員の調査研究に関わる定性的評価を行う。利用者による満足度調査によっては把握しきれない、学術面の自己点検・評価を外部の専門家に依頼し実施した。

■開催日程

第1回

平成17年5月14日（土） 午後1時30分～4時

出席委員 潮江宏三委員

平成17年5月16日（月） 午後1時30分～4時

出席委員 坂本満委員、金原宏行委員、山梨絵美子委員、榊原悟委員

内 容 平成16年度評価レポートに関する議論と「美術の20世紀」展の内容視察および検討

第2回

平成17年6月28日（火） 午後3時30分～5時

出席委員 金原宏行委員

平成17年7月13日（水） 午前10時～12時

出席委員 榊原悟委員

内 容 「物語のある絵画」展の視察と内容検討

第3回

平成17年10月20日（木） 午後2時～4時

出席委員 金原宏行委員

平成17年10月24日（月） 午前10時～12時

出席委員 榊原悟委員

内 容 「田能村竹田」展の視察と内容検討

第4回

平成17年12月3日（土） 午後2時～4時

出席委員 坂本満委員、潮江宏三委員

内 容 「誘惑の光景」展の視察と内容検討

■静岡県立美術館研究活動評価委員

坂本 満／美術史家、西洋絵画・日本洋画

潮江宏三／京都市立芸術大学教授、西洋絵画・現代美術

山梨絵美子／東京文化財研究所情報調整室長、日本洋画

榊原 悟／群馬県立女子大学教授、日本画

金原宏行／常葉大学教授、教育普及・日本画

■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要項

（設置）

第1条

静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条

委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準により、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業
- (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物
- (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項

(組織)

第3条

委員は5名以内とする。

- 2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

(委嘱)

第4条

委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

(任期)

第5条

委員の任期は2年とする。

- 2 委員は再任することができる。

(委任)

第6条

この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

■評価基準

1) 展覧会

1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ(新たな価値基準の提示)、多様な資料(写真や二次資料等)の積極的な活用、館藏品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究(記録・整理を含む)等。
2. 企画者(学芸員)の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出

来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。

4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャプションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

2) 展覧会カタログ/学芸員のエッセイ

1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
2. 企画者(学芸員)の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ(新たな価値基準の提示)、資料的な価値等。
4. その他…特に評価に値する事柄。

3) 研究紀要/館藏品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。
4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

4) 教育・普及プログラム

1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
2. その他…特に評価に値する事柄。

「物語のある絵画—日本画と古典文学の出会い」展

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	形状	材質	寸法 (cm)	所蔵先
第1章 語りの絵画、詠いの絵画								
1	筆者不詳		物語図扇面色紙貼交屏風	17世紀初 (江戸時代初期)	六曲一 双 屏風	紙本着色	各155.4×361.6	個人蔵
2	伝狩野光信	1565-1608 (永禄8-慶長13)	源氏物語図屏風	16世紀末- 17世紀初 (桃山時代)	六曲一 隻 屏風	紙本金地 着色	39.8×120.5	華陽院
3	狩野晴川院養信	1796-1846 (寛政8-弘化3)	源氏物語 子の日図 屏風	1841 (天保12)	八曲一 双 屏風	紙本金地 着色	右隻101.0×363.2 左隻100.1×363.2	遠山記念館
4	狩野探幽	1602-1674 (慶長7-延宝2)	一ノ谷合戦・二度 之懸図屏風	1657-61 (明暦-万治年間)	六曲一 隻 屏風	紙本金地 着色	156.6×358.2	静岡県立美術館
5	狩野永岳	1790-1867 (寛政2-慶応3)	三十六歌仙歌意図 屏風	1816-67 (文 化13-慶応3)	六曲一 双 屏風	紙本着色 金雲	各152.0×357.0	静岡県立美術館
6	渡辺清	1778-1861 (安永7-文久元)	清少納言故事図 (田中大秀和歌賛)	19世紀前半 (江戸時代後 期)	掛幅装	絹本着色	30.3×46.8	静岡県立美術館
7	小林古径	1883-1957 (明治16-昭和32)	竹取物語 昇天図	1917 (大正6)	額装	紙本着色	44.8×135.7	横浜美術館
8	橋本雅邦	1835-1908 (天保6-明治41)	三井寺	1894 (明治27)	掛幅装	紙本着色	130.5×64.0	静岡県立美術館
9	菊池契月	1879-1955 (明治12-昭和30)	観菊図	1935 (昭和10) 頃	掛幅装	絹本着色	131.6×57.7	静岡県立美術館
第2章 隠れたイメージ								
10	土佐光起	1617-1691 (元和3-元禄4)	秋草鶉図	17世紀中頃 (江戸初期)	掛幅装	絹本着色	54.0×72.7	静岡県立美術館
11	野沢堤雨	1837-1917 (天保8-大正6)	見たて源氏絵 (若紫・少女)	1911 (明治44)	マット装	絹本着色	各17.6×43.4	静岡県立美術館
12	中村岳陵	1890-1969 (明治23-昭和44)	牡鹿鳴く	1930 (昭和5)	二曲一 双 屏風	紙本着色	各163.6×162.1	個人蔵
第3章 文学の宿る風景								
13	筆者不詳		武蔵野図屏風	17世紀 (江戸時代)	六曲一 双 屏風	紙本着色	各155.5×362.5	サントリー美術館
14	筆者不詳		曾我物語 富士巻 狩・仇討図屏風	17世紀中頃 (江戸時代初期)	六曲一 双 屏風	紙本金地 着色	各156.8×356.6	静岡県立美術館
15	狩野探信守政	1653-1718 (承応2-享保3)	井手玉川・佐野渡 図屏風	17世紀末-18 世紀初 (江戸時代前期)	六曲一 双 屏風	紙本着色	各152.7×359.4	静岡県立美術館
16	渡辺広輝	1778-1838 (安永7-天保9)	五条三位騎渡井手 玉川図	19世紀前半 (江戸時代後期)	掛幅装	絹本着色	93.3×34.5	静岡県立美術館
17	山本探川	1721-1780 (享保6-安永9)	宇津の山図屏風	1755-69 (宝暦5-明和6)	二曲一 隻 屏風	紙本着色	163.5×175.0	静岡県立美術館
18	今村紫紅	1880-1916 (明治13-大正5)	宇津の山路	1912 (明治45)	掛幅装	絹本着色	126.5×50.4	静岡県立美術館
19	小林古径	1883-1957 (明治16-昭和32)	武蔵野	明治末頃	掛幅	絹本着色	112.7×41.8	伊豆市
20	下村観山	1873-1930 (明治6-昭和5)	小倉山	1909 (明治42)	六曲一 双 屏風	絹本着色	各157.0×333.5	横浜美術館
21	木村武山	1876-1942 (明治9-昭和17)	羽衣	1920年代後期- 30年代前期 (昭和初期)	六曲一 双 屏風	絹本着色	各169.5×375.0	静岡県立美術館
第4章 鏑木清方の挑戦								
22	大野静方	1882-1944 (明治15-昭和19)	新口村	1904 (明治37) 頃	掛幅	紙本着色	141.5×78.7	横浜美術館
23	鱒崎英朋	1880-1968 (明治13-昭和43)	鏑権三重帷子	1904 (明治37)	掛幅	紙本着色	147.1×78.7	横浜美術館
24	鏑木清方	1878-1972 (明治11-昭和47)	深沙大王	1904 (明治37)	掛幅	絹本着色	169.0×85.5	鎌倉市鏑木清方記念美術館

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	形状	材質	寸法 (cm)	所蔵先
25	鐫木清方	1878-1972 (明治11-昭和47)	遊女	1918 (大正7)	二曲一隻	絹本着色	161.1×169.6	横浜美術館
26	鐫木清方	1878-1972 (明治11-昭和47)	にごりえ	1934 (昭和9)	台紙貼付・ 15面	紙本着色	各26.2×35.5	鎌倉市鐫木清 方記念美術館
27	鐫木清方	1878-1972 (明治11-昭和47)	お夏清十郎物語	1939 (昭和14)	額装・6面	絹本着色	各38.0×49.0	神奈川県立近 代美術館
28	鐫木清方	1878-1972 (明治11-昭和47)	朝顔日記	1939 (昭和14)	画帖装 (10段構成)	紙本淡彩、 画帖装 (十段)	詞書 24.2×33.2 ほか 絵 24.6×33.7 ほか	静岡県立美術 館
第5章 松岡映丘一王朝の雅への憧れ								
29	松岡映丘	1881-1938 (明治14-昭和13)	宇治の宮の姫君た ち	1912 (大正元)	六曲一双	絹本着色	各163.3×338.4	姫路市立美術 館
30	松岡映丘	1881-1938 (明治14-昭和13)	道成寺	1917 (大正6)	六曲一双	絹本着色	各173.0×382.4	姫路市立美術 館
31	松岡映丘	1881-1938 (明治14-昭和13)	今昔ものがたり 伊勢図	1929 (昭和4)	掛幅装	絹本着色	85.5×143.3	静岡県立美術 館
32	松岡映丘および その一門		草枕絵巻	1926 (大正15)	全3巻	絹本着色	28.3×788.0 (第1巻) 28.3×790.0 (第2巻) 28.5×738.0 (第3巻)	奈良国立博物 館

「文人の夢・田能村竹田の世界」

NO.	作者	作品名	員数	制作年代	品質
■ 1. 竹田絵画の輝き					
1	伝 田能村竹田	田能村竹田肖像	1幅	1829年（文政12）頃	紙本淡彩
2		花卉図 [重要文化財]	6幅対	1808年（文化5）	紙本墨画淡彩
3		四季花鳥図 [重要文化財]	4幅対	1809年（文化6）	絹本着色
4		雁来紅群雀図 [重要文化財]	1幅	1813年（文化10）	絹本着色
5		富士図 [重要文化財]	1幅	1819年（文政2）	絹本着色
6		月下芦雁図 [重要文化財]	6曲1隻	1823年（文政6）	紙本墨画
7	田能村竹田	伏水望京図	1幅	1823年（文政6）頃	紙本墨画淡彩
8		梅花書屋図及題詩 [重要文化財]	双幅	1824年（文政7）	紙本墨画淡彩・紙本墨書
9		溪荘趁約図 [重要文化財]	1幅	1828年（文政11）	絹本墨画
10		柳陰捕魚図 [重要文化財]	1幅	1828年（文政11）頃	絹本着色
11		秋景山水図 [重要文化財]	4面	1828年（文政11）	紙本墨画淡彩
12		松鶴図 [重要文化財]	4面	1828年（文政11）	絹本着色
13	伝 田能村竹田	蝶図	1幅	1829年（文政12）頃	紙本墨画
14		騎馬武者図 [重要文化財]	1幅	1818～30年（文政年間）後半	紙本淡彩
15		冬籠図 [重要文化財]	1幅	1826～30年（文政9～天保1）	紙本淡彩
16		暗香疎影図 [重要文化財]	1幅	1831年（天保2）	紙本淡彩
17		桃花流水図 [重要文化財]	1幅	1832年（天保3）	紙本淡彩
18	田能村竹田	曲溪複嶺図及題詩 [重要文化財]	双幅	1832年（天保3）	紙本淡彩・紙本墨書
19		秋溪間適図 [重要文化財]	1幅	1832年（天保3）	紙本淡彩
20		澗道石門図 [重要文化財]	1幅	1834年（天保5）	絹本着色
21		浄土寺図 [重要文化財]	1幅	1834年（天保5）	紙本淡彩
22		漁樵問答図 [重要文化財]	1幅	1834年（天保5）	絹本淡彩
23		秋溪趁約図 [重要文化財]	1幅	1834年（天保5）	紙本墨画
24	田能村竹田	五言古詩及填詞 [重要文化財]	双幅	1831年（天保2）他	紙本墨書
25	田能村竹田 他	対聯（自筆及雲華筆） [重要文化財]	双幅	1832年（天保3）	紙本墨書
26		書状 [重要文化財]	1卷	1825年（文政8）他	紙本墨書
27	田能村竹田	書簡・文政12年6月1日付田能村如仙宛	1幅	1829年（文政12）	紙本墨書
28		書簡・天保6年8月12日付田能村如仙宛	1幅	1835年（天保6）	紙本墨書
■ 2. 弟子たち・周辺への波及					
29	帆足杏雨	四時花鳥図巻	1巻	1830年（天保1）	紙本墨画淡彩
30		京游詩画帖	1帖	1832～33年（天保3～4）	紙本墨画淡彩
31		巴峽蜀船図	1幅	1837年（天保8）頃	紙本墨画淡彩

NO.	作者	作品名	員数	制作年代	品質
32		風雨赴約図	1幅	1837年（天保8）頃	紙本墨画淡彩
33	帆足杏雨	雪溪吟鞭図	1幅	1837年（天保8）頃	紙本墨画淡彩
34		耶馬溪図巻下絵	1巻	1840年（天保11）	紙本墨画
35		松下納涼図	1幅	1842年（天保13）	絹本墨画淡彩
36	帆足杏雨・中澤雪城	秋声賦及賦意図	双幅	1844・1847年（弘化1・4）	絹本墨書・絹本墨画淡彩
37		老圃秋容図	1幅	1848年（嘉永1）	絹本墨画着色
38	帆足杏雨	曲水流觴巻	1巻	1851年（嘉永4）頃	絹本着色
39		風雨渡江図	1幅	1852年（嘉永5）	絹本墨画淡彩
40		李青蓮詩意山水図	1幅	1854年（安政1）	絹本墨画淡彩
41		鉄騎横行図	1面	1822～29年（文政5～12）頃	板地墨画淡彩
42	高橋草坪	黄葉村舎図	1幅	1822～29年（文政5～12）頃	紙本墨画淡彩
43		白梅図	1幅	1832年（天保3）頃	紙本墨画
44	田能村直入	花卉図	6幅対	1833年（天保4）	紙本着色
45		羅浮仙女図	1幅	19世紀後半（明治時代）	絹本着色
46		梅花書屋図	1幅	1846年（弘化3）	絹本墨画淡彩
47	平野五岳	春山溪閣図	1幅	1856年（安政3）	絹本墨画淡彩
48		青山白雲図	1幅	1870年（明治3）	絹本墨画淡彩
49		梧桐図	1幅	1892年（明治25）	絹本墨画
50	田近竹邨	桐陰遺興図	1幅	1917年（大正6）	絹本着色
■ 3. 富春館伝来の中国絵画					
51	伝 仇英	春夜宴桃李園図	1巻	16世紀（明代中期）	絹本着色
52	孫儀	秋麓澗雲図	1幅	16世紀（明代）	絹本墨画淡彩
53	査士標	溪山掃驢図	1幅	17世紀（明末清初）	絹本墨画淡彩
54	趙珣	出山釈迦図	1幅	17世紀（清代）	絹本墨画
55	鄒一桂	佳人吹簫図	1幅	18世紀（清代中期）	絹本着色
56	余崧	花鳥図	1幅	18世紀（清代中期）	絹本着色
57	作者不詳（南蘋派）	封侯図	1幅	18世紀（清代中期）	絹本墨画着色
■ 4. 富春館伝来の狩野派・大和絵など					
58	狩野安信	達磨・龍図	3幅対	1662～85年（寛文2～貞享2）	紙本墨画
59	狩野常信	高土困碁喫茶図屏風	6曲1双	17世紀後半～18世紀初（江戸前期）	紙本墨画淡彩
60	櫛田永養	鷹図屏風	2曲1双	17世紀後半～18世紀初（江戸前期）	紙本金地墨画着色
61	狩野典信	遊鹿図	1幅	1762～80年（宝暦12～安永9）	絹本着色
62	狩野永伯	松竹梅に鶴図屏風	6曲1双	1702～64年（元禄15～明和1）	紙本金地着色

NO.	作者	作品名	員数	制作年代	品質
63	住吉広行	勿来関・白河関図	双幅	1781～1811年（天明1～文化8）	紙本着色
64	奥原晴湖	秋林閑行図	1幅	1876年（明治9）	絹本墨画淡彩

誘惑の光景

cat. no	作者名	作品名・シリーズ名・書名	各図版キャプション	製作年・刊行年	材質	挿絵数	寸法 (イメージサイズ、cm)	所蔵先
1	ジョン・マーティン	ミルトン作『失樂園』		1825-27	メゾチント、 エッチング			静岡県立美術館
1-1	〃	〃	地獄に墮ちる叛逆天使たち	〃	〃		25.8×20.2	〃
1-2	〃	〃	火の海に横たわるサタン	〃	〃		20.1×28.6	〃
1-3	〃	〃	墮天使たちを奮いたたせるサタン	〃	〃		26.6×20.1	〃
1-4	〃	〃	万魔殿の出現	〃	〃		20.5×24.4	〃
1-5	〃	〃	地獄の会議を統括するサタン	〃	〃		19.4×27.8	〃
1-6	〃	〃	サタンと死の闘い	〃	〃		19.5×27.1	〃
1-7	〃	〃	神の宮殿	〃	〃		19.4×27.3	〃
1-8	〃	〃	天国への階段を見上げるサタン	〃	〃		26.8×20.9	〃
1-9	〃	〃	泉のほとりのイヴ	〃	〃		19.6×27.7	〃
1-10	〃	〃	楽園でアダムとイヴの様子をうかがうサタン	〃	〃		19.5×27.7	〃
1-11	〃	〃	イヴの夢－飛び上がるサタン	〃	〃		19.2×27.7	〃
1-12	〃	〃	楽園を警備する天使	〃	〃		19.3×28.0	〃
1-13	〃	〃	朝の祈りを唱えるアダムとイヴ	〃	〃		19.0×27.6	〃
1-14	〃	〃	ラファエルの来訪	〃	〃		19.0×27.9	〃
1-15	〃	〃	アダムとイヴと語り合うラファエル	〃	〃		19.3×27.6	〃
1-16	〃	〃	光明の創造	〃	〃		19.1×27.8	〃
1-17	〃	〃	イヴを誘惑するサタン	〃	〃		19.1×27.7	〃
1-18	〃	〃	禁断の果実をアダムにすすめるイヴ	〃	〃		18.9×28.1	〃
1-19	〃	〃	御子の声を聞くアダム	〃	〃		19.3×28.2	〃
1-20	〃	〃	混沌の世界に架かる橋	〃	〃		19.3×26.8	〃
1-21	〃	〃	イヴを叱責するアダム	〃	〃		19.3×27.5	〃
1-22	〃	〃	天国－祝福の河	〃	〃		19.2×28.2	〃
1-23	〃	〃	ミカエルの出現を待つアダムとイヴ	〃	〃		19.5×27.9	〃
1-24	〃	〃	楽園を追放されるアダムとイヴ	〃	〃		19.1×27.4	〃
2	ギュスターヴ・ドレ	ジョン・ミルトン作『失樂園』		不詳	木口木版	50図	34.5×28.0×4.8 (書籍)	町田市立国際版画美術館
3	ジョン・マーティン	『聖書』		1838	メゾチント、 エッチング	20図		〃
3-1	〃	〃	天地創造	1838刊	〃		19.1×29.2	〃
3-2	〃	〃	人類の墮落	1838刊	〃		18.3×29.2	〃
3-3	〃	〃	御子の審判を聞くアダムとイヴ	1838刊	〃		18.9×29.1	〃
3-4	〃	〃	楽園追放	1838刊	〃		19.6×29.1	〃
3-5	〃	〃	アベルの死	1838刊	〃		19.0×29.6	〃

cat. no	作者名	作品名・シリーズ名・書名	各図版キャプション	製作年・刊行年	材質	挿絵数	寸法 (イメージサイズ、cm)	所蔵先
3-6	〃	〃	大洪水	1838刊	〃		19.5×28.9	〃
3-7	〃	〃	神との契約	1838刊	〃		19.0×28.9	〃
3-8	〃	〃	ソドムとゴモラの破滅	1838刊	〃		19.2×29.1	〃
3-9	〃	〃	幼子モーセを見つける ファラオの娘	1838刊	〃		19.0×29.1	〃
3-10	〃	〃	モーセと燃える柴	1838刊	〃		18.9×28.3	〃
3-11	〃	〃	第7の災厄	1838刊	〃		19.3×28.9	〃
3-12	〃	〃	ファラオの軍勢の壊滅	1838刊	〃		18.8×28.4	〃
3-13	〃	〃	十戒の石板を叩き割る モーセ	1838刊	〃		18.8×29.1	〃
3-14	〃	〃	エリコの城壁の崩壊	1838刊	〃		19.2×29.1	〃
3-15	〃	〃	太陽に留まれと命じる ヨシュア	1838刊	〃		19.0×29.2	〃
3-16	〃	〃	ハキラでサウルの命を 助けるダヴィデ	1838刊	〃		18.8×28.5	〃
3-17	〃	〃	詩篇第137番	1838刊	〃		18.6×28.8	〃
3-18	〃	〃	ベルシャザルの饗宴	1838刊	〃		19.0×29.0	〃
3-19	〃	〃	バビロンの滅亡	1838刊	〃		18.8×28.9	〃
3-20	〃	〃	ニネベの滅亡	1838刊	〃		19.4×29.1	〃
4	ジョン・マーティン、リチャード・ウェストール	『聖書』のための挿絵		1835	木口木版		21.7×14.5×9.2 (書籍)	郡山市立美術館
5	ジョン・マーティン、リチャード・ウェストール	『『聖書』のための挿絵』から8点の試し刷り			木口木版		31.0×24.0×1.0 (書籍)	〃
6	ギュスターヴ・ドレ	『聖書』全2巻		1866	木口木版	230図 (各扉図、 1・118図、 2・110図)	44×35.7×6ほか (書籍)	栃木県立美術館
7	ギュスターヴ・ドレ	『聖書』全5巻		1872-76	木口木版	220図、 5巻	31.7×25×3.2ほか (書籍)	町田市立国際版画美術館
8	ウィリアム・ブレイク	『ヨブ記』		1825	ライン・エングレーヴィング	22図		郡山市立美術館
8-1	〃	〃	『ヨブ記』扉	〃	〃		21.2×16.5	〃
8-2	〃	〃	ヨブとその家族	〃	〃		19.9×16.5	〃
8-3	〃	〃	神の玉座の前のサタン	〃	〃		21.2×16.9	〃
8-4	〃	〃	サタンによるヨブの息子たちと娘たち	〃	〃		21.8×17.1	〃
8-5	〃	〃	ヨブにその不幸を告げる使者たち	〃	〃		21.7×17.1	〃
8-6	〃	〃	主の御前から進んで行くサタンとヨブの施し	〃	〃		21.7×17.0	〃
8-7	〃	〃	腫物でヨブを撃つサタン	〃	〃		21.7×17.1	〃
8-8	〃	〃	ヨブを慰める人たち	〃	〃		21.7×17.0	〃
8-9	〃	〃	ヨブの絶望	〃	〃		21.7×16.9	〃

cat. no	作者名	作品名・シリーズ名・書名	各図版キャプション	製作年・刊行年	材質	挿絵数	寸法 (イメージ サイズ、cm)	所蔵先
8-10	〃	〃	エリバズの幻視	〃	〃		21.7×17.0	〃
8-11	〃	〃	三人の友によって難詰されるヨブ	〃	〃		21.8×17.1	〃
8-12	〃	〃	ヨブの悪い夢	〃	〃		21.6×17.1	〃
8-13	〃	〃	エリフの弁論	〃	〃		21.9×16.9	〃
8-14	〃	〃	この時、主はつむじ風の中からヨブに答えられた	〃	〃		21.7×16.9	〃
8-15	〃	〃	天地創造	〃	〃		20.6×16.5	〃
8-16	〃	〃	ベヘモトとレヴィアタン	〃	〃		21.8×16.9	〃
8-17	〃	〃	サタンの墜落	〃	〃		20.0×16.4	〃
8-18	〃	〃	キリストの幻	〃	〃		21.9×17.1	〃
8-19	〃	〃	ヨブの燔祭	〃	〃		21.8×17.1	〃
8-20	〃	〃	施しを受けるヨブ	〃	〃		21.7×17.1	〃
8-21	〃	〃	ヨブと娘たち	〃	〃		21.8×17.1	〃
8-22	〃	〃	繁栄を回復したヨブとその妻	〃	〃		21.8×17.1	〃
9	ウジェーヌ・ドラクロワ	ゲーテ作『ファウスト』		1828	リトグラフ			静岡県立美術館
9-1	〃	〃	ゲーテの肖像	〃	〃		31.5×24.2	〃
9-2	〃	〃	空を飛ぶメフィストフェレス	〃	〃		31.3×24.3	〃
9-3	〃	〃	書斎のファウスト	〃	〃		27.1×18.1	〃
9-4	〃	〃	ファウストとヴァーグナー	〃	〃		23.7×30.7	〃
9-5	〃	〃	ファウスト、ヴァーグナーとむく犬	〃	〃		30.1×24.5	〃
9-6	〃	〃	ファウストの前に現れたメフィストフェレス	〃	〃		29.0×23.8	〃
9-7	〃	〃	学生に応待するメフィストフェレス	〃	〃		30.0×23.7	〃
9-8	〃	〃	学生酒場のメフィストフェレス	〃	〃		31.1×23.8	〃
9-9	〃	〃	マルガレーテを誘惑しようとするファウスト	〃	〃		31.4×24.0	〃
9-10	〃	〃	マルテの前で挨拶するメフィストフェレス	〃	〃		31.3×23.7	〃
9-11	〃	〃	マルガレーテと紡車	〃	〃		31.2×24.0	〃
9-12	〃	〃	ファウストとヴァレンティンの決闘	〃	〃		24.0×31.4	〃
9-13	〃	〃	決闘の後に逃走するメフィストフェレスとファウスト	〃	〃		31.2×24.0	〃
9-14	〃	〃	教会のマルガレーテ	〃	〃		30.6×24.0	〃
9-15	〃	〃	ハルツ山中のファウストとメフィストフェレス	〃	〃		30.4×24.3	〃
9-16	〃	〃	ファウストの前に現れたマルガレーテの亡霊	〃	〃		28.5×37.6	〃

cat. no	作者名	作品名・シリーズ名・書名	各図版キャプション	製作年・刊行年	材質	挿絵数	寸法 (イメージサイズ、cm)	所蔵先
9-17	〃	〃	安息日の夜馬を駆るファウストとメフィストフェレス	〃	〃		24.0×31.4	〃
9-18	〃	〃	マルガレーテの獄室のファウスト	〃	〃		31.4×24.0	〃
10	トニー・ジョアノ	ゲーテ作『ファウスト』		1847	ステイール・エングレーヴィング (銅版)	9図	27.2×18.3×3.2 (書籍)	栃木県立美術館
11	ジェイムズ・バリー	リア王 (『ポリオートグラフィの見本集』1803年より)		1803頃	リトグラフ		23.4×30.2	町田市立国際版画美術館
12	ウィリアム・ブレイク	眠るダンカン王に近づくマクベス夫人			水彩、インク		32.0×42.0	郡山市立美術館
13	ウジェーヌ・ドラクロワ	魔女たちに相談するマクベス (『アルティスト』1864年より)		1864刊 (1825年制作)	リトグラフ		32.0×25.3	町田市立国際版画美術館
14	ウジェーヌ・ドラクロワ	ハムレット		1864刊 (1834-43年制作)	リトグラフ			栃木県立美術館
14-1	〃	〃	ハムレットを慰めようとする王妃	1834年制作	〃		28.5×19.9	〃
14-2	〃	〃	父の亡霊を追いかけようとするハムレット	1835年制作	〃		25.8×20.4	〃
14-3	〃	〃	テラスの亡霊	1843年制作	〃		26.0×19.2	〃
14-4	〃	〃	ポローニウスとハムレット		〃		25.1×18.4	〃
14-5	〃	〃	ハムレットとオフィーリア		〃		24.2×19.8	〃
14-6	〃	〃	父の毒殺の場面を役者たちに演じさせるハムレット	1835年制作	〃		25.2×32.4	〃
14-7	〃	〃	ハムレットとギルデンスターン		〃		25.3×20.4	〃
14-8	〃	〃	国王を殺害しようとするハムレット	1843年制作	〃		26.5×18.2	〃
14-9	〃	〃	ハムレットと王妃	1834年制作	〃		25.8×17.9	〃
14-10	〃	〃	ポローニウス殺害		〃		24.1×19.2	〃
14-11	〃	〃	ハムレットとポローニアスの死体	1835年制作	〃		25.6×17.9	〃
14-12	〃	〃	オフィーリアの歌	1834年制作	〃		25.9×20.7	〃
14-13	〃	〃	オフィーリアの死	1843年制作	〃		18.8×25.7	〃
14-14	〃	〃	墓掘人夫の前のハムレットとホレイシオ	1843年制作	〃		28.5×21.1	〃
14-15	〃	〃	オフィーリアの墓穴の中のハムレットとレアティーズ	1843年制作	〃		28.5×19.5	〃
14-16	〃	〃	ハムレットの死	1843年制作	〃		29.1×20.3	〃
15	テオドール・シャセリオー	オセロー		1900刊 (1844年制作)	エッチング			町田市立国際版画美術館
15-1	〃	〃	口絵	〃	〃		39.9×26.4	〃
15-2	〃	〃	起きろ! おおい! ブラバンショー (第1幕第1場)	〃	〃		33.4×23.9	〃
15-3	〃	〃	彼女は私に感謝した… (第1幕第3場)	〃	〃		28.1×21.1	〃

cat. no	作者名	作品名・シリーズ名・書名	各図版キャプション	製作年・刊行年	材質	挿絵数	寸法 (イメージサイズ、cm)	所蔵先
15-4	〃	〃	彼女は私の経てきた危険ゆえに私を愛した… (第1幕第3場)	〃	〃		28.2×31.2	〃
15-5	〃	〃	イアーゴ、デズデモナーをよろしく頼む (第1幕第3場)	〃	〃		28.7×21.2	〃
15-6	〃	〃	おお、美しい兵士！ (第2幕第1場)	〃	〃		27.7×34.4	〃
15-7	〃	〃	元気を出してください、キャシオー (第3幕第3場)	〃	〃		26.8×21.7	〃
15-8	〃	〃	下がれ！ (第3幕第4場)	〃	〃		23.7×32.3	〃
15-9	〃	〃	もし私があなたより先に死んだら… (第4幕第3場)	〃	〃		28.8×21.9	〃
15-10	〃	〃	柳の唄 (第4幕第3場)	〃	〃		29.8×22.9	〃
15-11	〃	〃	この野郎、死ぬがいい… (第5幕第1場)	〃	〃		29.2×21.8	〃
15-12	〃	〃	ところが死ななければならぬのだ！ (第5幕第2場)	〃	〃		31.4×24.3	〃
15-13	〃	〃	今晚の祈りをすませたろうなあ、デズデモナー？ (第5幕第2場)	〃	〃		27.8×23.1	〃
15-14	〃	〃	オセローはデズデモナーを押さえつける (第5幕第2場)	〃	〃		25.2×23.0	〃
15-15	〃	〃	おお！ おお！ おお！ (第5幕第2場)	〃	〃		31.9×24.8	〃
15-16	〃	〃	スパルタ犬め！ (第5幕第2場)	〃	〃		28.9×37.6	〃
16-1		舞台公演衣装2点						文化女子大学 小平資料室
16-2		舞台公演写真パネル5点						〃

「花鳥風月一屏風絵の世界」

◆は寄託作品。それ以外は静岡県立美術館蔵。

No.	作者名	作品名	員数	制作年（西暦）	制作年（元号）	材質
＜一. 吉祥の間＞						
1	狩野常信	蓬萊山・鳳凰図◆	一幅	17～18世紀	江戸中期	絹本着色
2	狩野栄信(伊川)	桐松鳳凰・月夜葡萄図屏風	六曲一 双 両面	1802-16	享和2-文化13	表：紙本金地着色 裏：紙本金地墨画
3	長沢蘆雪	瀧に鶴亀図屏風◆	六曲一 双	1793-99	寛政5-11	紙本墨画淡彩
4	岸駒	孔雀図屏風◆	六曲一 双	19世紀前半	江戸後期	紙本墨画淡彩
5	岡本秋暉	孔雀図◆	六曲一 隻	19世紀前半	江戸後期	紙本着色
＜二. 富士の間＞						
6	式部輝忠	富士八景図	八幅対	1530頃	享禄3頃, 室町 末期	紙本墨画
7		【特別公開】富士浅間曼荼羅図[静岡県指定文化財]◆	一幅	16世紀	室町時代	絹本着色
8		【特別公開】富士参詣曼荼羅図 [重要文化財] ◆	一幅	16世紀	室町時代	絹本着色
9		三保松原・巖島図屏風	六曲一 双	17世紀	江戸初期	紙本金地着色
10	岡田半江	洋人富士山遠望図◆	六曲一 双	19世紀前半	江戸後期	紙本墨画
＜三. 花鳥の間一艶＞						
11	狩野山雪	四季花鳥図屏風◆	六曲一 双	17世紀前半	江戸初期	紙本着色
12	狩野探信守道	夏秋花鳥図屏風	六曲一 双	19世紀前半	江戸後期	紙本金地着色
13	山口素絢	春秋草花図屏風	六曲一 双	19世紀初	江戸後期	紙本金地着色
＜四. 花鳥の間一粹＞						
14	円山応挙	竹雀図屏風	六曲一 双	1785	天明5	紙本墨画
15	伊藤若冲	花鳥蔬菜図押絵貼屏風◆	六曲一 双	1760	宝暦10	紙本墨画
16	郷倉千鞠	臥龍梅 小下絵	二曲一 隻	1944以前	昭和19以前	紙本墨画淡彩
17	郷倉千鞠	臥龍梅	六曲一 双	1944	昭和19	紙本着色
＜五. 物語・風景の間＞						
18	徳力善雪	子猷訪戴・東坡騎驢図屏風	六曲一 双	17世紀	江戸初期	紙本墨画着色
19	狩野永良	西王母・東方朔図屏風	六曲一 双	18世紀半	江戸中期	紙本墨画着色
20	吉村孝敬	李白観瀑・子猷訪戴図屏風	六曲一 双	1828	文政11	紙本着色
21	長沢蘆雪	赤壁図屏風◆	六曲一 双	1793-99	寛政5-11	紙本墨画淡彩
22	雲谷等顔	【特別公開】春夏山水図屏風 [重要文化財] ◆	六曲一 双	17世紀初	桃山時代	紙本金地墨画着色

静岡ゆかりの画家たち

番号	作者名	生没年	作品名	制作年(西暦)	制作年(元号)	材質	寸法(cm)
【I徳川慶喜と幕臣の画家たち】							
1	徳川慶喜	1837-1912(天保6-大正2)	風景	1868-1877頃	明治初期	紙、油彩	31.0×55.3
2	川村清雄	1852-1934(嘉永5-昭和9)	静物写生	1875	明治8	紙、鉛筆	33.1×51.5
3	川村清雄	1852-1934(嘉永5-昭和9)	海底に遺る日清勇士の髑髏	1899年以前	明治32年以前	板、漆絵	42.5×81.0
4	川村清雄	1852-1934(嘉永5-昭和9)	巨岩海浜図	1912-26頃	大正期頃	板、油彩	43.5×174.0
5	川村清雄	1852-1934(嘉永5-昭和9)	波	1913頃-27	大正2頃-昭和2	キャンヴァス、油彩	60.6×152.0
6	川村清雄	1852-1934(嘉永5-昭和9)	風景	1920年代頃	大正末から昭和初	キャンヴァス、油彩	53.0×80.3
7	石川欽一郎	1871-1945(明治4-昭和20)	田舎の早春	1900-10年代	明治末年頃	紙、水彩	27.4×37.2
8	石川欽一郎	1871-1945(明治4-昭和20)	神域より天の香具山を望む	1940頃	昭和15頃	紙、水彩	48.0×58.0
9	石川欽一郎	1871-1945(明治4-昭和20)	ムードン風景	1922頃	大正11頃	紙、水彩	24.2×33.2
10	石川欽一郎	1871-1945(明治4-昭和20)	震災後の通信省	1923-26頃	大正12-15頃	紙、水彩	28.6×19.6
11	石川欽一郎	1871-1945(明治4-昭和20)	台湾次高山	1925-28頃	大正14-昭和3頃	紙、水彩	25.0×33.7
12	石川欽一郎	1871-1945(明治4-昭和20)	粵山閩水画帖	1926-32頃	昭和1-7頃	紙、水彩	23.9×18.0
13	石川欽一郎	1871-1945(明治4-昭和20)	海辺(早川海岸)	1935頃	昭和10頃	キャンバス、油彩	53.2×72.8
14	石川欽一郎	1871-1945(明治4-昭和20)	岡山の海岸	不詳	不詳	紙、水彩	24.2×32.8
15	石川欽一郎	1871-1945(明治4-昭和20)	台湾風景農村	不詳	不詳	紙、水彩	28.8×39.0
16	石川欽一郎	1871-1945(明治4-昭和20)	台湾風景農村	不詳	不詳	紙、水彩	24.5×33.5
17	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	東京新大橋雨中図	1876	明治9	紙、木版、色摺	24.2×35.8
18	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	海運橋(第一銀行雪中)	1876	明治9	紙、木版、色摺	24.4×36.5
19	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	高輪牛町朧月景	1879	明治12	紙、木版、色摺	24.5×36.7
20	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	常盤橋内紙幣寮之図	1880	明治13	紙、木版、色摺	24.8×36.6
21	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	東京両国百本杭暁之図	1879	明治12	紙、木版、色摺	24.4×36.0
22	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	大森乃海	1880	明治13	紙、木版、色摺	20.5×31.9
23	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	神田八雲神社暁	1880	明治13	紙、木版、色摺	24.2×35.9
24	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	橋場の夕暮	1880	明治13	紙、木版、色摺	23.8×35.0
25	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	大川端石原橋	1880	明治13	紙、木版、色摺	24.6×36.4
26	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	虎乃門夕景	1880	明治13	紙、木版、色摺	24.9×36.6
27	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	神田川夕景	1881	明治14	紙、木版、色摺	25.2×36.4
28	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	浅草田甫太郎稲荷	1881	明治14	紙、木版、色摺	20.2×31.4
29	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	本所御蔵橋	1881	明治14	紙、木版、色摺	24.8×37.0
30	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	今戸有明楼之景	1879	明治12	紙、木版、色摺	23.5×35.1
31	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	五本松雨月	1880	明治13	紙、木版、色摺	23.1×33.9
32	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	柳原夜雨	1881	明治14	紙、木版、色摺	25.2×37.3
33	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	浅草夜見世	1881	明治14	紙、木版、色摺	24.8×36.3
34	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	浅草寺年乃市	1881	明治14	紙、木版、色摺	23.5×35.7
35	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	池の端花火	1881	明治14	紙、木版、色摺	23.8×34.9
36	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	日本橋夜	1881	明治14	紙、木版、色摺	24.1×33.7
37	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	上野東照宮積雪之図	1879	明治12	紙、木版、色摺	24.4×36.5
38	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	小梅曳舟通雪景	1879	明治12	紙、木版、色摺	24.4×36.5

番号	作者名	生没年	作品名	制作年(西暦)	制作年(元号)	材質	寸法(cm)
39	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	本町通夜雪	1880	明治13	紙、木版、色摺	23.7×34.3
40	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	御茶の水雪	1880	明治13	紙、木版、色摺	24.6×36.4
41	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	猫と提灯	1877-81	明治10-14	紙、多色刷木版	33.5×46.0
42	小林清親	1847-1915(弘化4-大正4)	駿河湖日没の富士	1879	明治12	紙、木版、色摺	右36.5×24.7 *左36.6×24.7
【Ⅱ 静岡を愛した画家たち-東京から静岡へ】							
43	和田英作	1874-1959(明治7-昭和34)	富士	1918	大正7	キャンヴァス、油彩	60.6×80.2
44	和田英作	1874-1959(明治7-昭和34)	日本平望嶽台	1939	昭和14	キャンヴァス、油彩	45.0×52.8
45	和田英作	1874-1959(明治7-昭和34)	写生帖(三保の富士)	1911	明治44	紙、鉛筆	12.6×17.6
46	和田英作	1874-1959(明治7-昭和34)	写生(富士連作4点)	1920	大正9	紙、水彩	各18.0×27.0
47	和田英作	1874-1959(明治7-昭和34)	写生帖(富士(吉田))	1937	昭和12	紙、鉛筆	13.9×36.6
48	和田英作	1874-1959(明治7-昭和34)	写生帖(天女)			紙、水彩	28.0×18.4
49	曾宮一念	1893-1994(明治26-平成6)	工部大学	1911	明治44	キャンヴァス、油彩	34.0×45.7
50	曾宮一念	1893-1994(明治26-平成6)	芝浦埋立地	1913	大正2	キャンヴァス、油彩	53.0×72.0
51	曾宮一念	1893-1994(明治26-平成6)	風景	1920頃	大正中期	キャンヴァス、油彩	33.4×45.5
52	曾宮一念	1893-1994(明治26-平成6)	梨畑道	1924	大正13	キャンヴァス、油彩	59.0×71.5
53	曾宮一念	1893-1994(明治26-平成6)	種子静物	1934	昭和9	キャンヴァス、油彩	60.6×72.7
54	曾宮一念	1893-1994(明治26-平成6)	八つ残雪	1940	昭和15	キャンヴァス、油彩	22.5×45.0
55	曾宮一念	1893-1994(明治26-平成6)	麦秋	1941	昭和16	キャンヴァス、油彩	72.8×91.0
56	曾宮一念	1893-1994(明治26-平成6)	スペインの野	1968	昭和43	キャンヴァス、油彩	73.0×91.0
57	曾宮一念	1893-1994(明治26-平成6)	毛無連峯	1970	昭和45	キャンヴァス、油彩	53.0×72.7
【Ⅲ 静岡が生んだ画家たち-静岡から全国、世界へ】							
58	秋野不矩	1908-2001(明治41-平成13)	廻廊	1984	昭和59	紙本金地着色	151.3×101.0
59	秋野不矩	1908-2001(明治41-平成13)	ガンガー(ガンジス河)	1979	昭和54	紙本着色	148.0×266.5
60	中村岳陵	1890-1969(明治23-昭和44)	婉膩水韻	1931	昭和6	紙本着色	153.0×368.1
61	中村岳陵	1890-1969(明治23-昭和44)	残照	1961	昭和36	紙本着色	94.5×120.0
62	野島青茲	1915-1971(大正4-昭和46)	工房	1943	昭和18	紙本着色	172.0×106.6
63	北川民次	1894-1989(明治27-平成1)	タスコの祭	1937	昭和12	キャンヴァス、テンペラ	178.1×267.0
64	伊藤勉黄	1917-1992(大正6-平成4)	上海の裏町	1945	昭和20	紙、木版	38×28
65	伊藤勉黄	1917-1992(大正6-平成4)	窓	1953	昭和28	紙、木版	70×52
66	伊藤勉黄	1917-1992(大正6-平成4)	実のある話	1975	昭和50	紙、木版	55×43
67	伊藤勉黄	1917-1992(大正6-平成4)	イシスとホルス	1979	昭和54	紙、木版	75×45
68	伊藤勉黄	1917-1992(大正6-平成4)	風媒花	1988	昭和63	紙、木版	48×75

美術の20世紀展

番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法 (cm)	所蔵先
1 日本における近代絵画の成立						
1	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	1799(寛政11)年	絹本油彩	36.2×100.9	静岡県立美術館
2	司馬江漢	駿河湾富士遠望図	1800(寛政12)年	絹本油彩	56.5×94.3	個人蔵
3	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図	1876(明治9)年以降	油彩・キャンヴァス	41.2×76.2	静岡県立美術館
4	岸竹堂	堅田真景図	1880(明治13)年頃	絹本着色	121.9×32.5	滋賀県立近代美術館
5	山元春挙	深山雪霽鹿図	1895(明治28)年	絹本墨画、四曲一隻	135.0×229.8	滋賀県立近代美術館
6	野村文挙	芳野春暁図	1897(明治30)年頃	絹本着色	172.3×99.6	滋賀県立近代美術館
7	平木政次	富士	1897(明治30)年	油彩・キャンヴァス	44.0×67.0	静岡県立美術館
8	五姓田義松	富士	1905(明治38)年	油彩・キャンヴァス	46.8×101.5	静岡県立美術館
9	下村観山・横山大観	日・月蓬莱山図	1900(明治33)年頃	絹本墨画淡彩、対幅	各98.0×154.0	静岡県立美術館
10	菱田春草	雪の山	1909(明治42)年頃	絹本着色	41.0×62.0	滋賀県立近代美術館
11	川村清雄	波	1913(大正2)-1927(昭和2)年頃	油彩・キャンヴァス	60.6×152.0	静岡県立美術館
2 画家の求めた風景						
12	和田英作	富士	1918(大正7)年	油彩・キャンヴァス	60.6×80.2	静岡県立美術館
13	和田英作	日本平望嶽台	1939(昭和14)年	油彩・キャンヴァス	45.0×52.8	静岡県立美術館(寄託)
14	曾宮一念	麦秋	1941(昭和16)年	油彩・キャンヴァス	72.8×91.0	静岡県立美術館
15	曾宮一念	スペインの野	1968(昭和43)年	油彩・キャンヴァス	73.0×91.0	静岡県立美術館
16	曾宮一念	毛無連峯	1970(昭和45)年	油彩・キャンヴァス	53.0×72.7	静岡県立美術館
17	野口謙蔵	梅干	1929(昭和4)年	油彩・キャンヴァス	160.5×129.0	滋賀県立近代美術館
18	野口謙蔵	五月の風景	1934(昭和9)年	油彩・キャンヴァス	130.0×161.7	滋賀県立近代美術館
19	野口謙蔵	蓮とあさがほ	1935(昭和10)年	油彩・キャンヴァス	130.5×162.0	滋賀県立近代美術館
20	野口謙蔵	虹の風景	1941(昭和16)年	油彩・キャンヴァス	50.3×60.7	静岡県立美術館
3 大正の写実—岸田劉生、速水御舟など						
21	速水御舟	洛北修学院村	1918(大正7)年	絹本着色	132.0×97.5	滋賀県立近代美術館
22	速水御舟	鍋島の皿に石榴	1921(大正10)年	絹本着色	36.8×49.5	静岡県立美術館(寄託)
23	小茂田青樹	四季草花 夏・冬	1919(大正8)年	紙本着色、六曲一双	各132.5×259.0	滋賀県立近代美術館
24	岸田劉生	静物(リーチの茶碗と果物)	1921(大正10)年	油彩・キャンヴァス	48.5×59.5	静岡県立美術館(寄託)
25	柏木俊一	道	大正時代	油彩・キャンヴァス	37.5×45.5	静岡県立美術館
26	山口華楊	山羊	1924(大正13)年	絹本着色、二曲一隻	170.9×188.4	滋賀県立近代美術館
4 ファシズムと戦争、人間性の希求						
27	エルンスト・バルラッハ	読書する僧たちⅢ	1932年	ブロンズ	58.0×44.5×34.5	静岡県立美術館
28	エルンスト・バルラッハ	神の変容	1920-21年	木版・紙		静岡県立美術館
		第一日			25.6×36.0	
		大聖堂			25.4×36.0	
		神の乞食			25.6×35.9	
		死の舞踏			24.6×36.0	
		神の腹			25.5×35.9	

番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法 (cm)	所蔵先
		岩山			25.5×35.9	
		第七日			25.6×35.9	
29	マダレーナ・アバ カノヴィッチ	群集IV	1989-90年	黄麻布、樹脂	各175.0×60.0×3 0.0	滋賀県立近代美術館
30	アントニ・タピエス	黒い空間	1960年	油彩・キャンヴァス	261.0×390.5	滋賀県立近代美術館
5 色の可能性、形の力						
	歌川広重	東海道五拾三次 (保永堂版)	1832(天保3)年	木版・紙	大判錦絵	静岡県立美術館
31		箱根湖水図			25.5×38.7	
32		沼津黄昏図			25.7×38.6	
33		庄野白雨			25.5×38.0	
34		土山春之雨			25.5×38.7	
35	横山大観	群青富士	1917-18(大正6-7)年頃	絹本着色、六曲一双	各176.0×384.0	静岡県立美術館
36	中村岳陵	かきつばた	1945-60年頃(昭和20-30 年代)	絹本着色	60.0×73.7	静岡県立美術館
37	中村岳陵	残照	1961(昭和36)年	紙本着色	94.5×120.0	静岡県立美術館
38	アンディ・ウォーホル	マリリン	1967年	シルクスクリーン・紙、 10点組	各91.5×91.5	滋賀県立近代美術館
39	アンディ・ウォーホル	キャンベル・スー プ I	1968年	シルクスクリーン・紙、 10点組	各89.3×58.7	滋賀県立近代美術館
40	ロイ・リキテンスタ イン	フット・アンド・ ハンド	1964年	オフセットリトグラフ・ 紙	42.1×53.3	滋賀県立近代美術館
41	ロイ・リキテンスタ イン	泣く女	1963年	オフセットリトグラフ・ 紙	43.7×58.9	滋賀県立近代美術館
42	ロイ・リキテンスタ イン	積みわら# 1	1969年	リトグラフ、シルクス クリーン・紙	33.9×59.7	滋賀県立近代美術館
43	ロイ・リキテンスタ イン	積みわら# 2	1969年	リトグラフ、シルクス クリーン・紙	34.0×59.7	滋賀県立近代美術館
44	ロイ・リキテンスタ イン	積みわら# 3	1969年	リトグラフ、シルクス クリーン・紙	34.0×59.8	滋賀県立近代美術館
45	ロイ・リキテンスタ イン	積みわら# 4	1969年	リトグラフ、シルクス クリーン・紙	34.0×59.7	滋賀県立近代美術館
46	ロイ・リキテンスタ イン	積みわら# 5	1969年	リトグラフ、シルクス クリーン・紙	34.0×59.7	滋賀県立近代美術館
47	ロイ・リキテンスタ イン	積みわら# 6	1969年	リトグラフ・紙	34.1×59.8	滋賀県立近代美術館
48	ロイ・リキテンスタ イン	積みわら# 6、 ステート1	1969年	リトグラフ・紙	34.1×59.9	滋賀県立近代美術館
49	ロイ・リキテンスタ イン	積みわら# 7	1969年	凸版刷り・紙	34.5×60.0	滋賀県立近代美術館
6 女性の時代-それぞれのアジア						
50	小倉遊亀	故郷の人達	1929(昭和4)年	紙本着色、二曲一隻	171.3×206.4	滋賀県立近代美術館
51	小倉遊亀	家族達	1958(昭和33)年	紙本着色	204.0×153.6	滋賀県立近代美術館
52	小倉遊亀	月	1965(昭和40)年	板着色、三面	各151.0×58.8	滋賀県立近代美術館
53	小倉遊亀	雪	1977(昭和52)年	紙本金地着色	199.0×139.5	滋賀県立近代美術館
54	小倉遊亀	菩薩	1979(昭和54)年	紙本着色	148.0×65.0	滋賀県立近代美術館
55	秋野不矩	廻廊	1984(昭和59)年	紙本金地着色	151.3×101.0	静岡県立美術館
56	秋野不矩	ガンガー(ガンジ ス河)	1979(昭和54)年	紙本着色	148.0×266.5	静岡県立美術館
57	秋野不矩	たむろするクー リー	1984(昭和59)年	紙本金地着色	94.5×294.0	静岡県立美術館
58	秋野不矩	ウダヤギリII	1992(平成4)年	紙本着色	135.0×240.0	静岡県立美術館
59	三橋節子	土の香	1971(昭和46)年	紙本着色	160.7×129.5	滋賀県立近代美術館

番号	作者名	作品名	制作年	材質・技法・形状	寸法 (cm)	所蔵先
60	三橋節子	鬼子母神	1972(昭和47)年	紙本着色	162.1×130.3	滋賀県立近代美術館
7 触覚性の開拓						
61	山口長男	縫	1982(昭和57)年	油彩・板	180.0×91.5	アトススペースモダ
62	イヴ・クライン	RE42		スポンジ、小石、染料、 合成樹脂・板	93.5×73.5	滋賀県立近代美術館
63	徳岡神泉	雨	1964(昭和39)年	紙本着色	110.7×143.7	静岡県立美術館
64	斎藤義重	作品2	1960(昭和35)年	油彩・合板(ドリルを 使用)	169.0×109.0	静岡県立美術館
65	ジョアン・ミツェル	湖	1954年	油彩・キャンヴァス	203.2×254.5	静岡県立美術館
66	田村一男	北越大雪	1976(昭和51)年	油彩・キャンヴァス	145.5×89.4	静岡県立美術館
67	マーク・ロスコ	ナンバー28	1962年	油彩・キャンヴァス	205.8×193.5	滋賀県立近代美術館
8 越境する美術						
68	森田安次	風の又三郎	1949(昭和24)年	紙本墨書、額装	136.4×68.7	静岡県立美術館
69	李禹煥	線より	1979(昭和54)年	岩絵具・キャンヴァス・ にかわ	182.0×227.0	静岡県立美術館
70	李禹煥	点より	1976(昭和51)年	岩絵具・キャンヴァス・ にかわ	181.5×227.5	滋賀県立近代美術館
71		古備前四耳壺	15-16世紀(室町時代)	古備前焼	h.31.0	静岡県立美術館
72	香月泰男	冬島	1965(昭和40)年	油彩、方解末、墨・キャン ヴァス	90.9×60.6	静岡県立美術館
73	アンリ・マティス	オセアニア 海	1946年	シルクスクリーン・リ ンネル	165.0×376.5	滋賀県立美術館
74	芹沢銈介	貝文着物	1963(昭和38)年	型絵染・絹(縮緬)	164.0×66.0	静岡市立芹沢銈介美 術館
75	芹沢銈介	宝尽くし文二曲 屏風	1960(昭和35)年頃	型絵染・絹(紬)	174.2×190.0	静岡市立芹沢銈介美 術館
76	芹沢銈介	御滝図のれん	1962(昭和37)年	型絵染・絹(紬)	135×112.5	静岡市立芹沢銈介美 術館
77	芹沢銈介	知恩院御影堂荘 厳布 のための型紙 (行灯)	1974(昭和49)年	型紙	226.0×157.0	静岡市立芹沢銈介美 術館

出品目録

- | | |
|---|---|
| <p>1 マンモスの骨格
Mammoth skeleton
bone 2.7×3.5×1.8m
40 ths. years B.P.
Siberia</p> <p>2 バイソンの骨格
Ancient bison skeleton
bone 1.7×2.3×1.2m
90 ths. years B.P.
West Siberia</p> <p>3 アナグマのミイラ
Glutton mummy
bone, skin L-90cm
14-10 ths. years B.P.
Nizneudinskaya Cave, Siberia</p> <p>4 人の歯
Ancient human tooth
tooth 2×1cm
45-40 ths. years B.P.
Okladnikova Cave, Gorny Altai</p> <p>5 マンモス像
Mammoth shaped figurine
bone 8.5×5cm
22-20 ths. years B.P.
Ust-kova, Middle Siberia</p> <p>6 石槍
Spearhead
stone 11×3cm 11×1cm
15.8×6.5cm
100 ths. years B.P.
Gorny Altai, Kazaxstan</p> <p>7 スクレイパー、石刃、チョッパー
Scraper, Blade, Chopper
stone
6×4.5cm 4×3.5cm 8×2cm
10.5×5cm 14.5×9.5cm
60-50 ths. years B.P.
Tumechin, Gorny Altai</p> <p>8 石刃
Blade
stone
15×4cm 15.5×3.7cm 18×3.5cm
16×4.5cm 15.5×4cm
45-40 ths. years B.P.
Kara-bom, Gorny Altai</p> <p>9 細石核
Microcore
stone 3×2.5cm
paleolit
Gorny Altai</p> <p>10 細石刃
Microblade
stone 1×0.5cm-2×0.9cm
paleolit
Gorny Altai</p> <p>11 装身具
Dress ornament
bone L-5.1cm
6 ths. years B.P. Neolit
Itkul Lake, Gorny Altai</p> <p>12 装身具
Ornament
bone D-23cm D-13cm
L-15cm
8-5 ths. years B.P. Neolit
Ust-isha site, Gorny Altai</p> <p>13 人骨
Human skeleton
bone H-190cm
3,000-2,000 B.C.
Peshkerkin Log, Gorny Altai</p> | <p>14 副葬品
Pot, Stone dagger, Scraper,
Axe, Bone drill
stone, clay, bone
3,000-2,000 B.C.
Peshkerkin Log, Gorny Altai</p> <p>15 尖頭器
Spearhead
stone L-32.5cm
5-4 ths. years B.P. Neolit
Siberia</p> <p>16 石鏃
Arrowhead
stone L-4.3cm L-3.5cm
2-1.5 ths. B.C.
Denisova cave, Gorny Altai</p> <p>17 火のし形石製品
Iron shaped stone tool
stone L-10cm
3-2 ths. B.C.
Kuium burial, Gorny Altai</p> <p>18 骨鏃、手斧
Arrowhead, Scraper
bone 5.5×2cm 5×3cm
3-2 ths. B.C.
Denisova cave, Gorny Altai</p> <p>19 骨鏃、針筒
Arrowhead, Needle case
bone L-7cm L-6.6cm
2-1 ths. B.C.
Denisova cave, Gorny Altai</p> <p>20 岩偶(熊の頭)
Bear head shaped stone
figurine
stone L-7.6cm
3-2 ths. years B.C.
Kuium burial, Gorny Altai</p> <p>21 短頸壺
Jar
clay H-26cm H-20cm
3-2 ths. B.C.
Karacol, Gorny Altai</p> <p>22 甕
Pot
clay H-11.5cm
1.5-1 ths. B.C.
West Siberia</p> <p>23 甕
Pot
clay H-15cm
1.5-1 ths. B.C.
West Siberia</p> <p>24 櫛
Comb
bone 5×4.5cm 8×3.5cm
2-1.5 ths. B.C.
Sopka 2, West Siberia</p> <p>25 ペンダント
Pendant
stone 4.5×16cm
2-1.5 ths. B.C.
Sopka 2, West Siberia</p> <p>26 鳥形骨製品
Topping with the shape of
bird head
bone 14×11cm
2-1.5 ths. B.C.
Sopka 2, West Siberia</p> <p>27 飾金具
(戴冠したシャーマンの頭部)
Ornament of crowned
shaman head
bronze 13×11cm
2 ths. B.C.
Middle Siberia</p> |
|---|---|

凡例

作品のデータは、以下の順番で記載している。

No.	Title
	Material Size
	Date
	Place of find

●上記項目のうち、判明しているもののみ記載した。

- 28 矛
Spearhead
bronze L-21cm
1.5 ths. B.C.
Elumino, Steppe Altai
- 29 ナイフ
Knife
bronze L-16.5cm
900 B.C.
Denisova cave, Gorny Altai
- 30 斧
Socketed axe
bronze 10×5.5cm
2-1.5 ths. B.C.
Sopka 2, West Siberia
- 31 斧
Socketed axe
bronze 14×7.7×3.8cm
1.6-1.5 ths. B.C.
Steppe Altai
- 32 鋳型
Casting mold
clay 12×5.5cm
2-1.5 ths. B.C.
Sopka 2, West Siberia
- 33 鋳型
Casting mold
clay 17×7.5cm
2-1.5 ths. B.C.
Umna, West Siberia
- 34 鋳型
Casting mold
stone 7×5cm
2-1.5 ths. B.C.
Sopka 2, West Siberia
- 35 取瓶
Sprue-cup
clay 6×6.5cm H-3cm
2-1.5 ths. B.C.
Sopka 2, West Siberia
- 36 岩絵
Petroglyph
stone 57×41×6cm
2 ths. B.C.
Ozernoe site, Altai
- 37 絵が刻まれた石板
Carved plate
stone 72×62cm 66×45cm
2 ths. B.C.
Karacol, Gorny Altai
- 38 彩画石椀
Painted plate
stone 55.7×97.5cm
2 ths. B.C.
Karacol, Gorny Altai
- 39 グリフィン形馬具装飾
Harness (Bridle) ornament of griffin shaped figurine
wood H-10cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha, Ukok, Gorny Altai
- 40 グリフィン形馬具装飾
Harness (Bridle) ornament of griffin shaped figurine
wood, gold H-10cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Kuturguntas, Ukok, Gorny Altai
- 41 馬具装飾
Harness ornament
bronze H-2cm H-2cm
H-2cm H-3.2cm
500-200 B.C.
Steppe Altai
- 42 絞金具
Buckle
bronze L-7cm L-4cm L-7cm
500-200 B.C.
Steppe Altai
- 43 鞍装飾
Saddle ornament
felt 52×51cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha, Ukok, Gorny Altai
- 44 鞍装飾
Saddle ornament
felt 57×90cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha, Ukok, Gorny Altai
- 45 鞍装飾
Saddle pendant
felt L-24cm
500-400 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha, Ukok, Gorny Altai
- 46 短剣
Dagger
bronze L-24.5cm
500-400 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 47 短剣と鞘
Dagger, Sheath
bronze, wood L-20cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 1, Ukok, Gorny Altai
- 48 短剣
Dagger
bronze
L-18.5cm L-25.7cm L-30cm
700-300 B.C. Pazyryk culture
Staroaleika, Altai
- 49 短剣鞘
Dagger sheath
bone H-14.2cm
300-100 B.C.
Ust-Ishtovka, Steppe Altai
- 50 闘斧
Battle axe
wood, bronze L-50cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 51 打撃痕のある頭蓋骨
Skull
bone 20×17cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 52 闘斧
Battle axe
bronze L-18.5cm
500-400 B.C. Pazyryk culture
Tashanta, Gorny Altai
- 53 闘斧
Battle axe
bronze L-15cm L-18cm
700-300 B.C. Pazyryk culture
Kyrlyk, Gorny Altai
- 54 鏡
Mirror
gold, bronze D-15cm
500-200 B.C.
Steppe Altai
- 55 鏡
Mirror
bronze D-13cm
500-400 B.C. Pazyryk culture
Balyk-Sook, Gorny Altai
- 56 鏡
Mirror
bronze D-5.8cm D-6cm
500-400 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Ustyrd, Gorny Altai
- 57 銅甕
Cauldron
bronze H-30cm
500-200 B.C.
Novotroitsck, Steppe Altai
- 58 銅甕
Cauldron
bronze H-50cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Altai
- 59 矢筒飾り
Arrow-case ornament
wood 6×63.5cm
500-400 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 1, Ukok, Gorny Altai
- 60 矢筒と矢
Arrow-case and arrow
felt, wood 83×26cm
500-400 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin, Ukok, Gorny Altai
- 61 楯
Shield
wood L-39cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 62 儀式用香炉
Incense burner
stone H-10.3cm
500-200 B.C.
Altai
- 63 壺
Jar
clay H-18cm H-26cm
400-200 B.C. Pazyryk culture
Ustyrd, Gorny Altai
- 64 カップ
Cup
wood H-13cm H-9cm
400-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Ustyrd, Gorny Altai
- 65 耳飾り
Earring
gold L-3cm
800-600 B.C.
Steppe Altai
- 66 装身具
Beads
stone L-2.4cm
500-200 B.C.
Steppe Altai
- 67 頭飾り
Diadem
gold D-17cm
500-200 B.C.
Steppe Altai
- 68 虎形帯金具
Ornament of tiger shaped figurine
bronze L-5cm
500-400 B.C.
Steppe Altai
- 69 猪形帯金具
Ornament of wild boar shaped figurine
bone L-5.2cm
600-400 B.C.
Steppe Altai
- 70 装飾板
Plaque decoration
bone L-14cm
800-400 B.C.
Steppe Altai
- 71 垂飾付耳飾り
Earring with pendant
gold L-6.3cm
400-300 B.C. Pazyryk culture
Balyk-Sook, Gorny Altai
- 72 垂飾付耳飾り
Earring with pendant
gold L-3.1cm
500-400 B.C. Pazyryk culture
Ustyrd, Gorny Altai
- 73 金製山羊像
Ornament of ibex shaped figurine
gold H-5.5cm
300-100 B.C.
Steppe Altai
- 74 装身具
Badge
gold 3×4cm
300-100 B.C.
Steppe Altai
- 75 垂飾付耳飾り
Earring with pendant
gold L-3cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Ukok, Gorny Altai
- 76 耳飾り
Earring
gold, stone L-4cm
400-300 B.C. Pazyryk culture
Balyk-Sook, Gorny Altai
- 77 首飾り
Beads
stone, glass L-24cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Borotal, Gorny Altai
- 78 鹿形青銅製品
Deer shaped figurine
bronze 7.5×6cm
600-100 B.C. Tagar culture
Kolak burial, West Siberia
- 79 馬形頭飾り
Head ornament of horse shaped figurine
wood L-5.5cm H-6.2cm
400-300 B.C. Pazyryk culture
Tashanta, Gorny Altai
- 80 鷹形頭飾り
Head ornament of hawk shaped figurine
wood H-6cm
400-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 81 馬・鹿形垂飾
Necklace end of horse shaped figurine with elk head
wood H-7cm
400-300 B.C. Pazyryk culture
Barbagazy, Gorny Altai
- 82 鳥形頭飾り
Head ornament of bird shaped figurine
wood, gold H-7cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Ustyrd, Gorny Altai
- 83 馬形頭飾り
Head ornament of horse shaped figurine
wood H-5.5cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai

- 84 | 馬形頭飾り
Head ornament of horse shaped figurine
wood L-14cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 1, Ukok, Gorny Altai
- 85 | 馬形頭飾り
Head ornament of horse shaped figurine
wood, bronze, gold H-14cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 86 | 頭飾り
Diadem
wood L-19cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 87 | 頭飾り
Diadem
wood 14×4cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 88 | 頭飾り
Diadem
wood L-33cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Tashanta, Gorny Altai
- 89 | 山羊形垂飾
Pendant of goat shaped figurine
wood L-5.5cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Ustyid, Gorny Altai
- 90 | 獅子形垂飾
Pendant of lion shaped figurine
wood L-19cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 91 | 衣装装飾
Dress decoration
gold 4.8×1.5cm
500-400 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha, Ukok, Gorny Altai
- 92 | 衣装装飾
Dress decoration
gold L-2.4cm
500-300 B.C. Pazyryk culture
Borotal, Gorny Altai
- 93 | 衣装装飾
Dress decoration of human face
gold L-3.5cm
500-400 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 94 | 飾り金具
Bird figurine and decoration
gold D-0.7cm bird-3×2.6cm
500 B.C. Pazyryk culture
Balyk-Sook, Gorny Altai
- 95 | アップリケ
Applique of cock figure openwork
leather L-15cm
300-200 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 96 | アップリケ
Applique of leopard figure openwork
leather L-15.3cm
400-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 97 | アップリケ
Applique of lion figure with fish openwork
birch-bark L-11.2cm
400-300 B.C. Pazyryk culture
Ulandryk, Gorny Altai
- 98 | 衣装装飾
Dress decoration
cowrie L-2cm
500 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha, Ukok, Gorny Altai
- 99 | 岩刻画
Petroglyph
stone 25×13×8cm
600-200 B.C. Pazyryk culture
Gorny Altai
- 100 | 岩刻画
Petroglyph
stone 26×39×4cm
600-200 B.C. Pazyryk culture
Gorny Altai
- 101 | 岩刻画
Petroglyph
stone 32×23×8cm
600-200 B.C. Pazyryk culture
Gorny Altai
- 102 | いびつみ
文身を持つ男性のミイラ
Mummy of a man
bone, skin H-160cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 103 | コート
Fur coat
wool L-115cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 104 | 男性用ズボン
Pants
wool L-104cm D-27cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 105 | 長靴下
Stocking
felt L-98cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 106 | 棺台
Burial bed
wood 158×81×33cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 107 | 頭飾り
Diadem
wood 3.5×56cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 108 | 頭飾り
Head-dress
felt 30×30cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 109 | 頭飾り
Head-dress
felt, wood 68×25cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 110 | 帯装飾
Belt plaque
wood 6×11cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 111 | 短剣と鞘
Dagger, Sheath
iron, wood L-28cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 112 | 馬具装飾
Harness (Bridle) ornament
wood, bronze D-10.5cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Verkh-Kaldjin II, Ukok, Gorny Altai
- 113 | 女性用シャツ
Shirt
silk 110×80cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 114 | スカート
Skirt
wool 144×90-112cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 115 | 長靴下
Stocking
felt L-96cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 116 | 動物形頭飾り
Topping of head-dress
wood, bronze
H-12cm H-17.5cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 117 | 頭飾り
Head ornament
wood L-26cm L-9cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 118 | 首飾り
Necklace
wood L-7cm L-43cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 119 | 馬具装飾
Harness (Bridle) ornament
wood, bronze D-10.5cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 120 | グリフィン形馬具装飾
Harness (Bridle) ornament of griffin shaped figurine
wood H-9cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 121 | グリフィン形馬具装飾
Harness (Bridle) ornament of griffin shaped figurine
wood, gold 8×5cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 122 | 鞍装飾
Saddle pendant of fish shaped figurine
felt L-78cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 123 | 鞍装飾
Saddle pendant of fish shaped figurine
felt L-78cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 124 | 鞍装飾
Saddle ornament of wolf shaped figurine
felt 24×39cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 125 | 鞍装飾
Saddle pendant
wool L-31cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 126 | 儀式用香炉
Incense burner
stone 8×7cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 127 | 角製容器
Bottle
bone H-24cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 128 | 脚付皿
Plate
wood 60×52.5cm H-10cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 129 | 脚付皿
Plate
wood H-16cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 130 | 鏡
Mirror
wood, silver 15.5×8.5cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 131 | 木棺装飾用アップリケ
Applique of elk figure openwork
leather 15×30cm
500-200 B.C. Pazyryk culture
Ak-Alakha 3, Ukok, Gorny Altai
- 132 | 青銅像
Beaver figurine
bronze L-7-15cm
100-200 A.D.
West Siberia
- 133 | 弓付属具
Bracket for the bow
bone L-22cm L-2cm
100-300. A.D Hun-Sarmatien Age
Ust-Edigan, Gorny Altai
- 134 | 飾り金具
Ornament of zoomorphic figurine
bronze 17.2×2.1cm
100-300 A.D.
West Siberia

- 135 鑄型
Casting mold
stone 7×7cm
100-200 A.D.
West Siberia
- 136 劍把頭飾
Pommel ornament
Gold, bronze, axstone H-6.5cm
400-500 A.D. Hun-Sarmatien
Age
Sopka-2, West Siberia
- 137 鞘尻金具
Sheath end
silver L-22cm
400-500 A.D. Hun-Sarmatien
Age
Sopka-2, West Siberia
- 138 留め具
Brace
axstone L-14cm
400-500 A.D. Hun-Sarmatien
Age
Sopka-2, West Siberia
- 139 馬具裝飾
Harness (Bridle) ornament
silver L-24cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Usty, Gorny Altai
- 140 前輪
Saddlebow
bone L-45cm L-21cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Jolin, Gorny Altai
- 141 馬具裝飾
Harness ornament
gold, iron 5.5×5cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Usty, Gorny Altai
- 142 鏃
Arrowhead
iron L-10.8cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Borotal, Gorny Altai
- 143 ナイフの柄
Knife handle
bronze 10×3.5cm
700-900 A.D.
West Siberia
- 144 金象嵌銘文太刀
Sword with inlaid
inscriptions
iron, gold L-86cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Jolin, Gorny Altai
- 145 鏡
Mirror
bronze D-7cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Bertek, Ukok, Gorny Altai
- 146 把手付壺
Cup
silver H-8cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Bertek, Ukok, Gorny Altai
- 147 石人
Figure of a Turkic warrior
stone 143×44×5cm
700-900 A.D. Old Turkic Age
Gorny Altai
- 148 耳飾り
Earring
bronze, gold L-4cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Bertek, Ukok, Gorny Altai
- 149 把手付壺
Jar
silver H-8cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Usty, Gorny Altai
- 150 鏡(海獣葡萄鏡)
Mirror
silver D-9.8cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Usty, Gorny Altai
- 151 帯金具
Belt plaque
silver, leather W-1.4cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Usty, Gorny Altai
- 152 帯金具
Buckle
bronze 9.8×18.5cm
700-900 A.D.
West Siberia
- 153 帯金具
Belt plaque
gold, bronze W-5.5cm
600-900 A.D. Old Turkic Age
Usty, Gorny Altai
- 154 帯金具
Belt plaque
gold, bronze W-4.8cm
800-1,100 A.D. Old Turkic Age
Plotnikovo, Steppe Altai
- 155 皿
Plate
silver D-24cm
800-900 A.D.
Middle Siberia
- 156 飾り金具(二頭の熊)
Ornament of bear shaped
figurine
bronze 6.8×5.5cm
700-900 A.D.
West Siberia
- 157 飾り金具(熊)
Ornament of bear shaped
figurine
bronze 4.3×7cm
700-900 A.D.
West Siberia
- 158 飾り金具(熊)
Ornament of bear shaped
figurine
bronze 4×6.5cm
700-900 A.D.
West Siberia
- 159 飾り金具(熊)
Ornament of bear shaped
figurine
bronze 4×6.5cm
700-900 A.D.
West Siberia
- 160 飾り金具(雁)
Ornament of goose shaped
figurine
bronze 9×10.5cm
900-1,100 A.D.
West Siberia
- 161 飾り金具(騎馬人物)
Ornament of horseman
shaped figurine
bronze 5.5×5cm
700-900 A.D.
West Siberia
- 162 飾り金具(人物)
Ornament of anthropomorphic
shaped figurine
bronze 6.7×3.2cm
400-700 A.D.
West Siberia
- 163 飾り金具(動物)
Ornament of animal shaped
figurine
bronze 3×3.5cm
700-900 A.D.
West Siberia
- 164 飾り金具(動物)
Ornament of animal shaped
figurine
bronze L-9.5cm
700-900 A.D.
West Siberia
- 165 飾り金具(鳥)
Ornament of bird shaped
figurine
bronze 6.2×3cm
400-700 A.D.
West Siberia
- 166 飾り金具(動物)
Ornament of animal shaped
figurine
bronze 4×6.4cm
700-900 A.D.
West Siberia
- 167 飾り金具(魚)
Ornament of fish shaped
figurine
bronze L-7cm
900-1,100 A.D.
West Siberia
- 168 飾り金具(山羊)
Ornament of goat shaped
figurine
bronze 4.5×6.6cm
900-1,100 A.D.
West Siberia
- 169 飾り金具(魚)
Ornament of fish shaped
figurine
bronze 2×10cm
400-700 A.D.
West Siberia
- 170 皿
Plate
silver D-39cm
900-1,000 A.D.
West Siberia
- 171 皿
Plate
silver D-12.7cm
1,000 A.D.
West Siberia
- 172 皿
Plate
silver D-14cm
1,400 A.D.
West Siberia
- 173 鞆
Shield for hand protection
silver 6.8×11.4cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 174 鞆
Shield for hand protection
silver 7×12.3cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 175 首飾り
Necklace
stone, glass L-21cm L-40cm
L-72cm
800-1,200 A.D. Old Mongolian
Age
Shibe, Gorny Altai
- 176 腕輪
Bangle
silver D-7cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 177 腕輪
Bangle
silver D-7-10cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 178 腕輪
Bangle
silver D-10cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 179 耳飾り, 腕輪
Earring, Bangle
silver L-4cm D-10cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 180 腕輪
Bangle
silver D-10cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 181 櫛
Comb
bronze 9.5×6.5cm
1,300-1,400 A.D.
West Siberia
- 182 腕輪
Bangle
silver 3.3×11.5cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 183 耳飾り
Earring
silver L-5.2cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 184 耳飾り
Earring
silver L-2cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 185 装飾品
Decoration fragment
silver 9.4×3-4cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 186 頭飾り
Diadem
silver 4.2×46cm
1,200 A.D.
West Siberia
- 187 飾り金具(鳥)
Ornament of bird shaped
figurine
silver 2.8×4.5cm
900-1,100 A.D.
West Siberia
- 188 木製容器
Bucket
wood H-20cm H-25cm
Beginning of XX C.
Altai

- 189 木製容器
Bucket
wood H-24cm
Beginning of XX C.
Altai
- 190 容器
Vessel
leather of cow udder H-36cm
XIX C.
Altai
- 191 ナイフ
Knife
wood, iron L-34cm L-26cm
XIX C.
Altai
- 192 火打ち金
Fire stone
leather, bronze L-17cm
XIX C.
Altai
- 193 水筒
Vessel
leather H-39cm H-17cm
XIX-XX C.
Altai
- 194 ゆりかご
Cradle
wood L-70cm
XIX C.
Altai
- 195 鞍、鐙
Saddle, Stirrup
wood, leather, bronze L-50cm
XIX C.
Altai
- 196 銜、面繫
Horse harness ornament
leather, bronze L-18cm
XIX C.
Altai
- 197 馬具装飾
Horse harness ornament
leather, cloth, bronze L-96cm
XIX C.
Altai
- 198 鐙
Stirrup
bronze H-16cm
XIX C.
Altai
- 199 耳飾り
Earring
bronze, stone L-8cm
XIX C.
Altai
- 200 長方形銀板
Rectangular plate
silver L-25cm
Beginning of XIX C.
West Siberia
- 201 弦楽器
Musical instrument
wood, leather L-80cm
XIX C.
Altai
- 202 ショール
Female shawl
cloth 105×105cm
Beginning of XX C.
Altai
- 203 カーペット
Carpet
felt 90×165cm
Beginning of XX C.
Altai
- 204 円形カーペット
Carpet
felt D-104cm
Beginning of XX C.
Altai
- 205 衣服
Coat
leather L-70cm
Beginning of XX C.
West Siberia
- 206 衣服(女性用婚礼服)
Wedding dress
cloth L-120cm
Beginning of XX C.
Altai
- 207 衣服(女性用婚礼服)
Wedding dress
cloth L-120cm
XIX C.
Altai
- 208 衣服
Dress
cloth L-135cm
Beginning of XX C.
Altai
- 209 夏用帽子(女性用)
Summer hat
cloth, fur D-23cm H-18cm
Beginning of XX C.
Altai
- 210 衣服(コートと女性用婚礼服)
Fur coat, Wedding dress
cloth, fur L-130cm L-120cm
Beginning of XX C.
Altai
- 211 ブーツ
Boots
leather H-41.5cm
XIX C.
Altai
- 212 婚礼用タンスと輿
Box for bride
wood, iron, cloth H-102cm
XX C.
Altai
- 213 シャーマンのタンバリン
Shaman tambourine
leather, wood D-65cm
XIX C.
West Siberia
- 214 シャーマンのタンバリン
Shaman tambourine
leather, wood D-65cm
XIX C.
West Siberia
- 215 シャーマンのタンバリンの柄
Handle of shaman
tambourine
wood L-76cm
XIX-XX C.
Altai
- 216 シャーマンのタンバリンの柄
Handle of shaman
tambourine
wood L-62cm
XIX-XX C.
Altai
- 217 シャーマンの刀
Shaman saber
iron L-61cm
XIX C.
West Siberia
- 218 シャーマンの刀
Shaman saber
iron L-82cm
XVII C.
West Siberia
- 219 シャーマンの槍
Shaman baculus
iron L-107cm
XIX C.
West Siberia
- 220 生け贅の覆い布
Sacrifice cover
cloth 89×108cm 86×73cm
XIX-XX C.
West Siberia
- 221 生け贅の覆い布
Sacrifice cover
cloth 60×56cm 90×62cm
XIX-XX C.
West Siberia
- 222 胸飾り
Chest decoration
cloth, corall, glass W-25cm
XIX C.
Altai
- 223 胸飾り
Chest decoration
cloth, corall, glass W-26cm
Beginning of XX C.
Altai
- 224 胸飾り
Chest decoration
cloth, corall, glass W-35cm
XX C.
Altai
- 225 胸飾り
Chest decoration
leather, fur, glass L-70cm
Beginning of XX C.
West Siberia
- 226 装身具
Adornment
horse hair, cowri L-40cm
XIX C.
Altai
- 227 シャーマンの冠とペンダント
Shaman crown and pendant
iron, leather D-20cm
XIX C.
West Siberia
- 228 祭祀用ベルトと頭巾
Ritual belt and helmet
cloth 130×34cm H-62-36cm
XX C.
West Siberia
- 229 受け皿
Saucer
silver D-10cm
Beginning of XIX C.
West Siberia
- 230 受け皿
Saucer
silver D-10cm
Beginning of XIX C.
West Siberia
- 231 受け皿
Saucer
silver D-11.5cm
Beginning of XIX C.
West Siberia
- 232 受け皿
Saucer
silver D-10cm
Beginning of XIX C.
West Siberia
- 233 護符
Amulet
bronze D-4.5cm
XIX C.
Altai
- 234 青銅神像(屋敷の守り神)
Figure of family patron
spirit
bronze, cloth L-15cm
X C., XX C.
West Siberia
- 235 屋敷の守り神
Figure of family patron
spirit
wood, cloth L-35cm
XVIII C.
West Siberia
- 236 屋敷の守り神
Figure of family patron
spirit
wood, cloth L-20cm
XVIII C.
West Siberia
- 237 祭壇と神像
Altar and two idols
wood L-120cm
Middle of XX C.
West Siberia
- 238 木偶(家の守り神)
Figure of family patron
spirit
Wood L-60-160cm
XIX C.
West Siberia

参考文献

護雅夫・岡田英弘 「中央ユーラシアの世界」
民族の世界4山川出版社
藤川繁彦編 1999「中央ユーラシアの考古学」
世界の考古学⑥同成社
ミハール・ホップパール1998「図説 シャーマニ
ズムの世界」(村井翔訳)青土社
日本対外文化協会1987「日本人と文化の起
源をたずねて—アルタイ・シベリア歴史文明展—」
韓国国立中央博物館1995「アルタイ文明展」
(※ハングル語)
Seberian Branch Of The Russian
Academy of Sciences
Institute of archaeology and
Ethnography 2000 Achaology,
Ethnology & Anthropology of Eurasia,
No.4-4

静岡NewArt「あなたの居場所」展

居城純子

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(cm)	展示場所
1	()	2005	燃えた絵、切られた絵、額縁、モジュール	可変	県民ギャラリー
2	くらいへや	2005	スライドビューワー	187.0×4.0×6.0	裾野市立東中学校・東雲ギャラリー

高橋唐子

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(cm)	展示場所
3	風の物語	2005	ミクストメディア	可変	県民ギャラリー入口

柳原詮子

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(cm)	展示場所
4	建築にまつわる個の記憶	2005	DVD12分、DVD24分、プロジェクター、写真	可変	県民ギャラリー

山極満博

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(cm)	展示場所
5	plain	2003	アクリル、カンバス	130.3×130.3×3	県民ギャラリー
6	north shore	2005	アクリル、カンバス、鉛筆	33.4×24.3.×2	県民ギャラリー
7	traffic	2004	アクリル、カンバス、鉛筆	162×97×4	県民ギャラリー
8	sky blue no.2	2005	写真ほか	6×2.1×0.2	県民ギャラリー
9	airplane	2003	メディア・プリント	25×25	県民ギャラリー
10	point	2005	アクリル、カンバス、鉛筆	38.5×29.5×4	県民ギャラリー
11	Luminous yellow - packing -	2005	廃品、展示ケース	90×90×210	県民ギャラリー
12	snow white - flowchart -	2005	発泡スチロール、プラスター・ボード	170×78×40.7	県民ギャラリー
13	doghouse	2000	木	50×30×42	県民ギャラリー
14	stroll box	2005	ダンボール箱	no. 102:15×10×10 no. 104:20×15×10 no. 109:30×22.5×22.5	県民ギャラリー
15	cedar	2005	発泡スチロール、木	cedar:14.8×14.8×13×36個 パレット:110×110 スタイロフォーム・ボックス:110×110×91	県民ギャラリー・トラックヤード荷解き室
16	sunrise	2005	セルロイド(ピンポン球)、バケツ		県民ギャラリー・用具倉庫
17	...	2005	ポリウレタン	92.2×74.3×10	県民ギャラリー・用具倉庫
18	sky blue no.3	2005	写真ほか	5.4×5.4×2.5	県民ギャラリー・用具倉庫
19	sky blue - To look up, look down -	2005	C-プリント、プレキシガラス、アルミ管	80×80×25~74.5cm×36個	県民ギャラリー・トラックヤード
20	sink duck	2005	発泡スチロール	2005	美術館入口インフォメーションカウンター

米原昌郎

No.	作品名	制作年	材質	サイズ(cm)	展示場所
21	The harbor	2004	パネルに油土	177.0×177.0	県民ギャラリー
22	Picnic to the harbor	2005	パネルに油土	200.0×250.0	県民ギャラリー

23	Another structure	2005	ポリエステル樹脂	73.0×90.0	県民ギャラリー
24	Peace of mind	2005	布にポリエステル樹脂	h183.0×100.0×215.0	県民ギャラリー
25	Double Bind	2001	シリコンラバー	h1350×w210×d120cm	旧浜松銀行協会・エントランスホール
26	Farewell to Fathers	2005	エレクトーン、スライドプロジェクター		旧浜松銀行協会・事務室
27	The structure	2005	ポリエステル樹脂	73.0×90.0	旧浜松銀行協会・応接室
28	The Constitution	2002	真鍮、その他	h160×w55×d55	旧浜松銀行協会・応接室
29	Portrait of fathers	2005	フリース生地、油粘土	h91×w79×d11×4点	旧浜松銀行協会・談話室
30	Blast swing	2005	鉄、その他	h124×w150×d196	旧浜松銀行協会・講堂
31	The Long goodbye	2004	FRP	h106×w338×d48	旧浜松銀行協会・会議室

収蔵品展

西洋の風景画—物語から風景へ—

6月5日（日）～7月18日（月・祝） 第6・7展示室

No.	作者名	作品名
1	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景
2	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景
3	サルヴァートル・ローザ	川のある山岳風景
4	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼
5	アレッサンドロ・マニャスコ	山道の行列
6	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』
6-1		献辞
6-2		天使に称揚される紋章
6-3		扉
6-4		来たるべき出発について マリアに話すヨセフ
6-5		隠れ家をさがすヨセフとマリア
6-6		椰子の木の下の聖家族
6-7		エルサレムを出て行く聖家族
6-8		城壁に沿って歩く聖家族
6-9		マリアの腕に抱かれた 幼な子を崇めるヨセフ
6-10		幼な子を腕に抱いたマリアと 籠を背負ったヨセフ
6-11		羊飼いの群れのそばを 通り過ぎるヨセフとマリア
6-12		天使に案内されるマリアと 幼な子を抱いたヨセフ
6-13		逃避途上の休息
6-14		川岸の聖家族
6-15		川岸を離れる聖家族
6-16		天使に助けられ小舟に乗込む聖家族
6-17		小舟で川を渡る聖家族
6-18		ヨセフと天使に助けられ小舟から 降りるマリア
6-19		二人の天使が歌う傍らで幼な子 を崇めるヨセフ
6-20		ピラミッドのそばを通り過ぎる 聖家族
6-21		坂道を下る聖家族
6-22		頭部が落ちた彫像のそばを通り 過ぎる聖家族
6-23		木陰で一休みする聖家族
6-24		天使に助けられるマリアと籠を 背負ったヨセフ
6-25		驢馬を連れたヨセフに続くマリア
6-26		ヨセフの後を行くマリア
6-27		エジプトに着いた聖家族
7	ジャン=ジョゼフ=グザビエ・ビドー	山に見える牧歌的風景
8	アレクサンドル=イアサント・デュヌイ	パリ、マドレーヌ大通りの窓からの眺め

No.	作者名	作品名
9	アシル=エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼いの
10	ピエール=エティエンヌ=テオドル・ルソー	ジュラ地方、草葺き屋根の家
11	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの溪流
12	ヨーハン・バルトルト・ヨンキント	オンフルール近郊の街道
13	クロード・モネ	ルーアンのセヌ川
14	カミーユ・ピサロ	ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘
15	ポール・シニャック	サン=トロペ、グリモーの古城
16	ケル=グザヴィエ・ルーセル	『風景』
16-1		海岸の人物
16-2		風景の中の赤いドレスの女
16-3		縞の外套の女
16-4		水浴者たち
16-5		ニンフの後ろで遊ぶキューピッド
16-6		田園風景の中の女たち
17	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
18	ジョルジュ・ブラック	Bass
19	ジョアン・ミロ	シウラナの教会
20	ファン・グリス	果物皿と新聞
21	パウル・クレー	ホールC. エントランスR 2
22	ジョゼフ・アルバース	正方形頌

風—絵の中からそよ吹く

7月20日（水）～9月4日（日） 第7展示室

No.	作者名	作品名
1	アンゼルム・キーファー	極光
2	三岸好太郎	海 ◆
3	山本森之助	海岸
4	栗原忠二	雲のある半島（海の平和）
5	平塚運一	伊豆梅林
6	中川八郎	松原
7	淀井敏夫	波・群
8	曾宮一念	芝浦埋立地
9	北川民次	雑草の如くⅢ（裸婦）
10	海老原喜之助	かぜ
11	伊藤勉黄	風媒花
12	香月泰男	飛鳥
13	澤田政廣	蝶と遊ぶ
14	浅井忠	雲
15	青木達弥	薄

No.	作者名	作品名
16	金山平三	千曲川（信濃路の春）
17	吉田博	上高地の春
18	茨木猪之吉	初夏の常念岳
19	李禹煥	風と共に（1989）◆
20	難波田龍起	ミクロの世界

眼で愉しむ一仕組みられたもの

9月6日(火)／10日(土)～10月10日(月・祝)
*9月6日より部分公開 第6・7展示室

No.	作者名	作品名
1	ジョセフ・アルバース	正方形頌
2		形成・連接
3	ヴィクトル・ヴァザレリ	Penta-dell ★
4		Boreal-F ★
5	フランク・ステラ	ブラックシリーズ I
5-1		クリントン・プラザ
5-2		アランデル城
5-3		旗を高く！
5-4		道理と無秩序の結婚
5-5		トムリンソン・コート・パーク
5-6		ゲッティ廟
5-7		労働が自由をもたらす
5-8		クラブ・オニキスーセヴン・ステップス
5-9		ベツレヘムの病院
6	遠藤享	SPACE AND SPACE (BOTTLE)
7		SPACE AND SPACE (GRAPEⅢ)
8	鈴木慶則	非在のタブロー 梱包されたオダリスク
9		非在のタブロー キリコによる ★
10		非在のタブロー マグリットによる ★
11	小池一誠	No.1 石 ★
12	丹羽勝次	箱シリーズ '68 ★
13		箱シリーズ '68 (NO HOOKS) ▲
14	飯田昭二	HALF&HALF ★
15	前田守一	遠近のものさし ★
16		遠近のものさし ★
17	高松次郎	布の弛み
18		These Three Words
19	森村泰昌	批評とその愛人 (1) ～ (7)

No.	作者名	作品名
20		批評とその愛人マケット ★

版画と写真 一複製芸術の可能性一

10月12日(水)～11月13日(日) 第6・7展示室

No.	作者名	作品名
1-1	歌川国芳	東海道五拾三駅・五宿名所 由井～鞠子
1-2		東海道五拾三駅・四宿名所 岡部～金谷
2-1	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版） ／原 朝之富士
2-2		東海道五拾三次（保永堂版） ／御油 旅人留女
3-1		東海道五拾三次（隸書） ／日本橋
3-2		東海道五拾三次（隸書） ／吉原
3-3		東海道五拾三次（隸書） ／府中
3-4		東海道五拾三次（隸書） ／鞠子
4-1	安田雷洲	東海道五十三駅 ／江戸日本橋
4-2		東海道五十三駅 ／するがのくに はら
4-3		東海道五十三駅 ／するがのくに よ志はら ひたりにふしを見る景
4-4		東海道五十三駅 ／するが ふちう
4-5		東海道五十三駅 ／うつや丸子
4-6		東海道五十三駅 ／御油
4-7		東海道五十三駅 ／祇園新島原
5	歌川芳幾	源頼朝上洛大井河行列之図
6	小林清親	御茶の水雪
7		虎乃門夕景
8		浅草寺年乃市
9		大伝馬町大丸
10	平塚運一	ニコライ堂 （東京震災跡風景）
11		築地聖路加病院跡 （東京震災跡風景）
12		洲崎遊廓 （東京震災跡風景）
13-1	北川民次	瀬戸十景（表紙） 工場一角
13-2		瀬戸十景（1） 窯小屋
13-3		瀬戸十景（2） 土堀り場
13-4		瀬戸十景（3） 煙突のある風景
13-5		瀬戸十景（4） 夜の工場
13-6		瀬戸十景（5） 工場のなか

No.	作者名	作品名
13-7		瀬戸十景 (6) ろくろを回す男
13-8		瀬戸十景 (7) 山のなかの窯場
13-9		瀬戸十景 (8) 窯焼き
13-10		瀬戸十景 (9) 窯入れ
13-11		瀬戸十景 (10) 瀬戸市街
14	高松次郎	These Three Words
15	北川民次	北川民次蔵書票
16		久保貞次郎氏蔵書票
17		サトウ氏蔵書票
18		シズマ氏蔵書票
19	恩地孝四郎	死によりてあげらるる生
20	和田英作	バリ万国博覧会表彰状
21	中川雄太郎	巴川の夕景
22		静岡駅前
23		上海事変のニュースを聞く人々
24		メヌマポマード
25		酒場の女
26	黒川翠山	題名不詳
27	田中孝	On The Table
28		Breeze-2
29	棟方志功	飛天の柵
30		宗像女妃神の柵
31	山口源	能役者
32		同棲
33		効能
34		振舞
35	木下佳通代	無題
36	野田哲也	Diary; Jan. 3rd '82, to Izumi
37		Diary; March. 5th '87, at 2-12-4 Kikkodai, Kashiwa- shi
38	斎藤智	Untitled A
39		Untitled B
40		Untitled C

日本画の世界 文雅の心—谷文晁など

11月12日(土)～12月18日(日) 第5展示室

No.	作者名	作品名
1	谷 文晁	高隠自適山水図◆
2		泛舟山水◆

No.	作者名	作品名
3		浅絳山水図◆
4		四季山水◆
5		富嶽図◆
6		富士山図屏風
7		遠山雨意図◆
8	高久霏がい	山水図
9	福田半香	李白觀瀑図
10		溪山真楽図
11		夏景山水図
12	平井顕斎	山水図
13		山水図
14	永村茜山	伊豆七島真景図巻◆
15	中山高陽	白梅に錦鶏図
16	金子金陵	汀翡翠図◆
17	岡本秋暉	群鳥図◆
18		花鳥図
19	椿 椿山	蕃植図
20		花卉図
21	渡辺華山	書簡(福田半香宛)◆

絵肌(マティエール)の魅力

11月15日(火)～12月18日(日) 第6・7展示室

NO.	作者名	作品名
1	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
2	ポール・シニャック	サントロペ、グリモアの古城
3	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
4	ジョアン・ミッCHEル	湖
5	五姓田義松	富士
6	川村清雄	波
7	太田喜二郎	帰り路(樵婦帰路)
8	小出楯重	静物
9	和田英作	富士
10	中澤弘光	風景(秋の湖畔)
11	児島虎次郎	酒津の庭(水蓮)
12	鳥海青児	張家口
13	鳥海青児	壁の修理
14	野口謙蔵	虹の風景
15	栗原忠二	田園の秋
16	青木達弥	薄
17	青木達弥	城跡

NO.	作者名	作品名
18	青木達弥	石の花
19	青木達弥	古い寺院
20	伊藤勉黄	上海の裏町
21	伊藤勉黄	実のある話
22	伊藤勉黄	イシスとホルス
23	岡鹿之助	観測所
24	香月泰男	飛鳩
25	香月泰男	白椿
26	香月泰男	みもごと猫
27	香月泰男	冬島
28	香月泰男	鳩
29	香月泰男	茶の花
30	小糸源太郎	春雪
31	金山平三	千曲川（信濃路の春）
32	鳥戸繁	びわ湖の舟
33	鳥戸繁	静かな漁港
34	草間彌生	無題
35	斎藤義重	作品2
36	白髪一雄	屋島
37	小林和作	秋山
38	田村一男	北越大雪

No.	作者名	作品名
12	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノー ンを望む
13	トマス・ゲインズバラ	水を飲む馬のいる森の風景
14	ジョン・ロバート・カズンズ	ポルティーチからヴェスヴィ オ山を望む
15	ジャン=ジョゼフ=グザビエ・ ビドー	山に見える牧歌的風景
16	アレクサンドル=イアサン ト・デュスイ	パリ、マドレーヌ大通りの窓 からの眺め
17	アシル=エトナ・ミシャロ ン	廃墟となった墓を見つめる羊 飼いの
18	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、 日没
19	サミュエル・パーマー	ケント州、アンダーリヴァー のポップ畑
20	ピエール=エティエンヌ=テ オドル・ルソー	ジュラ地方、草葺き屋根の家
21	ジョゼフ・マロード・ウィ リアム・ターナー	パツランツァ、マジジョーレ 湖
22	ジャン=フランソワ・ミレー	バルビゾン近郊の羊飼いと羊 たち
23	ジャン=バティスト=カミー ユ・コロ	メリ街道、ラ・フェルテ=ス ジュアール付近
24	ヨーハン=バルトールト・ ヨンキント	オンフルール近郊の街道
25	クロード・モネ	ルーアンのセヌ川
26	カミーユ・ピサロ	ポントワーズ、ライ麦畑とマ チュランの丘
27	カミーユ・ピサロ	クリスマスの農家（オスニ）
28	アドルフ・ウィリアム・ブ ーグロー	若い母親と子供 ◆
29	ポール・セザンヌ	ジャ・ド・ブーフアンの大樹
30	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女
31	ジュリアン・デュプレ	農場の風景
32	ポール・シニャック	サン=トロベ、グリモーの古 城
33	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家
34	ジョルジュ・ブラック	Bass
35	ワシリー・カンディンスキー	《冷たいかたちのある即興》 のための習作
36	ジョアン・ミロ	シウラナの教会
37	ファン・グリス	果物皿と新聞
38	パウル・クレ	ホールC、エントランスR 2
39	ハイム・スーチン	カーニユ風景
40	マックス・エルンスト	「博物誌」より
40-1		魅惑的な糸杉
40-2		葉の習性

西洋美術への招待

12月21日（水）～2006年2月12日（日） 第6・7展示室

No.	作者名	作品名
1	ジャック・カロ	大狩猟
2	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風 景
3	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風 景
4	レンブラント・ファン・ レイン	三本の木
5	アールト・ファン・デル・ ネール	森の風景
6	ジョヴァンニ・ベネデット・ カスティリオーネ	ジョヴァンニ・ベネデット・ カスティリオーネの天才
7	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺 め
8	サルヴァトーレ・ローザ	川のある山岳風景
9	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼
10	ヤーコブ・ファン・ロイス ダー	小屋と木立のある田舎道
11	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ポッ ツォーロ

ロダン館 第2展示室

ヨーロッパで活躍した日本の画家たち

8月2日(火)～9月4日(日)

No.	作者名	作品名
1	栗原忠二	セントポール
2	三宅克己	白壁の家(ベルギー、ブリュージュ)
3	長谷川潔	南仏風景
4	藤田嗣治	モンルージュ、パリ
5	清水登之	セーヌ河畔
6	原勝郎	バガテル公園、パリ

19世紀フランスの旅Ⅰ 9月6日(火)～10月10日(月・祝)

No.	作者名	作品名
1	ジャン=バティスト=カミユー・コロ	メリ街道、ラ・フェルテ=ス=ジュアール付近
2	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの溪流
3	ウージェーヌ・イザベイ	《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》よりオーヴェルニュⅠ、Ⅱ
3-1		グラ通り、クレルモン
3-2		ボン=ギボアの城
3-3		ロヤの峡谷
3-4		クレルモン=ロヤ街道の十字架
3-5		パンの村の入口
3-6		モン=ドールの籠のパンの村の十字架
3-7		サン=ネクテルの教会堂
3-8		サン=ネクテルの教会堂後陣

19世紀フランスの旅Ⅱ

10月12日(水)～11月13日(日)

No.	作者名	作品名
1	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川
2	カミユー・ピサロ	ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘
3	ウージェーヌ・イザベイ	《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》よりオーヴェルニュⅠ、Ⅱ
3-1		廢墟の城とサン=ネクテルの村
3-2		エダ湖
3-3		サン=ジャン教会堂、ティエール
3-4		ブゾール城の廢墟
3-5		ポリニャックの城楼

No.	作者名	作品名
3-6		ポリニャックの城楼
3-7		シヨデセーニュの十字架
3-8		ポリミナックのペステイユ城
3-9		ラルデロール城

パリの映笑一ドームエの風刺版画

11月15日(火)～12月18日(日)

No.	作者名	作品名
1	オノレ・ドームエ	『カリカチュラーナ(ロベール・マケール)』より
1-1		博愛家ロベール・マケール
1-2		株主総会
1-3		医師ロベール・マケール
1-4		結婚仲介業者ロベール・マケール
1-5		獅子の取り分
1-6		申し訳ありません、閣下！田舎の方に行く用事が…
1-7		弁護士ロベール・マケール
1-8		民法214条の濫用
1-9		友情の濫用
1-10		バカロレア受験の準備
1-11		公衆ってのは、きみ、愚かなものだな…
1-12		これほど弟子ができるとは、なんともごきげんだな！
1-13		画家ロベール・マケール
1-14		催眠術師ロベール・マケール
1-15		わたしたちはあそこにいる貧乏人たちをひどいめにあわせているのだろうか？

名品コーナー

6月5日(火)～7月3日(日)

左	横山大観	日出処日本〇
中	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む
右	ジョルジュ・ピゴ	富士(沼津江浦)〇

7月5日(火)～31日(日)

左	司馬江漢	七里ヶ浜図〇 ◆
中	ジャン=バティスト=カミユー・コロ	メリ街道、ラ・フェルテ=ス=ジュアール付近
右	小出楯重	静物

8月2日（火）～9月4日（日）

左	吉仲太造	現代美術
中	ハイム・スーチン	カーニユ風景
右	平木政次	富士○

9月6日（火）～10月10日（月・祝）

左	吉仲太造	孤
中	ヤコブ・ファン・ロイスダール	小屋と木立のある田舎道
右	五姓田義松	富士 ○

10月12日（水）～11月3日（日）

左	帆足杏雨	浅絳山水図
中	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
右	和田英作	日本平望嶽台 ○

11月15日（火）～12月18日（日）

左	中林竹洞	神州奇観○
中	ポール・ゴージャン	家畜番の少女
右	吉田博	籠坂

12月21日（水）～1月15日（日）

左	奥村土牛	八瀬の牛
中	ギュスターヴ・クールベ	ビュイ・ノワールの溪流
右	和田英作	富士○

1月17日（火）～2月21日（日）

左	山口素絢	富嶽図○
中	クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海
右	三岸好太郎	海 ◆

3月3日（金）～4月4日（火）

左	岸駒	芙蓉峰図○
中	ポール・シニャック	サン＝トロベ、グリモアの古城
右	東城鉦太郎	山家の春

◆：寄託品 ○：富士山の絵画

我が愛しのコレクション

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質	寸法 (c m)	所蔵先
Part 1 静美コレクション							
1	ジョアン・ミッチェル	1926-1992	湖	1954	キャンヴァス、油彩	203.2×254.5	当館蔵
2	田中敦子	1932-2005	1985 A	1985	綿布、アクリル系樹脂塗料	218.5×333.3	当館蔵
3	モーリス・ルイス	1912-1962	ベス・アイン	1958	キャンヴァス、アクリル	232.0×333.0	当館蔵
4	ジョセフ・コスース	1945-	タイトルド、雨	1967	アクリル、シルク印刷	120×120	当館蔵
5	カール・アンドレ	1935-	鉛と亜鉛のスクエア	1969	鉛、亜鉛	各0.8×20×20	当館蔵
6	アンゼラム・キーファー	1945-	極光	1978-88	写真、灰、焦げ跡のついた鉛、上塗りした鉄のフレーム	241.4×101.4	当館蔵
7	草間彌生	1929-	無題	1959	キャンヴァス、油彩	232.5×359.0	当館蔵
8			最後の晩餐	1981	ミクスト・メディア (テーブル1、イス6、綿布、綿、既製品ほか)	テーブル： 107×215×108 椅子： 各80×45×54	当館蔵
9	ドナルド・ジャッド	1928-1994	無題	1990	黒のアノダイズド、アルミニウム、ブロンズ色のプレキシグラス (10ユニット)	各15.2×68.5 ×61.0	当館蔵
Part 2 A氏コレクション							
10	アンディ・ウオーホル	1928-1987	ドル記号	1982	キャンヴァス、合成ポリマー絵具、シルクスクリーン	50.8×40.6	個人蔵
11	河原 温	1933-	D E C . 14, 1966	1966	キャンヴァス、リキテックス	25.3×33	個人蔵
12			J A N . 24, 1982	1982	キャンヴァス、リキテックス、新聞	20.3×25.4	当館蔵
13			J A N . 21, 1988	1988	キャンヴァス、リキテックス、新聞	20.3×25.4	当館蔵
14			A P R . 2, 1988	1988	キャンヴァス、リキテックス、新聞	20.3×25.4	当館蔵
15			J U L . 27, 1988	1988	キャンヴァス、リキテックス、新聞	25.3×33	個人蔵
16			One Million Years 386/500	1999	本2冊、 合計4000ページ		個人蔵
17			I MET (1968-1979)	2004	本12冊、 合計4790ページ		個人蔵
18			One Million Years (Past & Future) 215/250	2004	オーディオCD24枚 (各60分)、木箱	13.5×26.2×13.5 (木箱サイズ)	個人蔵
19	イ・ブル	1964-	モンスタードローイング	2001	紙、アイシャドウ、木炭	37.5×28	個人蔵
20			モンスタードローイング	2001	紙、アイシャドウ、木炭	37.5×28	個人蔵
21			モンスタードローイング	2001	紙、アイシャドウ、木炭	37.5×28	個人蔵
22			モンスタードローイング	2001	紙、アイシャドウ、木炭	37.5×28	個人蔵
23			Mekamelencia (Diluvium No11)	2004	パネルにパール埋め込み	80×50	個人蔵
24			Mekamelencia (Diluvium No14)	2004	パネルにパール埋め込み	80×50	個人蔵
25	小谷元彦	1972-	胸いっぱいのおを (GIRL/SINGLE)	2005	デジタルプリント、木製フレーム	179.6×129.6	個人蔵
26	宮島達男	1957-	Opposite Harmony	1990	LED、IC、電線、アルミニウムパネル (2ユニット)	各11.6×26×3.5	個人蔵
27			Count Down Drawing M-D-79(red)	1995	紙、インク	50×70	個人蔵
28			Count Down Drawing M-D-79(black)	1995	紙、インク	50×70	個人蔵
29			Monism/Dualism No12	1998	LED、IC、電線、スチールパネル	163.5×9×5.5	個人蔵

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質	寸法 (c m)	所蔵先
30			Color Structure for Floating Time VI-03-02	2000	鉛筆、カラーペン、黒い紙にカラージュ	55×75.2	個人蔵
31			Color Structure for Floating Time VI-03-03	2000	鉛筆、カラーペン、黒い紙にカラージュ	55×75.2	個人蔵
32			Color Structure for Floating Time VI-03-07	2000	鉛筆、カラーペン、黒い紙にカラージュ	55×75.2	個人蔵
33			Changing Time with Changing Self No.6(blue)	2001	LED、IC、電線、鏡、ステンレス銅パネル	94×94×5.6	個人蔵

Part 3 B氏コレクション

34	オノデラユキ	1962-	古着のポートレート No45	1997	ゼラチン・シルバークラフト	115×115	個人蔵
35			C.V.N.1 No,D-2	1998	ゼラチン・シルバークラフト	109×77	個人蔵
36			C.V.N.1 No,D-3	1998	ゼラチン・シルバークラフト	109×77	個人蔵
37			真珠のつくり方 No7	2000	ゼラチン・シルバークラフト	190×130	当館寄託
38			Transvest-Alice	2002	ゼラチン・シルバークラフト	148×112	個人蔵
39			ミツバチー鏡 No3	2002	ゼラチン・シルバークラフト	110×146	個人蔵
40	屋代敏博	1970-	稲荷湯 I	1993	ゼラチン・シルバークラフト	51×61	個人蔵
41			稲荷湯 II	1993	ゼラチン・シルバークラフト	51×61	個人蔵
42			柳湯 I	1995	ゼラチン・シルバークラフト	51×61	個人蔵
43			柳湯 II	1995	ゼラチン・シルバークラフト	51×61	個人蔵
44	服部冬樹	1955-	壁の詩	1975	ゼラチン・シルバークラフト	23.8×18.7	個人蔵
45			花 エンレイ草	1979	シルバー・ダイブリーチ・プリント	28×21	個人蔵
46			白いカップ	1980	ゼラチン・シルバークラフト	26×21	個人蔵
47			静物 -冬の-	1981	ゼラチン・シルバークラフト	18×13	個人蔵
48			無題 (羽虫)	1982	ゼラチン・シルバークラフト	22.5×22.3	個人蔵
49			カラーレーション習作	1983	シルバー・ダイブリーチ・プリント	25×29	個人蔵
50			冬1	1984	ゼラチン・シルバークラフト	18×13	個人蔵
51			木の実	1992	ゼラチン・シルバークラフト	18×30	個人蔵
52			早春の湖畔	1994	ゼラチン・シルバークラフト	16.4×16.4	個人蔵
53			木の実	1995	シルバー・ダイブリーチ・プリント	17×23.3	個人蔵
54	北井一夫	1944-	「新世界物語」より “立ち飲み屋”	1979	ゼラチン・シルバークラフト	37×25	個人蔵
55			「新世界物語」より “うどん屋”	1980	ゼラチン・シルバークラフト	37×25	個人蔵
56			「新世界物語」より “てんのじ村”	1980	ゼラチン・シルバークラフト	37×25	個人蔵
57			「新世界物語」より “野球少年”	1980	ゼラチン・シルバークラフト	37×25	個人蔵
58			「新世界物語」より “不動産屋”	1980	ゼラチン・シルバークラフト	37×25	個人蔵
59			「新世界物語」より “地藏盆”	1980	ゼラチン・シルバークラフト	37×25	個人蔵
60			「新世界物語」より “通天閣”	1981	ゼラチン・シルバークラフト	37×25	個人蔵

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質	寸法 (c m)	所蔵先
61			「新世界物語」より “舞台裏”	1981	ゼラチン・シルバープリント	37×25	個人蔵
62			「新世界物語」より “パチンコ屋開店前”	1981	ゼラチン・シルバープリント	37×25	個人蔵
63			「新世界物語」より “盲目の老婦人”	1981	ゼラチン・シルバープリント	37×25	個人蔵
64	森山大道	1938-	「何かへの旅」より 横浜港	1970	ゼラチン・シルバープリント	16.5×26	個人蔵
65			「何かへの旅」より 岡山県下津井	1970	ゼラチン・シルバープリント	16.5×26	個人蔵
66			「何かへの旅」より 能登半島	1971	ゼラチン・シルバープリント	18×28	個人蔵
67			「何かへの旅」より 三沢市内	1971	ゼラチン・シルバープリント	18×27	個人蔵
68			「何かへの旅」より 能登半島	1971	ゼラチン・シルバープリント	30×40	個人蔵
69			「何かへの旅」より 犬の町三沢 犬	1971	ゼラチン・シルバープリント	29×36	個人蔵
70			高遠の桜	1972	ゼラチン・シルバープリント	30×40	個人蔵
71			白骨温泉 (弁当)	1973	ゼラチン・シルバープリント	19.5×28.5	個人蔵
72			白骨温泉	1973	ゼラチン・シルバープリント	17×27	個人蔵
73			「日本三景」 その二より 宮島 鏡台	1973	ゼラチン・シルバープリント	27×18	個人蔵
74			「日本三景」 その二より 宮島	1973	ゼラチン・シルバープリント	17×26	個人蔵
75			「日本三景」 その三より 松島	1974	ゼラチン・シルバープリント	18×27	個人蔵
76			「五所川原」より 野良猫	1976	ゼラチン・シルバープリント	27×41	個人蔵
77			「東京」より 女性	1978	ゼラチン・シルバープリント	31×39	個人蔵
78			「東京」より 二人のギャル	1978	ゼラチン・シルバープリント	31×39	個人蔵
79			「東京」より 母と子	1978	ゼラチン・シルバープリント	39×31	個人蔵
80			「東京」より 新宿	1978	ゼラチン・シルバープリント	28.5×31.5	個人蔵
81			「東京」より 電車内の女性	1978	ゼラチン・シルバープリント	31×38.3	個人蔵
82	深瀬昌久	1934-	「鴉」より 金沢市	1978	ゼラチン・シルバープリント	91.7×136	個人蔵
83	荒木経惟	1940-	「少女世界」より	1983	ゼラチン・シルバープリント	100×126	個人蔵
84			「少女世界」より	1984	ゼラチン・シルバープリント	34.5×24.5	個人蔵
85	山口長男	1903-1983	作品	1945頃	油彩、布	116×90	個人蔵
86			円と折れ曲がった線	1957	油彩、板	33×24	個人蔵
87			積	1960	油彩、板	32×41	個人蔵
88			脈	1969	油彩、板	182.2×182.2	当館蔵
89			裂	1979	油彩、板	60×92	個人蔵
90			縫	1982	油彩、板	180.0×91.5	個人蔵
91			絶筆	1983	油彩、板	60×92	個人蔵
92	李禹煥	1936-	点より	1975	キャンヴァス、岩絵具、にかわ	116×91	個人蔵
93			線より	1979	キャンヴァス、岩絵具、にかわ	182×227	当館蔵

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質	寸法 (c m)	所蔵先
94			線より	1980	キャンヴァス、岩絵具、にかわ	91×117	個人蔵
95			線より	1981	キャンヴァス、岩絵具、にかわ	72×90	個人蔵
96			線より	1982	キャンヴァス、岩絵具、にかわ	90×72	個人蔵
97			風と共に	1987	キャンヴァス、油彩、岩絵具	227×182	当館寄託
98			風と共に	1987	キャンヴァス、油彩、岩絵具	91×117	個人蔵
99			風と共に	1988	キャンヴァス、油彩、岩絵具	291×218.2	当館寄託
100			風と共に	1988	キャンヴァス、油彩、岩絵具	227×182	当館寄託
101			風と共に	1989	キャンヴァス、油彩、岩絵具	162×130	個人蔵
102			風と共に	1990	キャンヴァス、油彩、岩絵具	91×117	個人蔵
103			風と共に	1992	キャンヴァス、油彩、岩絵具	90×72	個人蔵
104			照応	1993	キャンヴァス、油彩、岩絵具	132×97	個人蔵
105			照応	1995	キャンヴァス、油彩、岩絵具	162×130	個人蔵
106			照応	2002	キャンヴァス、油彩、岩絵具	132×97	個人蔵
107			照応	2002	キャンヴァス、油彩、岩絵具	97×133	個人蔵
108	鈴木 治	1926-2001	馬	1977		27×27	個人蔵
109			呉須磁形	1981		39×28.5×14.3	個人蔵
110			泥象 風立像	1982		70×38	個人蔵
111			風神	1989		43×22×48	個人蔵
112			浮木	1998		73×11.6×13	個人蔵
113			雛 一對	1998		23×14.5×20 26.5×12×19	個人蔵
114	辻 勘之	1933-	わらをもつかむ	1990		28×22×11.5	個人蔵
115	八木一夫	1918-1979	ライオン	1964		16×13.5×8.7	個人蔵
116			獅子	1964		16×13.5×8.7	個人蔵

移動美術館

No.	作者名	作品名	制作年	材質、形状	寸法 (c m)	会場
1	オーギュスト・ロダン	考える人	1880	ブロンズ	H37.2×28.6×23.6	
2	エルンスト・ルトヴィヒ・キルヒナー	三本の道	1917	紙、木版	50.0×33.7	
3	川村清雄	風景	1920年代頃	キャンヴァス、油彩	53.0×80.3	
4	柏木俊一	道		キャンヴァス、油彩	37.5×45.5	
5	柏木俊一	海と畑と森	1934	キャンヴァス、油彩	73.0×100.0	●
6	ハイム・スーチン	カーミユ風景	1923	キャンヴァス、油彩	60.0×72.4	
7	平塚運一	伊豆梅林	1933	キャンヴァス、油彩	50.0×60.5	
8	中村岳陵	爽秋	1935	絹本着色	64.0×101.0	●
9	石川欽一郎	利根の水郷	1925-45頃	紙、水彩	24.5×33.5	
10	石川欽一郎	駿河湾	1939頃	絹、水彩	53.0×64.5	
11	石川欽一郎	海辺 (早川海岸)	1935頃	キャンヴァス、油彩	53.2×72.8	
12	石川欽一郎	台風風景農村	不詳	紙、水彩	28.8×39.0	
13	高島達四郎	熱海、伊豆山		紙、鉛筆、水彩	33.4×33.3	
14	高島達四郎	いわし網漁		紙、インク、水彩	18.4×27.0	
15	高島達四郎	イカ		紙、鉛筆	23.0×33.8	
16	高島達四郎	うさぎ小屋	1935	紙、鉛筆、水彩	24.7×28.0	
17	高島達四郎	漁師の家	1958	キャンヴァス、油彩	72.0×90.7	
18	高島達四郎	伊豆下田港	1976	キャンヴァス、油彩	53.0×65.3	
19	梅原龍三郎	暁天 (富士山・大仁)	1944-56頃	紙本着色	46.3×33.0	
20	梅原龍三郎	富士山内浦	1949	紙本墨画	36.5×20.3	
21	パブロ・ピカソ	ダヴィデとバテシバ	1949	紙、リトグラフ	61.1×48.2 [76.2×56.7]	
22	北川民次	雑草の如くⅢ (裸婦)	1949	キャンヴァス、油彩	130.3×162.0	○
23	横山大観	富士山	1950-1955頃	絹本着色	58.7×73.7	
24	東山魁夷	秋富士	1955	絹本着色	66.6×88.1	●
25	曾宮一念	麦秋	1941	キャンヴァス、油彩	72.8×91.0	
26	曾宮一念	毛無連峯	1970	キャンヴァス、油彩	53.0×72.7	
27	伊藤勉黄	窓	1953	紙、木版	70.0×52.0	○
28	伊藤勉黄	風媒花	1988	紙、木版	48.0×75.0	○
29	吉原治良	work	1959	キャンヴァス、油彩	162.0×130.0	
30	ヘンリー・ムア	横たわる人体	1977	ブロンズ	14.0×58.5×48.0	
31	金沢健一	音のかけら 2	1987	鉄、ゴム	H3.2×150.0×150.0	
32	川田祐子	BIO-MEMORY	2002	アクリルガッシュ、写真、チップボードパネル	20.0×20.0×4.2 ×27点	

○大須賀展のみ出品

●伊東展のみ主品

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例 (昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号
平成3年3月19日条例第2号
平成4年3月25日条例第14号
平成8年3月28日条例第11号
平成11年3月19日条例第16号
平成13年7月24日条例第45号
平成15年3月12日条例第2号
平成17年7月15日条例第49号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例 (趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。
(設置)

第2条 美術の振興を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。
(平3条例2・一部改正)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。
(平3条例2・一部改正)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。
(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認をうけなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。
(平3条例2・一部改正)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。
- (3) その他その使用を不適当と認めるとき。

(平3条例2・一部改正)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

- (1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。
- (2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあっても、県はその賠償の責めを負わない。
(平3条例2・一部改正)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。
(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員)

第14条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。

2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
(平17条例49・一部改正)

附 則

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則 (平成元年3月29日条例第43号)

- 1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成3年3月19日条例第2号)

- 1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則 (平成4年3月25日条例第14号)

- 1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成8年3月28日条例第11号)

- 1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成11年3月19日条例第16号)

- 1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成13年7月24日条例第45号)

- 1 この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則 (平成15年3月12日条例第2号)

- 1 この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年7月15日条例第49号)

- 1 この条例は、平成17年7月15日から施行する。

別表第1 (第3条関係)

(1) 常設展示

利用区分	観 覧 料
個 人	300円
団 体	1人につき 200円

- 備考 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校及び高等学校の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
- 2 団体とは、20人以上をいう。
- 3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事はその都度定める額

別表第2 (第5条関係)

利用区分	特 別 観 覧 料
模 写	1点1日につき 2,000円
模 造	1点1日につき 2,000円
撮 影	1点1回につき 4,000円
熟 覧	1点1日につき 1,000円
原 板 使 用	1点1回につき 3,000円

別表第3 (第9条関係)

(1) 県民ギャラリー

利用区分	使 用 料	
	10時から17時30分まで	
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,550円	13,650円	21,200円

一部改正〔平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号〕

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(平成3年3月26日静岡県規則第24号)

改正 平成5年3月25日規則第13号

平成6年3月10日規則第5号

平成9年3月28日規則第51号

平成12年3月31日規則第17号

平成13年7月24日規則第59号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条

例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間及び休館日)

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日（以下「休日」という。）に休館することができる。

(1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただし、入館時間は、午後5時までとする。

(2) 休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日以降の最初の休日でない日。）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕

(観覧手続)

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

(特別観覧手続)

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(県民ギャラリー等の使用手続)

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(使用の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者
- (2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者
- (3) その他館長の指示等に違反した者

(譲渡等の禁止)

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復ししなければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。

(損害賠償)

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 年齢70歳以上の者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 教育課程に基づく教育活動として常設展示を観覧する児童又は生徒を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(5) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第3号までに規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号〕

(観覧料等の還付)

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

(2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。

2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料（使用料）還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

（委任）

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則（平成5年3月25日規則第13号）

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成6年3月10日規則第5号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月28日規則第51号）

この規則は、平成9年4月1日より施行する。

附 則（平成12年3月31日規則第17号）

- 1 この規則は、平成12年4月1日より施行する。
 - 2 この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式（以下「旧様式」という。）により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。
 - 3 この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。
- 附 則（平成13年7月24日規則第59号）
この規則は、平成13年10月1日から施行する。

様式第1号（第4条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）
特別観覧承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所

氏名

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名		点数	
特別観覧の目的					
区 分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用
日 時	年 月 日	年 月 日	時 分	時 分	時 分
内 訳	模 写	点 日	円	合 計	
	模 造	点 日	円		
	撮 影	点 日	円		
	熟 覧	点 日	円		
	原板使用	点 日	円		
備 考					

様式第2号（第5条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）
県民ギャラリー等使用承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 [法人にあっては、その主たる事務所の所在地]

氏名 [法人にあっては、その名称及び代表者の氏名] ㊦

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演会の名称		
展覧会、講演等の内容		
使 用 区 分	県民ギャラリー（A・B）講堂	
使 用 期 間	年 月 日（ ） 時 分から 年 月 日（ ） 時 分まで 日間	
入場料等の徴収の有無	有・無	円
主 催 者 名		
連絡責任者及び電話		
後 援 者 名		

（注）展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第3号（第10条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

観覧料等減免申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕[㊟]

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料	特別観覧料	使用料
申請の理由			
日 時	年 月 日 () 時 分から	年 月 日 () 時 分まで	
観覧人員	人		
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員	人		
責任者氏名			
責任者電話番号			
観覧料等	円		
減免申請額	円		

様式第4号（第11条関係）

（用紙日本工業規格A4縦型）

特別観覧料
使用料 還付申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕[㊟]

次のとおり特別観覧料使用料の還付を受けたいので、申請します。

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別の理由があると認めるとき。」

は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は、次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別の理由があるものと認めるとき。	館長が別に定める額

附 則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申し込みとする。

2 2週間以上の使用で優先使用を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申 込 期 間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

(展示品等の管理)

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

(現状回復義務)

第9条 搬出時には搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めるときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

- (1) 美術品の選定に関すること。
- (2) その他美術に関する専門的事項に関すること。

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。

3 委員会に、会長及び副会長を置く。

4 会長には生活・文化部長、副会長には文化振興総室長をもってこれに充てる。

5 会長は、会務を総理する。

6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が招集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門評価員を置く。

2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。

3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。

4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告す

るものとする。

5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。

6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

この要綱は平成3年9月1日から施行する。

附則

この要綱は平成7年4月1日から施行する。

附則

この要綱は平成10年4月1日から施行する。

附則

この改正は平成11年4月1日から施行する。

附則

この改正は平成12年4月1日から施行する。

附則

この改正は平成13年4月1日から施行する。

附則

この改正は平成14年4月1日から施行する。

別表

生活・文化部長 文化振興総室長 生活文化管理室長 文化政策室長 美術館副館長

■静岡県立美術館協議会設置要綱

静岡県立美術館協議会設置要綱をここに制定する。

静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議会の委員)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

2 委員の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附則

1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。

2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例(昭和60年12月23日条例第38号)第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。

3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

(1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。

(2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

(1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。

(2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。

(3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。

(4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

(1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。

(2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

組織・名簿

■事務分掌

総務課

- (1) 職員の人事及び服務に関すること
- (2) 職員の福利厚生及び保健に関すること
- (3) 監査に関すること
- (4) 文書の収受発送に関すること
- (5) 公印の管守及び機密に関すること
- (6) 予算・決算その他会計事務に関すること
- (7) 美術品及び物品の購入に関すること
- (8) 財産及び物品の管理に関すること
- (9) 美術館協議会に関すること
- (10) 他課の所管に属さないこと

学芸課

- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関すること
- (2) 展覧会の企画及び開催に関すること
- (3) 美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関すること
- (4) 美術に関する専門的、技術的な調査研究に関すること
- (5) 美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関すること
- (6) 美術に関する講演会及び講習会等の開催に関すること
- (7) 前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関すること

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	8人	11人	20人
非常勤	1人			2人	3人
臨時			1人		1人

■美術館協議会

堀 則 雄	静岡市中島小学校長
佐藤 達 雄	静岡県立清水西高等学校長
鎌田 まり子	NPO静岡県青年団連絡協議会長
長野 蝶 子	静岡県地域女性団体連絡協議会副会長
江崎 善三郎	静岡県文化協会長
山本 肇	グランシップ館長
立田 洋 司	静岡県立大学大学院教授
高木 敦 子	(有)アムズ環境デザイン研究所代表取締役
岡野 晃 子	(財)ペルナール・ビュフェ美術館副館長
松井 純	静岡新聞社・SBS静岡放送社長
小森 隆 夫	NHK静岡放送局長
岡本 一 八	(株)丸八真綿取締役
田嶋 清 子	(株)レ・サンク代表取締役

■専門委員

木村 重 圭	甲南女子大学教授
坂本 満	(前)うらわ美術館長
潮江 宏 三	京都市立芸術大学教授
建 畠 哲	国立国際美術館長
辻 惟 雄	MIHO MUSEUM 館長
山 梨 絵美子	東京文化財研究所情報調整室長

■資料評価委員

大村 義 政	静岡県生活・文化部長
中 沖 英 敏	静岡県文化振興総室長
中 村 久 男	静岡県生活文化管理室長
伊 熊 元 則	静岡県文化政策室長
渡 井 寿 久	静岡県立美術館副館長

■職 員

館 長	下 山 肇
副 館 長	渡 井 寿 久
総務課長	鷺 山 伊佐夫
総務係長	近 藤 久仁彦
主 任	見 城 淳 也
副 主 任	篠 原 昭 一
主 事	袴 田 尚 子
管理係長	伊 藤 浩 和
主 任	新 井 達 也
主 事	山 本 起 義
学芸課長	小 針 由紀隆
主任学芸員	飯 田 真
主任学芸員	山 下 善 也
主任学芸員	南 美 幸
主任学芸員	堀 切 正 人
学 芸 員	新 田 建 史
副 主 任	福 元 清 志
学 芸 員	川 谷 承 子
学 芸 員	村 上 敬
学 芸 員	泰 井 良
学 芸 員	森 充 代

■非常勤嘱託員及び臨時事務員

非常勤嘱託員	増 田 洋 子
	藤 田 洋 子
臨時事務員	藤 浪 ゆ か
	白 木 悦 子

歳入・歳出決算

■歳入決算

単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	18,764
共催展収入	17,604
県民ギャラリー等使用料	5,656
財産売払・貸付・運用収入	4,128
助成金等	8,200
その他	2,281
計	56,633

■歳出決算

単位：千円

項 目	金 額
人件費	176,623
管理費	335,820
運営費	(60,473)
施設管理費	(275,347)
事業費	96,990
企画展事業費	(70,687)
常設展事業費	(8,128)
資料・普及事業費	(18,175)
館蔵品取得費	40,834
施設整備費	14,359
基金積立	499
計	665,125

建築・設備概要

■建築概要

区分	本館	ロダシオン館
所在地	静岡市谷田53番2号	同左
敷地	県文化センター内(約120,000㎡)	同左
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)2階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット 長尺塩化ビニールシート貼 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、 タイル打込PC板、吹付タイル 屋根：カラスステンレス葺 トップライト(アルミ、複層ガラス) 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■設備概要

区分	本館	ロダシオン館
電気設備	受変電設備 受電電圧6,600V 60Hz 変圧器1φ300KVA、3φ400KVAモールド型 発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800rpm 出力300KVA 3φ3W6,600V 蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、充電サイリスタ全自動整流器 弱电設備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入館者表示、映像資料(ビデオ)、電話、放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤(自火報、防排煙)、防犯非常錠制御盤、防災アンプ(180W)、ITV監視装置、地図式表示板	受変電設備 受電電圧6,600V 60Hz 1φ280KVA、3φ350KVA 最大電力800KW 発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800rpm 出力200KVA 3φ3W220V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置 弱电設備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、電話、放送、トイレ呼出表示、調光、テレビ共聴 防災、防犯設備 同左
空調設備	熱源機器 直焚吸収冷温水発生機(150USRT・40USRT)、温水焚吸収冷温水機(30USRT)、空気熱源回収型スクリュウ式ヒートポンプ冷凍機(150USRT)、プレート式熱交換器(396,300Kcal/h) 蓄熱槽 冷温水槽550㎡・55㎡、ソーラー用20㎡ソーラーパネル 平板型672枚 空調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民ギャラリー1系統、その他4系統及びパッケージ型1台、ファンコイルユニット46台、他空冷ヒートポンプパッケージエアコン、ルームエアコン	熱源機器 直焚吸収冷温水発生機(80USRT)2基、蒸気ボイラー(250kg/h)2基、空冷チラーユニット(4.39USRT)プレート式熱交換器(86,000Kcal/h) 冷温水クッションタンク 5㎡ 冷水クッションタンク 1㎡ 空調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱交換器(3台)

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
衛生設備	排煙機	ロビー系統他 3系統3台
	給水設備	受水槽30㎡（二槽式）、高架水槽12㎡（二槽式）
	排水設備	公共下水道に放流
	消火設備	展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋内消火栓
昇降機設備	身障者用	油圧式11人乗750kg
	荷物用	油圧式3,000kg
衛生設備	排煙機	メイン展示室他2系統4台
	給水設備	空調用自動給水装置受水槽5㎡
	排水設備	公共下水道に放流
	消火設備	展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋外消火栓
昇降機設備	身障者用	油圧式23人乗1,500kg

■建設工事費

	本 館	ロ ダ ン 館
建 築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外 構	397,162	268,509
プロムナード	173,300	
合 計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

■本館

実技室（114㎡）

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室（約20席）

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただくよう設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

ビデオコーナー（15席）

2階に設けられており、開催している展覧会への導入部としての役割をビデオに行わせるというものである。企画展については展覧会ごとにビデオを作成し放映している。また会場構成が常設展を主体とする場合には、当館製作の郷土作家シリーズ（秋野不矩・北川民次・澤田政廣・芹沢銈介・曾宮一念・中村岳陵）や購入した美術シリーズの放映も行いたいと考えている。なお、ビデオの操作は一階にある学芸員室で行い、現在は自動でくり返し放映をしている。

レストラン（80席 198㎡）

レストラン「エスタ」ESTAは、日本平ホテル直営のレストランで、ダッチコーヒー用のジャンボサイホンが設置してある。営業時間は10:00～18:00（金、土、日は20:00まで）。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、1階のエントランスホール内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室（7室 1,777㎡）

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部に三本、下部に一本の無紫外線蛍光灯があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるようになっている。

県民ギャラリー（2室 490㎡）

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂（262席 305㎡）

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室（約30席 71㎡）

美術に関する講座を行う。常設展では、展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は、担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室（12.5㎡）

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 毎週土、日曜、祝日

10時30分～16時30分まで

2時間を限度

授乳室 開館日全て

10時～17時30分まで

（夜間開館日は20時まで）

■ロダン館

ロダンフロア（1,461㎡）

高さ20mの天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアは、あらゆる角度から彫刻の鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

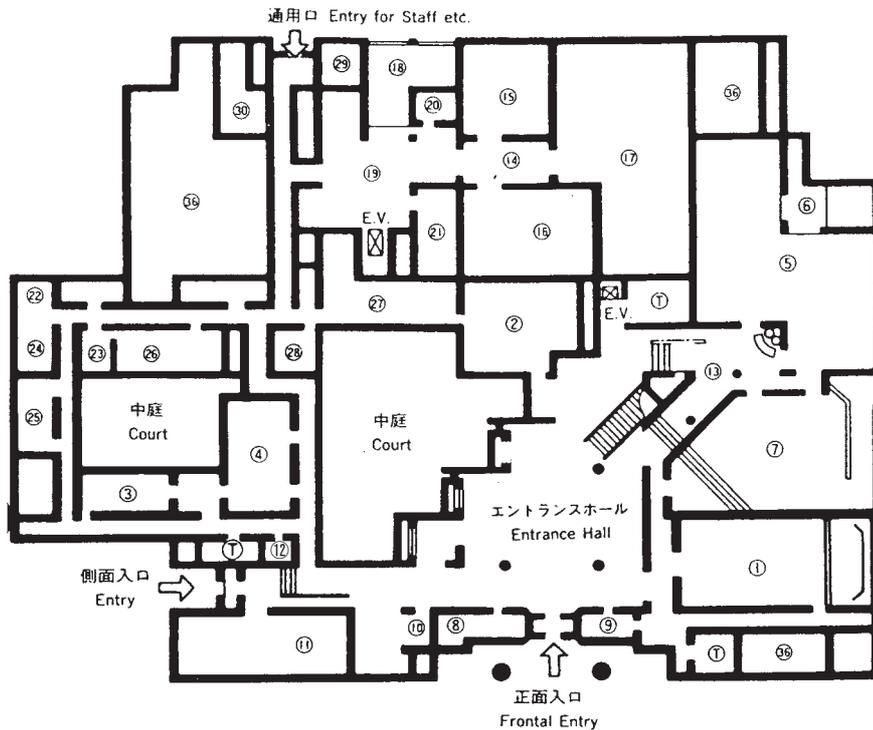
展示室1（98㎡）、展示室2（149㎡）

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールの内側に設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室1には、地獄門の製造過程の写真パネルやブロンズの製造過程を示す模型及びロダン写真資料（CD-ROM）検索システムが設置されている。また、展示室2にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

ブリッジ・ギャラリー（276㎡）

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

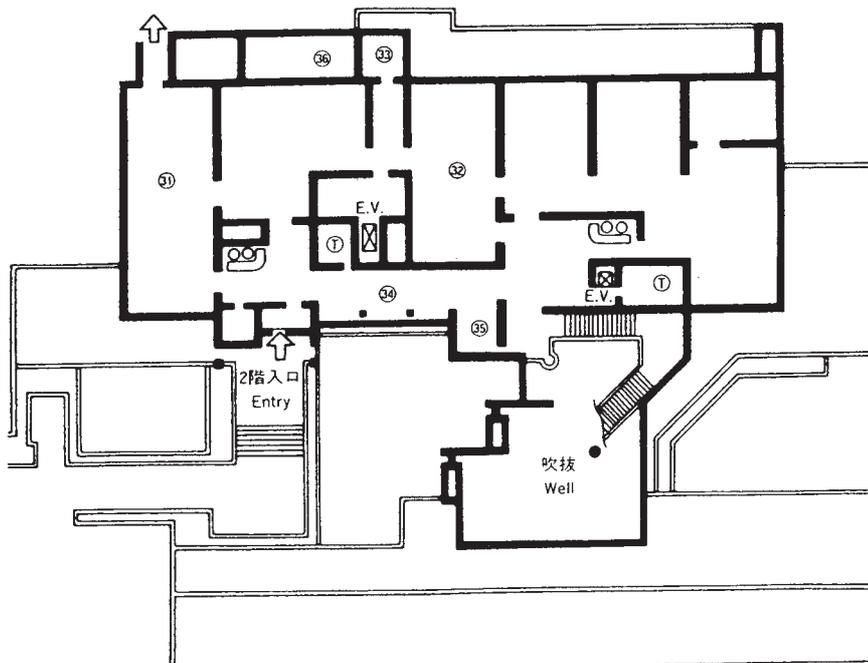
1階 First Floor



- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ ミュージアムショップ Museum Shop

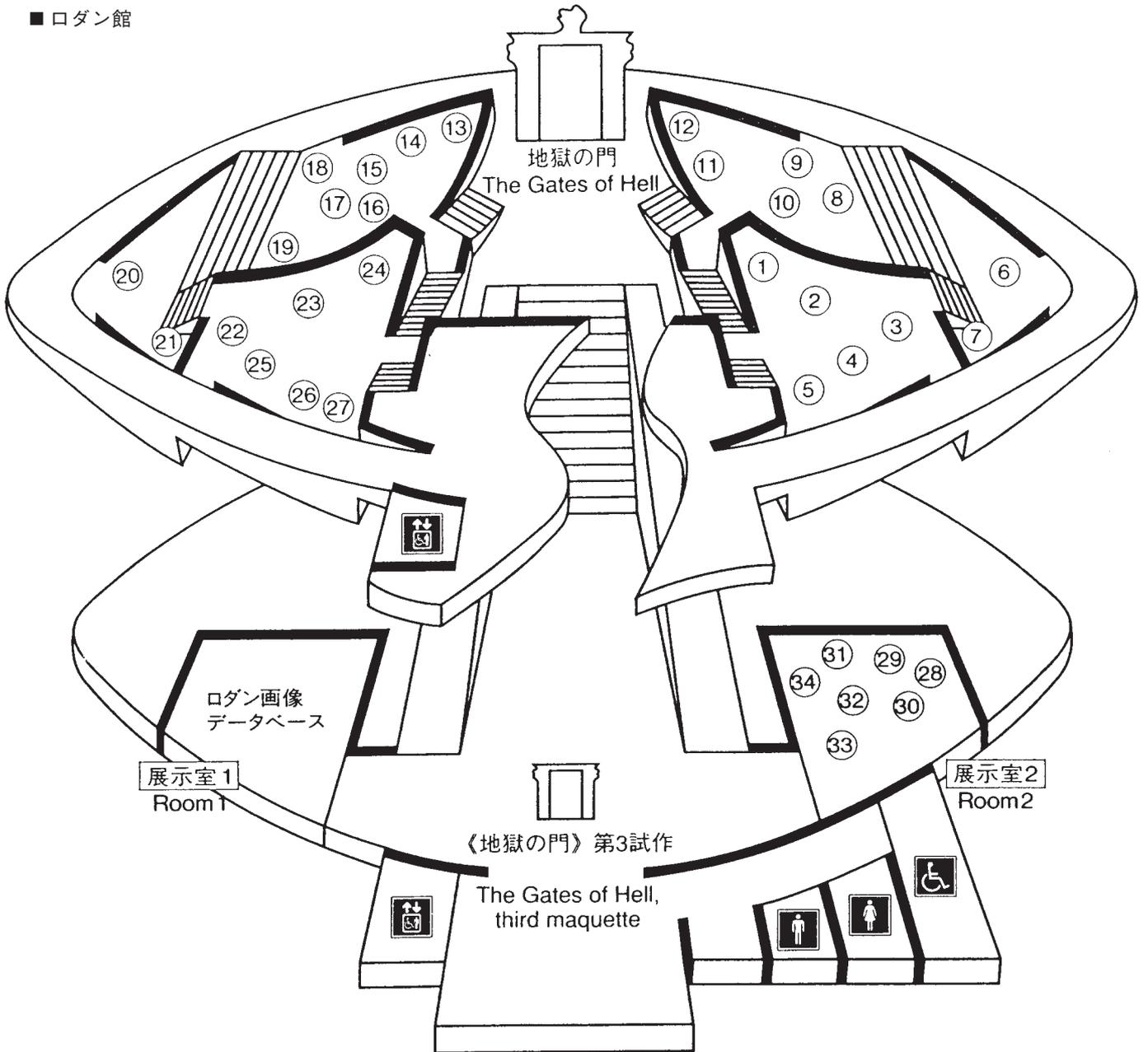
⑩ (次頁へ)

2階 Second Floor



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 託児・授乳室 Nursery
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫1 Storage(1)
- ⑯ 収蔵庫2 Storage(2)
- ⑰ 収蔵庫3 Storage(3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ロビー Lobby
- ㉟ ビデオコーナー Video Corner
- ㊱ 機械室 Machinery Room
- ㊲ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊳ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator

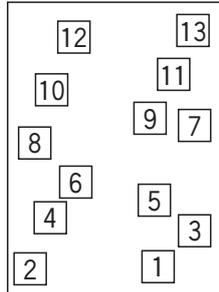
■ ロダン館



ロダン, A

- ① 《カレーの市民》ジャン・デール
- ② 《カレーの市民》ジャン・ド・フィエンヌ
- ③ 《カレーの市民》ピエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレーの市民》ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレーの市民》アンドリュウ・ダンドル
- ⑥ 《カレーの市民》ユスターシュ・ド・サン=ピエール
- ⑦ 《カレーの市民》第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミュージズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ パオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

ブリッジギャラリー



- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアン=ルパージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレールの頭部
- ㉗ 花子のマスク

展示室 2

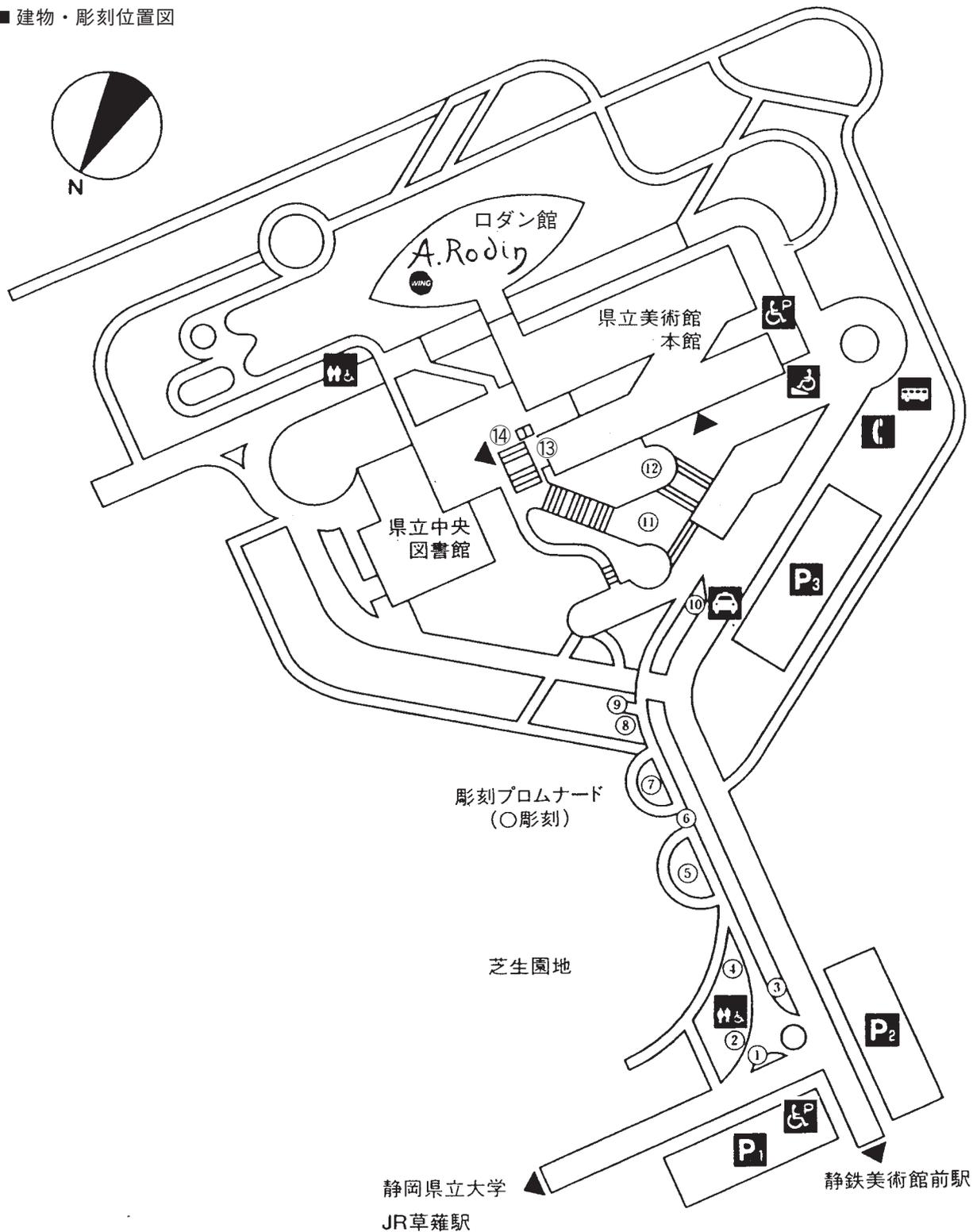
- ㉘ カルポー, J.B./ナポリの漁師の少年

- ㉙ カリエ=ベルーズ, A.E./
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A./バラの髪飾りの少女
- ㉛ カルポー, J.B./悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J./乳を与えるパリの女
- ㉝ フレミエ, E./蛇使い
- ㉞ バリー, A.L./ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P./オヴィリ
- ② バルラッハ, E./読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H./横たわる人体
- ④ レームブルック, W./女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A./横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A./《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C./ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシツ, J./母と子
- ⑨ ロッソ, M./病める男
- ⑩ プールデル, E.A./アポロンの首
- ⑪ プールデル, E.A./ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A./《イル・ド・フランス》
のトルソ
- ⑬ クローデル, C./波

■ 建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークII》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式V-相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線-菱形II》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

■開館時間 午前10時～午後5時30分
(入館は午後5時まで)

[夜間開館] 5月から9月までの毎週土曜日、午後8時まで開館(入館は午後7時30分まで)

■休館日 毎週月曜日(但し、祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館)／年末・年始／その他展示替等のための休館日

■収蔵品展観覧料
観覧料／一般300円(団体200円)
／小・中・高生は無料

■企画展観覧料 *収蔵品展も合わせてご観覧いただけます。

展覧会名	一般・大学	小・中・高生
美術の20世紀	800円 <600円>	400円 <300円>
物語のある絵画	800円 <600円>	400円 <300円>
アルタイの至宝展	1,100円 <900円>	500円 <400円>
文人の夢・田能村竹田の世界	900円 <700円>	400円 <300円>
誘惑の光景	600円 <400円>	300円 <200円>
花鳥風月	500円 <400円>	200円 <100円>
静岡ゆかりの画家たち	500円 (400円)	200円 <100円>

*〈 〉内は団体(20名以上)及び前売料金
()内は団体(20名以上)料金

*70歳以上の方、または身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。

■施設使用料

(1) 県民ギャラリー

利用区分	使用料	
	10時～17時30分	
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使用料		
午前	午後	全日
10時～12時30分	13時～17時30分	10時～17時30分
7,550円	13,650円	21,200円

交通案内 JR「草薙駅」からバス「県立美術館ゆき」で約6分

静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分

JR「静岡駅」南口からタクシー約15分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

電話番号 総務課(TEL) 054-263-5755

〃 (FAX) 054-263-5767

学芸課(TEL) 054-263-5857

〃 (FAX) 054-263-5742

美術館友の会事務局 054-264-0897

ミュージアムショップ 054-264-8926

レストラン「エスタ」 054-262-4226





平成17年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館 ©

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263) 5755

印刷：松本印刷株式会社

〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡 2210



Annual Report of
Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2005

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©

Printed by MATSUMOTO Printing Co.,Ltd., Shizuoka

Printed in Japan 2006